

圭陵会 平成25年11月

# 岩手医科大学歯学部同窓会

広報第28号

岩手医科大学

# 目次

## contents

巻頭言 .....	3
震災から2年半… ..	4
各支部での活動報告 .....	24
平成24年度活動報告 .....	43
平成24年度 第43回学術研修会報告 .....	46
平成25年度 第44回学術研修会報告 .....	52
歯学部組織構成員名簿 .....	58
平成24年度学位授与者一覧 .....	61
第106回歯科医師国家試験 大学別合格者状況 .....	62
平成25年度編入・新入生名簿 .....	63
大学役職員名簿 .....	64
歯学部同窓会役員名簿 .....	65
歯学部同窓会支部役員名簿 .....	66
学術研修部員名簿 .....	70
広報部員名簿 .....	71
休業時歯科医師派遣要項 .....	72
お知らせ .....	73
編集後記 .....	74

# 巻 頭 言



岩手医科大学歯学部同窓会

会長 城 茂 治  
(7期卒)

岩手医科大学圭陵会歯学部同窓会会員の皆様には、日頃から本部同窓会活動にご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

この度二期目の同窓会会長再任をご承認いただき、感謝申し上げます。これまでの1期3年間を振り返ってみますと実にいろいろなことが起こりました。その対応に追われ、当初掲げた目標に達成できていないというのが現状で、反省すべき点が多々あります。

一番大きな出来事は、何とんでも就任間もない東日本大震災です。その際には、先生方から多大なご支援をいただき、被災された会員の先生方に何とか支援することができました。勿論現在もまだ被災状況が改善されていない先生方もおられますので、今後は本当に必要な支援が同窓会として出来ればと思っております。

もう一つは、会長に就任した当時から本学歯学部の国試合格率の低迷、受験者数および入学者数の減少が続いており、歯学部として大変厳しい状況でした。平成24年度は募集人員75名に対して新入生39名という散々な結果となりました。これは歯学部同窓会にとっても準会員、ひいては本会員の減少にも繋がる看過できない事態でした。このような状況で同窓会が歯学部へ協力できる1つとして各支部の様々な会に同窓会本部から参加させていただき、受験生確保への協力を訴えてきました。お陰様で、今年は57名の募集定員に対し59名の新入生を確保できました。また2年生に12名の編入生も迎えることができ、結果として71名の同窓会準会員を迎えることができました。これに満足すること無く今後も受験生確保のための協力を推進する所存です。

さらに、先生方ご存じのようにハーバード大学と提携し、歯学部改革プロジェクトを2年前から進めております。本同窓会としてこのプロジェクトを支援するための基金を会員からの寄附という形で創らせていただきました。お陰様で、目標金額500万円

を上回る寄附をいただきました。しかし、寄附のうち1つの目的は、寄附を通して多くの会員に歯学部の改革プロジェクトに興味を持っていただく、歯学部が今どんな状況かということに興味を持っていただくことでした。残念ながら、ご寄附をいただいた歯学部会員は未だ一割にも満たない状況でこの目的は達成できておりません。したがって、歯学部改革プロジェクトが実施される間は、今後も寄附のお願いを継続する予定です。もちろんいただいた寄附金は、実のある改革に繋がるよう大切に使用させていただきます。

また、同窓会学術研修事業は会員に普く還元できる唯一の活動です。お陰様で、部員の献身的な活動により現在参加者は増加傾向にあります。さらに充実した学術研修会を提供できるよう会を挙げて盛り上げる所存です。多くの会員の参加をいただければさらにステップアップできると信じておりますので、ご協力をお願いします。

もう一つ、各支部からの意見が最も多く聞かれるにもかかわらず、未だに有効な対策がされていないものに新規会員の同窓会参画の問題があります。なかなか有効な手だてが無いものの本腰を入れて検討すべき課題と考えています。現状把握のために本部と各支部との会員名簿の突合と共に、諸兄、後輩のご意見を広く聞き、在校生の時から何とか同窓会員としての意識を芽生えさせる一手を打ちたいと願っています。

末文となりますが、会員各位の益々のご健勝とご活躍をお祈りすると共に、今後とも同窓会活動への一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

# 岩手、宮城、福島の3県支部から 震災から2年半…

2011年3月11日東北地方を襲った大震災から早2年半が過ぎました。沿岸地域は津波によって壊滅的な被害となり、今も避難者数約29万人が全都道府県に分散しています。その中今日まで復旧に懸命に取り組まれている先生方より寄稿文をいただきましたのでご紹介します。

## ■ 震災から2年半

岩手県支部 大槌町 10期 小松 元

2011年3月11日津波から逃げるために車を乗り捨て大槌町城山の高台に登った瞬間、周辺の家が津波にのみ込まれ崩壊していきました。(写真1、2)

私と妻は、2日間避難所で過ごした後、息子のいる盛岡へ移動し、1か月過ごしました。盛岡での1か月は、今後の見通しもなく不安な日々でした。そんな中、歯科医師会の大槌町への歯科相談に同行した際、ある患者さんから「先生早く帰ってきて」という声を聞き、大槌での仮設歯科診療所を始めることを決意しました。



写真1



写真3

私は、避難している大槌の3名の歯科医師に声をかけ、2年間という約束で合同の仮設診療所を始めました。仮設診療所は、歯科医師会及び大槌町



写真2

の援助により、震災から1か月後の4月中旬に、往診用ポータブルユニット2台の診療所を開設することができました。約8畳の仮設（プレハブ）は電気も水道もなかったため、発電機を使用し、もらい水をしながら、それぞれの医院のスタッフが協力し診療をしていくことができました。

その後、WFP（世界食糧計画）より大きなプレハブを無償譲渡してもらい、県の補助金により本格的な仮設診療所（ユニット5台）を4名の歯科医で7月中旬より開設することが出来ました。(写真3) 患者数は100～130名で昼休みもとらず20時ころまで診療したこともありました。2年間という期間を満了し、2013年3月13日に仮設診療所は解散しました。

私は親戚の土地を借用し、医療再生機構からの借り入れと県の補助金により、2013年4月13日自医院を再開することが出来ました。(写真4、5)

自宅を後回しに自医院の再建を優先したため現在もアパート暮らしが続いていますが、自宅の建設も決まり来年の3月に完成の運びとなりました。震災からちょうど3年にして、個人的にはやっと震災前の生活に戻れるような気がしております。



写真4



写真5

■ 高田の地より感謝をこめて

岩手県支部 陸前高田市 25期 黄川田康人

この度の東日本大震災に際しましては、皆様から沢山のお見舞いと、励ましのお言葉並びにご尽力をいただきました。厚くお礼申し上げます。この皆様のご厚情に対し感謝の一言でございます。

当時は、診療所を増築し2月にユニットを入れ終えたばかりだった為、開業時のものも合わせローン返済が何重にもなっていました。

しかし、その増築時の業者の方々のおかげで、あの混乱の中でも7月に仮設診療所を立ち上げることができました。

今回の震災により、家財や診療所は失いましたが、実家は幸いにも津波の被害を免れました。

出来るだけ迅速に通常の診療をさせて頂く為、かなり街外れであった実家を改装しての再開でした。

しかし、実家を改装し病院にするということは同時に、両親の寝室を解体し今は使われていない古屋に移動させるという事、93歳になる祖母の生活スタイルを変更させるという事、妻子の生活場所を確保できない事をも意味していました。

また、本当にこの地（市街地から遠くはなれた山奥）まで患者が来てくれるのかという不安もありました。しかし、必要としてくれる方がいるのであれば、その方々を出来るだけ早く診せて頂く事が、地元の方々に私ができる唯一の事であり、家族を守る術でもありました。

仮設診療所の改築にあたって問題とされたのは、業者の方々に工夫して頂いた建物の内外装に対してでした。

家族の生活の場を築150年以上の廃屋同然の古民家に移してまで、患者を中心にと考えての事でしたが、かえって県庁の方には見栄え良くでき過ぎで、これでは私的な財産形成にあたるのではないかと指摘されました。その為に、自己資金での出費が増える事になりました。

また、通院するにも町は何もなく、市外まで来る道すら分からない状態でした。そこで市と県に話して道路に看板を建てたところ、国土交通省の方が診療中に突然現れ、国の所有部分への立て看板撤去を指導されたこともありました。

今まで知りえなかったスタッフ間の人間関係の問題発覚、生活環境の激変による通勤困難、広田半島の付



震災前の病院



震災前の病院



被災後の病院



被災後の病院

け根の部分が津波で繋がってしまった為、瓦礫の暗闇を夜間に渡って行き来することに対する不安、続く余震での避難指示等で、不満や不安が募りスタッフの確保も困難になりました。

瓦礫は大分なくなり整理されはしましたが、復興状況の遅れにより、まだまだ街の形成までは見通しがたわず、このまま10



被災後の住宅居間



仮設歯科医院



仮設歯科医院

年などあつという間に過ぎてしまう様に予想されます。

道路整備においても、波で被害を受けた道路でなければ、街の状況が変わって必要になった新道路は、なかなか許可がありません。

住宅建築にしても、被災者においては利子補給はあるものの、誰もがこの数年で家を建てられる状況になる訳もありません。

被災地の区別もなく消費税は上げられます。

スタッフの一人は、『以前の住宅ローンも残っているので復興住宅を待って入居するしかない。その間に子供たちは学校を卒業し高田を離れ、夫婦だけの生活になるのだろう』と話していました。

私も同様です。

二重ローンの対策機構についても、二つの機構に相談した事もありましたが、破産宣告をする様な状況にある人でなければ対象にならないとの事でした。

利益が出ているところは対象にならず、それでも所得税はかかってきます。

思わず、『それは破産宣告しない者は、自分で何とかしろという事ですか。』と言ってしまいました。

この様な状況での皆様のお心遣いは、何ものにもかえがたい心の支えになるものでした。

受診される患者の方々も、皆さんストレスによる歯ぎしり・食いしばりにより、顎関節症・歯周病・カリエスが増えるばかりでなく、お酒を飲んで来院される方、いきなりユニットで泣き出してしまう方、過度な要求をگری押しする方など、心的ストレスによる問題はなかなか無くなりません。むしろ、しばら

くは癒えることはないと思います。

それでも、できる限り患者に寄り添い、向かい合っていくことが出来ればと思っています。

お陰様で、現在は本医院建設に向けて邁進しております。

場所の選定についても、金額の高騰や貸し渋り・売り渋りにより困難を極めました。今回の震災において、たくさんの方がお亡くなりになり、未だに行方がわからない方々も大勢いらっしゃる中、患者・スタッフ・家族とも無事であったことは奇跡であり、助けていただいた方々への感謝の気持ちを生涯忘れずに、家族と共に頑張っていきたいと思います。

## ■ 2年6ヶ月

岩手県支部 山田町 34期 内館 伯夫

記憶は、嬉しい・楽しい思い出を残し、哀しい・苦しい思い出を忘れる。そんな実感をもっています。

東日本大震災を五感で体験した私は、決して忘れてはいけないと思う理性と、自然に薄れゆく記憶の狭間にあって葛藤しています。私は津波を考えると哀しく、悔しくそして怒りすら覚えます。それは、日々の生活では必ずしも必要ではなく、自分が漸進する為、他の人と交流する際障害となります。しかし、忘れずに

それを何かの力にして生きていかなければならないのではないかという考えも浮かんできます。

生まれ育った山田町，新築2年の歯科医院，形あるものの損害からの復興は苦しくはありません。地元の先輩・後輩・同級生，多種多様な職業の方々などとの出会いの中で新たな絆やその深まりを感じ，心強さを感じます。

津波の直後，避難所に運ばれてくる多くの人々の手当・搬送をしながら父親の生存を願っていました。翌日，日の出とともに父親がいるであろう場所に行きましたが会うことはできませんでした。多くの遺体があり父親の死亡を確信しました。3日後，父親の同僚の方が父の時計を持ってきてくださり，母親に渡しました。4日後，父親の遺体と対面しました。

あの時から時間が止まっているその理由は，普段考えないようにしているからであり，一日の中でいたる所に父を思い出す場面がありすぎ，数秒で今でも涙が落ちてきます。

人それぞれ，失ったもの，震災の受け止め方・考え方が違います。2年6ヶ月経ったいま，自分の決断で判断し行動しなければなりません。そこに〈正解〉はありません。それは，法律でも縛ることはできないでしょう。

望むことがあるとすれば，被災者の哀しく・悔しく・辛いエピソードを多く知っていただき，知った方がそれぞれの生活の中で，苦難を乗り越える力に変えていただくことです。



震災前の役場からの町内



緑ヶ丘から境田方面 3.11 15:24:56



緑ヶ丘から境田方面4 3.11 15:25:04



山田町役場前



震災後の役場からの町内



山田町を襲った震災による火災



父親の勤務先の老人保健施設

## ■ 東日本大震災2年半を顧みて

宮城県支部 気仙沼市 1期 猪苗代盛昭

私は、宮城県気仙沼市に住んでおります。2年半前の東日本大震災を境にして、私の生活は一変してしまいました。

人間の力がいかに弱いものか……。被災者が、個々の生活の中で、行政を中心とした復興計画、そして再建に乗り出す時期、今までの生活習慣、自分の土地を利用する事が出来ないジレンマ、そしてその時の年齢と決断等、その時、その時に考えなければならない種々の問題等、そしてトラウマ！！

私の場合、9ヶ月間何もする事が出来ず、只毎日毎日を幸いに残った自宅での今後の対策を講じる事しかありませんでしたし、何よりも身内に2人の行方不明者がいた事が心の大きな問題でした。後で「何故会に連絡しない？」と言われた時、「この人達は何様」と逆ギレしたものでした。

電気、水道が回復したのは47日後の事で、今思うとその間の生活が本当に大変でした。私の診療室は法人組織の5階建ての2階にあり、亡き父が「お前はここでやれ」と昭和53年9月に、賃貸で開業しました。そして10年後には支部会長となり、休日当番制や、適正申告モデル地区など、当時の理事会や会員の協力で設立した事は今でも若き日の思い出として残っています。しかしながら「十年一昔」とは本当に良く言ったものです。執行部を離れて20年近くなって、若い人がどんどん出て来て、古き良き伝統などを乗り越し、「今、今の状況対応」となってしまった時に、このような大きな震災が起こってしまいました。私は4月から全国の歯科医師会から派遣されたチームのコーディネーターとしてボランティア活動をし、派遣チームに御礼を言いながらも道案内として過ごしていました。その時感激した事に、派遣チームの中に後輩の先生方がいて、声をかけていただき、励まされた事でした。北海道、長野等は後で手紙迄いただき励まされ、援助物資を送って頂きました。このような先生達は地元でも「人間味あふれた診療をしているんだろう」と想像するだけで楽しくさえなりました。

電話も47日間通じず、3週間後に初めてケイタイを持たされました。その間にも救援物資を送って頂いたのは、卒業して以来一度も合っていない学友の多くでした。40年以上も合っていない友からの送り物には本当に励まされ、背中をおされる感じがしました。そして心から「ありがとう」と叫びました。電話が通じるや、いかに私の消息を探していたのかを切々と話してくれた友、学生時代のまんまの声で心配してくれ、数々の援助物資など本当にたくさん送って頂いた事は、今でも妻と感謝しています。又、医局時代の上司だった先生からも身にあまる言葉や、貴重な大工道具一式を送っていただいた事も忘れられない事でした。この大工道具は本当に働いてくれました。

暖かい心遣いに感謝の日々を送った思い出が残っています。

被災者として、岩手医大圭陵会や歯学部同窓会から御見舞金を頂いた時は、仕事を失い、それが賃貸関係の為補償金は一銭も出ず、自宅は一部損壊の為こちらも公金制度からはずれ、どうやってまず生活を考えると時期だったので、当然の様にもらってしまいましたが、心の中では「ありがとう、ありがとう」の思いでした。感謝の受け取り状を出すのが精一杯でした。そして素晴らしいこの制度が又別の所での災害等に活用されればと思っております。

人それぞれ今回の災害では本当に明暗があったと私は思っております。そして人は自分で自分の人生を切り開いていかななくてはならないという事は、年齢、経験、地域に係わらないという事も経験しました。そして本当に「頼るべき会」はどこに行ってしまったのだろうと思っております。

実際に経験して「頼るべき会」は会員に平等に相談すべき物であり、判断すべきものであり、そして相手の気持ちを聞いてくれるものでなくてはなりません。「私はこれだけやっている」そして出版物にはいかにやったかを記事にしている様なものばかりです。

私が経験した仮設診療所の体制、どさくさにまぎれた検死歯科医師の募集方法、そして援助物資の配布方法、本当に残念に思っていると同時に「人の心はわからない」事を実感しました。

そして今年4月から隣町の登米市にアパートを借りて歯科診療を行っております。それは本当に「頼るべき会」がこんなにも違うのかと思ったからです。

私がモンモンと日々を送っていたのを聞いたのは、これ又同窓会の後輩の先生でした。「2月に急死されたクリニックが閉院になりそうです。院長の代わりとして勤めていただけないか？」という話が電話であり、自分も3~4回実際の医院とスタッフなどと話し合っ「お手伝いしましょう」という気持ちになってしまいました。1年近くモンモンと過ごした仮設診療所の事を考えれば「やってあげたい」という気持ちでした。

人生何があるかわかりません。「登り坂」「下り坂」、そして「マサカ」という時、一番大切なのは「真実」と「思いやり」と言う言葉です。そして自分に合った場所選びではないでしょうか？

今回の大震災を経験して、ようやく自分の道を見つけた今日この頃ですが、この先本当の未来に向けて、一日一日を大切にしたいと思っています。あれから2年半も過ぎました。あの時にいただいた多くの御好意に「感謝」という言葉で日々頑張りたいと思っています。

ありがとうございました。母校の発展を祈念しております。

## ■ 東日本大震災後の現況報告

宮城県支部 石巻市 2期 鈴木 肇

あの3月11日の東日本大震災から2年半が経過しました。この震災でお亡くなりになられた方々、未だに行方不明になられている方々、そして被災に遭われたすべての人々にお悔やみ、お見舞い申し上げます。幸いにも私の家族、兄弟姉妹、親戚関係に死者、不明者、病人、怪我人が出なかったのは不幸中の幸いでした。私の石巻市の居住区は、海岸線より1キロ以上は離れていて、しかも自宅、隣接の診療所は道路より1メートル程高く土盛りされて建っていましたが、それでも地震後の大津波により床上7~80センチの浸水に遭いました。辛うじて自宅2階へ緊急避難出来ましたが、それから2日位は水は引かず、携帯電話も機能せず、インフラの何もかもが麻痺した状態で不安な数日を過ごしましたが、3日目くらいから制限はありましたが何とか道路が歩けるようになったので、行ける範囲で連絡を取ろうと動き始めました。水も電気も無いまま（水は2階に少し備蓄していたものがありました）給水車による給水や電気が通じるまでの2週間ほどは、家族で、又は兄弟姉妹、親戚同士、近所の方々同士でやりくりして生活しておりました。4月に入る頃から携帯も安定して通じ始め、友人始めいろいろと連絡が取れるようになり大分安心感が増してきました。自宅、診療所共、大規模半壊（全壊扱い）でしたので原住地に住めるか、診療も再開できるか不透明でしたが、兄弟姉妹、親戚、大学同期の友人達、県歯同窓会・圭歯会、県歯会、日本歯科医師会、圭陵会同窓会、自衛隊の方々、ボランティアの方々、その他各方面からご支援、援助していただいて、その年の9月初めに現住所に何とか診療再開することができました。これもひとえに皆様方のおかげと感謝いたしております。

現在は、自宅住居の一階部分を段階的にリフォームしながら診療も続けております。何時もリコール等にも応じられ通院されていた患者さん達も多数お亡くなりになりましたが、まだ当診療所を必要とされている方々がおられるので、診療意欲と健康状態が許す限り続けて行こうと思っています。

改めて、復旧復興に携われ、ご支援、ご援助していただいた方々に敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。



2011(平成23年)3月28日頃  
状況 道路は通行できるようになったが、駐車場には流されて来たボートや車、コンテナ、その他が未だに取り除かれずになっている状態。

## ■ 東日本大震災を体験して

宮城県支部 石巻市 6期 泉谷 信博

まず初めに、今回の大震災後圭陵会本部、並びに圭陵会会員の先生方には物心両面から多大なる御支援、御厚情を賜りましたこと深く感謝申し上げます。そして、犠牲になられた会員の先生並びに御親族、スタッフの皆様の御冥福を御祈念申し上げます。

平成23年3月11日午後2時46分、患者のキャンセルにより院長室に居ました。これまで体験したことの無い強い揺れと、瞬時に電源の喪失が起きました。物が散乱し、自分の携帯電話も紛失しました。咄嗟に外に出ました。外壁が一部剥がれ落ち、機械室のコンプレッサーが扉を破り転がってきました。「90%以上の確率で発生すると予知されていた宮城県沖地震はこれか」という気持ちと、カルマからの開放を感じました。(実際は予知された場所では無いとのことでした。)スタッフに片付けは後でいいから、内陸の方へ避難する様に指示し、自分は妻に促され、白衣の上にダウンを着て孫をむかえに幼稚園に向かいました。防災アナウンスで津波警報発令はありましたが緊迫感はありませんでした。基準となる津波は1960年発生のチリ地震津波でした。何の疑いも無く頭の中では一旦避難し、すぐに戻れると考えていました。現実には診療所、自宅も津波にあい約1週間70cm程の塩水(ヘドロ)に浸っていました。機械類は完全に機能マヒでした。今思うと偶然が重なり生かされたと思います。約1週間後、身元確認業務に参加した。新潟県、山形県、兵庫県等の歯科医師会の先生方に大変お世話になりました。「自分達も経験があるので、被災された先生は、宜しいので自分達にまかせて下さい。」と言われた時は、本当に涙が出ました。4月頃から当会副会長の鈴木徹先生(7期)と二人で8月まで石巻口腔センター(歯科医師会)でほぼ毎日ボランティア団体の方々との対応業務、仮設歯科診療所の設置に関する業務等を行い、私は震災から6ヶ月後、鈴木徹先生は1年2ヶ月後、診療所を再開しました。平成25年5月24日、公益法人福岡県歯科医師会学術委員会委員長で「東日本大震災を考える会」の鴨川卓也先生らの要請を受けて鈴木徹先生と当会学術理事の千葉隆広先生(19期)と一緒に「東日本大震災で何が起きたか」という演題で報告会を行って参りました。福岡県歯科医師会ははじめ九州の歯科医師会の先生方には震災後の身元確認や救護活動等御支援を頂いた事もあり、その恩に少しでも報いるためと思い自分達の被災状況、その後の対応、現状等を報告して参りました。

約170名の聴衆者を得て皆様熱心に耳を傾けて頂いた事は本当に有難い一言に尽きました。そして翌日の5月25日は城崎泰雄先生(5期)のお声掛けで岩手医大歯学部九州支部の先生方ら20名の参加を得て、報告会を行いました。久々にお会いする先輩、同級生同窓生の先生方と楽しい時間を持たせていただきました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。震災から2年半になろうとしている現在ですが、診療所、自宅共に応急補修で住める機能は確保していますが、外壁等は足場を組んだままの状態です。人材不足、資材不足が重くのしかかっています。今回の大震災で数多くの方々の御支援、御厚情を頂きました。震災を機に多くの方と交流を持つこともできました。何かの必要性があって今回は生かされたという実感と、今、そしてこれから自分が出来ることを、精一杯世に還元する生き方をしたいと思います。

## ■ 東日本大震災を顧みて

宮城県支部 石巻市 6期 及川 芳明

3月11日、午後2時46分。私は2階の診療室で患者さんを診察していた時、今まで感じたことのない大きな揺れを経験した。患者さんと従業員の悲鳴。建物がつぶれるかと思う揺れが2分から3分続いたように感じられた。治療室は現像器、消毒器などが飛んで、足の置き場もない状態。5名～7名いた患者さんをすぐに帰し、散乱した器具の後片付けをして従業員に帰るように指示して外を見ると、津波がすでに襲来していた。地震からどれくらいの時間が過ぎていたか、今もってわからない。すぐに妻と従業員3人で3階の子

供部屋に避難した。外では市役所の拡声器からサイレンが鳴り響いている。何を言っているかは聞き取れない。

雪の降る中ベランダに出て外の様子を見た。5m位の真っ黒い津波が車とガレキと共に押し寄せて来た。電柱をなぎ倒し、轟音と共に近所の住宅を破壊した。北上川の水面が私のベランダの高さよりも高く見え、恐怖心がわいてきた。津波は夜中まで20数回押し寄せてきたように思われる。冷蔵庫から食べる物を寄せ集め、その晩はなんとか過ごした。

次の日従業員を帰宅させ、私と妻は避難所の公民館に行った。公民館までの距離は200mほどしか離れていないが天国と地獄のようだった。避難所1日目は食べ物は無し。2日目にコンビニの期限切れのおにぎり1個を3人で食べて下さいと支給される。最初避難民は70人ほどだったが、あっという間に200人になった。これではダメだと私と向かいの旅館の社長、自動車学校の社長で米の買い出しに。朝3時から3日かけて米30kgを26袋、少々の野菜、肉などを買い集めた。

避難所で午前11時に食事の支度を始めたが、水は自衛隊の給水車が来て、18ℓのポリバケツに20個置いていった。米は1回洗い、その洗いは食器洗いに使った。とにかくガスも自宅

からミニクックとかを持って行き対応した。食事は1日1回。2～3日は皆会話もはずんでいたが、4～5日経つと、気分がいらいらして、喧嘩とか口論が始まる。私も妻も限界だと思い、避難6日目に友人の家に居候させてもらった。

歯科医の私が内科、精神科の相談を受け、対処した。避難8日目に妻の実家から弟と父が迎えに来て、仙台の実家でお世話になった。

2～3日して、石巻で仕事を再開するためにバスで石巻・仙台間を通い、電気、電話、



水道、歯科のコンプレッサー、バキュームユニットなどの修理、新しい機械の入れ替えを行った。

近所はガレキと泥で通行も出来ないほどでしたが、津波翌月の4月25日より、診療が再開出来ました。これは皆様のお力添えによるものと感謝しております。建物の修理は昨年12月頃にだいたい終わりました。まだまだ未熟ではございますが、石巻の地域医療の為に少しでも貢献したいと思い、挨拶に代えさせていただきます。(写真は全て「震災1週間後の自宅一階」)

## ■ 大震災からの復興

宮城県支部 気仙沼市 12期 菅野 健

先ず、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に際しては、岩手医科大学、同歯学部同窓会始め多くの皆様から頂きましたご支援に改めて感謝申し上げます。

私は大震災により、診療所を全壊、自宅を大規模半壊の被災を致しましたが、賃貸で私設仮設診療所を準備することができ震災の1ヶ月後に診療を再開し、自宅も8ヶ月後に修繕を終えました。しかし、地震による地



大震災1週間後の診療所

盤沈下のために診療所跡地は建築規制区域となり、診療所の再建の目処が立たないまま現在に至っています。

私は震災直後から気仙沼歯科医師会（気仙沼市と南三陸町）の会長を務めていますので、当歯科医師会の復旧状況にも触れておきたいと思います。大震災以前の34件の歯科診療所、病院歯科のうち全壊14件、大規模半壊6件、また46名の会員のうち3名が死亡する等、当地域の歯科関連の被害は甚大であり、ライフラインの再開に伴い直ちに診療を再開できたのは10件に過ぎませんでした。全壊した個人診療所13件（他1件は町立病院）のうち、移転再建を果たしたものは僅か2件（支部内1、他支部転出1）のみで、廃院5件、仮設診療所5件（宮城県設置3、私設2）、他支部勤務1件と復旧とは程遠い状況が続いています。これは、地盤沈下による建築規制や津波による医療設備全ての損壊とそれに伴う大きな経済的負担、さらに宮城県による被災医療機関に対する極端に少ない助成金などの要因が重なった結果であると考えています。



現在の診療所跡地

大震災から2年6ヶ月が経過しようとしています、なかなか進まない計画的な「復興」と規制区域外で我先に進む無秩序な「復旧」のコントラストが際立って来ているのが、被災地の現状であることをご報告致します。

## ■ 感謝

宮城県支部 仙台市 19期 金野 俊之

今回の大震災における仙台市の被害は、若林区においても甚大なものがありました。

東部団地金野歯科医院は、若林区鶴代町の東部工場団地福利厚生会館の2階にあったのですが、地震により軽量鉄骨が大きく変形し、テナントを区切っている間仕切りが全て壊れ落ち、天井の多くが落下しました。大地震による軽量鉄骨の変形はすさまじく、まるで鉛細工を見ているようでした。

私が歯科校医をしております七郷中学校は、震災後の調査で震度7であったことが新聞で報じられました。校舎はいまだに立ち入り禁止の部分もあるようです。東部工場団地も、それに近い大きな揺れだったそうです。

地震直後は、スタッフと待合室で肩を寄せておりました。いつもはすぐに収まる揺れが多いのですが、尋常ではない長く大きな揺れを感じ、待合室のテレビは、固定してあったにもかかわらず台から落ち真横に飛びました。受付のカウンターも大きく壊れ、コンピューターのディスプレイ、キーボード、カルテ、文具類などが広範囲に散らばりました。診療室内では、レントゲン室が崩れ、ユニット一台、パノラマレントゲン装置のアームが破折し、使用不可能になりました。駐車場に面する大きなガラスは粉々に割れました。ほとんど全ての引き出しと引き戸が開き、飛び出した中の器具器材は落ちてきた天井板、壁板、埃の中に埋もれてしまいました。震災直後、歩ける床は少しもありませんでした。埃と染み込んだ雨、崩れ落ちた壁天井で、医院の中は泥だらけになりました。

揺れが少し落ち着いた頃、スタッフと非常階段から避難したのですが、地上に降りて振り返って見ると、非常階段は大きく傾き、今にも倒れそうでした。それを見たときのぞっとした恐怖は、今でもはっきりと覚えております。

近くの工場の方々と、雪の降る中、呆然としていた時に、自転車で来られた方が“津波が来るぞ！”と大声で叫んでおられました。その時は、地震で津波など来るのかと正直思いました。

実際のところ、若林区では、津波は産業道路（若林区から多賀城市につながる幹線道路）と仙台東部道路で遮られ、それより西（内陸部）にあまり入ってきませんでしたので、医院までは来ることはありませんでした。しかし、医院のほんの1キロ先では、多くの方が犠牲になっておられました。大変痛ましい事でした。

津波が来なかったおかげで、私は思い出の品々をいくつか拾い集めることができました。幸せでした。

余震に注意しながら、再開に向け家族と毎日通いましたが、片付けには1月近くかかりました。毎日毎日、処分しなければならないものをダンボールに詰め、ガソリン節約のためエンジンをふかさないように廃棄場に運ぶ、その繰り返しでした。ある程度片付いたところに4月の地震が起き、2階での再開が出来ない事、2階はしばらくの間立ち入り禁止にする事を、建築会社の方に言われました。

歯科医師会の先生方、東部工場団地組合、他多くの方々のご支援のおかげで、同じ建物の1階で再開できたのは、7月31日のことでした。本当にうれしかったです。再開後、多くの患者さんに戻って来て頂きました。場所柄、私よりつらい思いをされた患者さんが多いのですが、医院の再開を喜び、お声をかけていただける事が心からありがたかったです。

岩手医科大学同窓会の先生方より多くのご援助を頂戴しました。本当にありがとうございました。

皆様方に助けていただいた事をしっかりと胸に刻み、充実した毎日毎日を過ごして参りたいと思っております。



震災直後の診療室内部



天井、壁が崩れ落ちたスタッフルーム

■ 南三陸の歯科診療所 震災・その後と現在の報告 宮城県支部 南三陸町 19期 佐藤 長幸

2011年3月11日午後2時46分に起きた東日本大震災による津波のため、東日本の太平洋沿岸地域は大きな被害を受けました。2011年6月時点の報道では私の住む宮城県南三陸町は被災前の総人口17,382人に対し被災による人的被害は死者・行方不明者合わせて1,206人。建物の罹災率61%。特に町中心部にある志津川地区では罹災率75%と甚大な被害でした。被災時、町は通信、電気、水道、交通、などほぼ全てのライフラインを失い、またすべての医療機関は全壊し、壊滅しました。

その後、携帯電話通信の復旧には10日間、電気の復旧は3カ月間、上水道の復旧には4カ月間時間を要し、震災から5カ月が経過した8月下旬に南三陸町のすべての仮設住宅が完成し、学校や宿泊施設などに設けられた避難所が閉鎖されたのです。

私はその南三陸町志津川地区で1993年に歯科診療所を開業しました。震災時は私を含む職員、患者合わせて13名が診療所にいた状況でした。結果的に診療所や自宅を含む町役場周囲約2km四方の平地の建物はほぼ全て流失する被害にも関わらず、患者とスタッフ全員が避難に成功し、自宅にいた私の家族らもみな避難して無事であったことが不幸中の幸いです。

震災後は北上市の小山浩平先生のお世話になりながら、3/25より気仙沼歯科医師会が南三陸町ベイサイドアリーナ避難所で移動歯科診療車を設置して行なった救急歯科医療活動に参加しました。その後、4/6から南三陸町戸倉地区 志津川自然の家避難所に宮城県登米市歯科医師会 大坂博伸先生、栗原歯科医師会 小田島正博先生が中心となって設置された仮設歯科診療所に拠点を移し、7月末まで被災住民の歯科診療に当たることとなりました。

被災した診療所は震災の前年度と3年前に2度投資して増築・リニューアルしたばかりでした。当時は様



被災前：佐藤歯科クリニック



2011-03-25

自衛隊から派遣された歯科医師らと（佐藤歯科クリニックにて）

変わりした地域を見渡しながら、その後の身の振り方については大変難しい選択を迫られました。

震災から9カ月経った12月、私は南三陸町に隣接する宮城県登米市に診療所を新設して再度開業しました。新しい土地で出直しです。登米市には南三陸町の仮設住宅や見なし仮設住宅が多くあり、市内に公立志津川病院も移転開設されています。2000人を超える避難住民が登米市で



2011-12

グリーンヒルズ・デンタルクリニック



2012-2月

佐藤歯科クリニック

生活をしている報道です。再度開業して懐かしい患者さんの顔を見ることが出来たのは幸せです。

この度の震災に当たりまして、城先生はじめ同窓会の先生方には温かいご支援を賜り感謝申し上げます。またここに書き入れられないほど、岩手医科大学に学んだ事で出来た多くの人との繋がりに助けられました。励ましを頂いた事は忘れられません。それから頂戴したご支援は開業時の歯科材料・機器の購入費用の一部に使いました。この場をお借りいたしまして深くお礼申し上げます。今後は地域への歯科医療を通してご支援に報いる事ができるよう努めて参ります。ありがとうございました。



2011-4月  
復旧が始まった南三陸町

## ■ 私の東日本大震災

宮城県支部 石巻市 25期 川島 弘

2011年3月11日午後2時46分、私は、今までに体験したことがない大きな揺れに襲われました。治療中の患者さんをユニットから降ろし、揺れが収まるのを待ちましたがなかなか収まらず、診療所が壊れるのではと不安になりました。ほどなくして揺れが収まり、2名の患者さんは自宅が心配だということで帰宅し、一名は一人暮らしなので不安だということで、待合室で一緒に待機することになりました。

外に出てみると電線は切れておりあたり一帯は停電していました。その時はまだ津波が来るとは思っておらず、落ち着いたら片付けをして自宅に帰ろうと思っていました。

ほどなくして、診療所前の道路は渋滞でほとんど車は進めない状態になりました。地震発生から30分くらい過ぎたころでしょうか、辺りが急に騒がしくなってきたので、外に出てみると「大きな津波が来るから逃げろ」との事。慌てて中に戻りおばあさんを背負い、スタッフを連れて近くの小学校まで走りました。学校に着くと2階より上に行くようにとの指示を受け3階へ向かいました。直後、3階の窓から下を見ると校庭に止めてあった車が次々と流されていく光景が目に入りました。

妻からは近くの小学校に子供と避難するとのメールがあったきり連絡がつかなくなり、父からも一度電話があったきりで連絡がつかなくなってしまいました。そのまま、夕暮れを迎え不安な一夜を過ごしました。

次の日、診療所に行こうと思えば外に出てみると、辺り一面がれきの山となっていました。それは信じられない光景でした。診療所へ行くのは断念し、スタッフと話し合いそれぞれ自宅を目指す事にしました。診療の再開については、何か状況が分かり次第連絡する事として別れました。

途中の道路は寸断されがれきの山となっていました。1日目は石巻市内はどこも浸水しており、自宅にたどり着くことは出



2011.3.25



2011.3.25



2011.3.25



2011.4.1

で一部は流失していましたが幸いにも、建物は補修が出来るような状態だったのですぐに再建に向けて動き出すことにしました。電気、電話がなかなか復旧せず6月になりやっと回復して、7月より診療を再開することが出来ました。診療を再開するにあたり、圭陵会、圭歯会をはじめ多くの方からのご支援いただき本当に助かりました。心より感謝申し上げます。

これからも、地域に根付いた診療を続けていきたいと考えております。診療所周辺は住宅も減り不安なことも多いのは事実ですが、前を向いて歩いていくつもりです。

来ませんでした。2日目、意を決して腰まで水につかり途中JRの線路上を進み何とか自宅までたどり着きました。自宅はアパートの二階だったので、浸水の被害は免れましたが、ぐちゃぐちゃにものが散乱していました。家族の姿がないので、近くの小学校に探しに行き、無事を確認した時にはホッとしました。その一週間後に私の父が迎えに来てくれ、実家に戻りました。

それから2週間くらいたった後でしょうか、車の手配がだったので診療所を見に行くことが出来ました。中はぐちゃぐちゃ

## ■ 震災被災者たちの現況

福島県支部 須賀川市 8期 田代 直也

東日本大震災から2年半が経過しました。福島県は地震、津波に原発事故が加わり、いまだに地元に戻れない住民も多くいます。終息する日はいつになるのか全く不透明の中、身の振り方を決めていかななくてはならないという苦悩の中におられる会員も、少なからず見うけられます。

今回、特に被害の大きかった10名の現況についてお伝えいたします。

震災による津波により本県同窓会で唯一犠牲となられた黒沢恒平先生（6期）。奥様である真妃子先生（8期）は当初、診療をやめようと思われたそうですが、患者さんの声、同窓生をはじめとする周囲の励ましもあって、1ヵ月後には診療を再開しました。恒平先生の大きさを実感する毎日であったそうですが、同じく被災した南相馬市の加藤悟郎先生（11期）に1ヶ月ほどお手伝い頂き、その後はお一人で診療に従事され、現在も震災前よりは診療時間をやや短縮してはいるそうですが、元気に働いているとのこと。

笹原健児先生（20期）は新地町の診療所、自宅が津波のため全壊となりました。当初、小学校の理科室を借りて応急的な処置を行っていましたが、その後は商工会より仮設店舗を借りて診療を行っております。来年の3月からは、新地町に移転してくる病院の歯科に勤務されるということです。

佐山彰一先生（12期）は、原発事故の影響で大熊町より群馬県前橋市に避難しています。その後は東京などから通院していた患者さんを、同級の先生の診療所で診ていたそうですが、今年の9月1日より前橋市に診療所を開設いたしました。

富沢史子先生（12期）も、原発事故の影響で双葉町より秋田市に避難していました。秋田市では診療所に勤務していましたが、今年のお盆過ぎに盛岡に引っ越してこられ、新たに勤務医として働いております。

新妻俊商先生（12期）も、原発事故で広野町より東京に避難しましたが、23年8月1日より福島市で開業いたしました。奥様と3人のお子様は東京に残り、単身赴任で頑張っておられます。

高澤文彦先生（16期）は南相馬市より、秋田県北秋田市に避難しております。北秋田市では現在も診療所に勤務しております。南相馬市の診療所は原発から20km位の所に位置するそうですが、除染の問題および住民の減少もあり、今のところ戻る予定はないとのこと。

古内秀幸先生（23期）・恵先生（26期）は、川内村より当初大阪に避難しました。その後郡山市の仮設住

宅に移り住民の相談に応えたりしていましたが、23年10月に仮設住宅地内に仮設診療所が完成し、24年の4月まで診療を行っていました。その後は川内村国民健康保険診療所に戻って診療を行っております。診療所は被害も少なく、除染を行い使用しているそうです。ただ、家族は大阪に残り単身赴任の状態だそうです。

河田祥一郎先生（31期）は震災後、南相馬市より秋田県能代市に避難しておりましたが、24年4月より南相馬市の元の診療所に戻って診療を再開いたしました。幸い、建物、機械に被害はなかったそうです。河田先生も奥様と二人のお子様は仙台に住まわれており、行ったり来たりの生活だそうです。

私自身も、郡山市の南隣の須賀川市に住んでおりますが、震度6強の地震で建物が全壊いたしました。5ヶ月ほど休診を余儀なくされ、23年8月より中央商店街の空き店舗を借りて診療を行いました。診療所、自宅を建て替えまして24年8月より当初の場所で診療を行っております。

この他にも多くの先生方が被災されましたが、皆元気に診療に従事しているようです。今回被災された先生方のお話を伺ってみると、同窓会・同窓生には大変お世話になり力づけられたとの言葉を多く耳にしました。特に同級生・クラス会の励ましには大いに勇気付けられたようでした。未来への大きなつけを残されてしまった福島県ですが、同窓生の方々にも関心を持ち続けていただくようお願いいたします。

## ■ 福島第一原子力発電所事故がもたらしたもの 福島県支部 大熊町 12期 佐山 彰一

一連の被災に対して同窓の先生方にはたくさんのご配慮とご心配を賜りまして深く感謝しております。

震災の被害は少なく瓦が数枚落下し、柵などが倒れた程度でしたので、数日後には通常の診療を再開できたことでしょう。原発事故さえなければ、これまでどおりの生活を続けていたことでしょう。

原発事故は、大きな変化をもたらしました。そのことについて述べていきます。

そのためには、事故の「前」、「後」について触れなければなりません。

その後で、今思っていることをまとめたいと思います。さらに、福島県双葉郡で仲間とともに実現しようとしていたことに触れ、その延長線上でこれから取り組んでいこうとしていることに話を進めます。

### 事故前

平成元年に福島県南相馬市の実家より約16km南の大熊町に歯科医院を開設しました。福島第一原子力発電所からは南西4.5kmほどのところでした。

事故直前の双葉郡、大熊町の人口は7万4千人、1万1500人ほどでした。

この地は、雪がほとんどなく夏涼しく冬暖かいところで、豊かな自然にも恵まれ、とても住みやすいところでした。

原発立地地域には、交付金があったためそれをうまく利用していた大熊町は財政的にもとても豊かでした。周囲の町村はそうではなかったのですが。人口約1万人の町には不釣り合いな立派な体育館、図書館、健康増進センターなどがあり、これらは交付金により建てられたものです。

町の隅々まで下水道は完備されていました。問題は、交付金の使い道が「箱物」を作ることに限定されていたことです。

最近では、別な使い道も認められるようになってきていますが。

以前は、「ひとづくり」とか「原発に頼らず町を発展させるシステムの構築」などには使うことができなかったのです。

「箱物」を作った後の維持管理に要する費用は、町が負担しないといけなかったのです。

つまり、立派な「箱物」ができればできるほど町の負担は億単位で増加していったのです。ほとんどの町村の財政は、交付金を利用するほど悪化していくような仕組みがあったのです。大熊町の豊かさは、資産運

用の成功と前志賀町長の堅実な施策にあったと思われま

す。大熊町以外の双葉郡町村はとても厳しい財政状態でした。

そのため、いったん原発の恩恵をこうむった自治体は原発の増設を望むようになってしまうのです。この地域も例外ではなく、原発を増設しようとしていたところ

です。このような負の仕組みが、国や東京電力によって作られていったと言っても言い過ぎではないと思っ

ています。また、地域住民も創意工夫、努力、研究して原発に頼らず自らの力でこの地域を発展させようという意欲が少なかったように思います。意欲を持たせないような政策がとられていたとも言えます。

豊かなイメージの影でこの地域で緊急の治療を要する病気になったときには全国平均の5倍ほど死亡率が高かったのです。原発は、安全、クリーンだといった内容の講演会が年に何度も東京大学などの教授を招いて行われていま

した。「原発は、何重にも守られているから何があっても安全だ」というお知らせがこの地域には常に流されてい

### 事故前の放射能問題

ました。これほど執拗に安全性を強調するということは、相当危ないものだろうと思ってはいたものの私自身も安全神話を信じていたのです。

大熊町に住んでいて気づいたことがいくつかあります。

(1) 甲状腺疾患のある患者がとても多かったということ。

開業当初は、近くの大野病院に甲状腺に詳しい先生がいらっしゃったこともあって甲状腺疾患がかなり多かった。かなりです。

(2) 南相馬市、双葉郡は福島県の他の地域よりも病気が多かった。

南相馬市の保健所での会議の席でこのことを知らされたが、医療機関が少ない地域なのにどうしてなのだろうとずっと思っていました。

(3) 原発作業員の白血球の破壊

近くの内科の先生より、作業員の白血球に問題があることを教えていただいたことがあります。

以下の2点は、事故後にわかったことです。

(4) 原子力発電所建屋の中よりもその外のほうが線量が高かった。

事故後、友人に知らされたことです。

常に微量の放射性物質が環境中に漏れていたことを意味します。

(5) 世界中の原子力発電所の稼働と病気の増加は関係が深い。

ピッツバーグ医科大学放射線科、放射線物理学名誉教授アーネスト・スターングラス先生が2006年青森で「放射線と健康」と題して公演されています。ご興味のある先生は、ぜひ講演まとめを探して目を通してください。原子力発電所は、通常稼働していても健康被害をもたらす可能性があるということです。

### 原発事故直前に起きた事件

2011年2月21日夜遅く、友人のSさんより電話があった。「このままだと脳梗塞になります。原因は、背中の筋肉のコリなので、Hさんの施術をすぐ受けてください」という内容でした。

Sさんは、誠実で仲間を大切にされる方で特殊な感覚を持っているようです。Sさんのアドバイスには、無条件に従うのが良いということを誰よりもよく知っていたのですが、そのときはとても忙しく、3月3日の施術の約束を取るのが精一杯でした。そして、3月2日の朝、仕事に突然右腕が思うように動かなくなりました。

予告されていたこともあり、すぐ病院に向かいました。一時は、体を思うように動かすことができず、きちんと考えることもできない状態でした。

もちろん、診断は脳梗塞でした。専門医院で治療を受けながら同時に仲間のアドバイスに従い、西洋医学以外の治療法も併用していました。

併用の効果があったためか、看護師さんに他の同様の患者よりも3倍は早く回復しているように見えると言われたことを覚えています。

そして、3月11日、点滴中に地震があり、大きな揺れと時間の長さにより原発は大丈夫だろうか、と思いました。すぐに、自宅へ戻ったのですが、途中見たほとんどの家の塀が倒れ、道路のほうほうから水が吹き出していました。

自宅に戻ると、家・診療室の被害は少なかったのですが、駐車場の車は2メートルほど移動していて、人生において最大の地震であったことを示していました。それでも数日後には通常の診療ができると思っていたのです。

11日夜11時頃、近くに友人Mさんがやってきて、「原発関係者が前のホテルに戻ってきているが、電源を喪失していてどうにもならないと言っている。このままだと爆発だな」と笑いながら伝えてくれました。

このようなことを話題にしながらも、この友人も私もまだこのときには、「原発の安全神話の呪縛」の中にあつたのです。このとき一緒に見た星がなんと美しかったことか。

3月12日の朝6時ころ、町より「窓を開けないように」という放送がありました。さらに1～2時間後に、原発に問題が生じたのでバスで避難するようとの指示がありました。外には、たくさんの県外ナンバーのバスが並んでいて、町民が次々と乗り込んでいました。放送を聞いていた多くの住民は、すぐに戻れると思いつながらバスに乗ったに違いないと思っています。放送からは、深刻な問題が起こっているとは読み取れませんでした。

後に知ったことですが、3月12日午前2時頃大熊町を出た知人は、防護服を着た人々が路上に何人も立っているのを見たと言っていました。

また、地震から2～3時間後には、双葉町で高い放射線量が観測されていたことを福島県は2年以上たつてから発表しています。つまり、3月11日の時点で深刻な状況が起こっていたにもかかわらず、すぐには一般市民に知らせていなかったのです。

私の場合、野鳥と2羽の文鳥を飼っていたため、自分の車で避難するしかなかったのです。というのは、この野鳥を見られなくなかったのです。

3月の寒かったこのときに、もしバスに乗って避難所に入っていれば、病気が悪化していたかもしれません。より多量の被曝をしたことは間違いないでしょう。

11時ころに、神奈川県に住む知人と連絡がとれました。彼は、原発が爆発しそうなので、できるだけ遠くに避難してくださいと言いました。すぐ近くのガソリンスタンドに行き、ガソリンを入れたのですが、私の車が、給油できる最後の1台でした。

もし数分遅れていたなら、この地から避難できることができなかつたと思うとぞっとします。

1号機の爆発を、白河市通過中に聞きました。12、13日は宇都宮のホテルに泊まりました。13日は、偶然にも宇都宮の9期のS先生より電話があり、その夜S先生に食事をごちそうになりました。このときS先生とお会いできて心が安らぎました。

### 3月14日

原発が爆発したにもかかわらず、数日後には大熊町に戻れるのではないかという思いがまだありました。そのため、どの方向に避難するか迷っていたのです。

そんなときに、前橋市の整形外科のK先生より、「病気が心配だからすぐ私の所へ入院しなさい」という電話が入ったのです。「ずっと電話していたのだが、やっとつながった」ともおっしゃっていました。

K先生ご夫妻からは、その後30分おきに「すぐに来なさい」という電話が私が前橋行きを決心するまで続いたのです。

今になって思うと、とてもありがたいことでした。

K先生のご配慮により自分の健康と命が守られたのだと今思っています。

このときは、精神的ストレスが大きかったためか、薬を飲んでも血圧は200以下にはなりませんでした。改善しかけていた症状もかなり悪化していたのです。

前橋の病院に着いたのは、3月14日13時頃でした。このときは12期会連絡網を通じて、同期の先生方は私の行動を把握していたようです。

病院の玄関についた瞬間に同期の高崎のO先生から電話がありました。O先生とは30年ぶりでお会いし、その後も大変お世話になっているのですが、会った瞬間に学生時代の関係に戻れるのが不思議でした。

今思うと、岩手医大は学生を大切に扱っていたことを思い出します。スモールグループ、クラブ活動、運動会などの行事を通して人と人の関係を大切にすることを学ぶことができました。

日頃は厳しい先生方も、必要なときには徹夜で学生の実習につきあってくれたことを思い出します。常に家庭的な雰囲気がありました。

約2ヶ月入院し、退院後、前橋市市営住宅に19ヶ月。

2012年12月末に前橋市筑井町に移り、ここで開業することを決め、準備を進めもうじき正式に開業する予定です。

事故後2年間は、歯科医師としての仕事を諦め、別な仕事、具体的には農作物やその加工食品の販売をしていこうと真剣に考えていました。

歯科医院を再開できるようになったのは多くの皆様の援助があったためです。

原発事故は、嫌なこともたくさんあったのですが、それ以上に良いことがいっぱいあったのです。この2年半、人と人の関係がいかに大切であるかを学ぶことができ、人の暖かさを十分に受けることができました。

### 事故後に分かった原発の問題

ここで述べたいことはあまりにもたくさんあるため、紙面の都合上詳細には触れません。

チェルノブイリ原発事故後の25年間の疫学調査から学ぶことがたくさんあります。この疫学調査の結果と整合性のあるデータが日本の大学や医療機関からたくさん発表されています。さらに、海外の研究機関からもこの疫学調査を支持するデータが発表されています。それにもかかわらず、国・東電は、原発事故による健康被害はいっさいないと言い続けています。

ぜひ、良識ある学者に耳を傾けてください。

原発は、政治家・官僚・企業・学者・マスコミが一緒になって推進してきました。知れば知るほど許すことができない悪のシステムを彼らは協力しあって作り上げ、原発を推進してきたのです。

事故後、多くの国民がこのことに気づき、行動していればこの悪のシステムをなくすことができたかもしれません。今となっては、好機を逃してしまったかもしれません。

しかし、今からでも遅くはありません。1人でも多くの先生に、この悪のシステムを自ら調べ、学んでいただきたいのです。

そうすることで、この国が良くなっていくかもしれません。失礼なお願いと十分にわかった上で頼んでおります。

### 福島県で仲間とともに取り組んでいたこと

岩手医大在学中に西洋医学だけで「病」をみていくことに限界があることを感じていました。卒業後は、西洋医学とそれ以外の医学を併用して「病」をみていこうと決めていました。

東北大学第一口腔外科で腫瘍免疫の基礎と臨床を学んでいたのですが、体調を崩し研究をすすめることが

できないと判断し、大熊町に歯科医院を開設しました。

開業後、しばらくすると身近な人々が医師より余命わずかと宣告され、そのまま亡くなってしまうのを見て、このような人々のためになにか役立つ事ができないだろうかと思い、免疫学だけでなくさまざまな西洋医学以外の安全で効果のある治療法を学びました。それを身近な人々に応用し始めたのです。

その結果わかったことは、治癒、改善の見込なしと宣告されても、良くなり、治癒される方がいるということでした。

#### 西洋医学以外の医学・療法は効果があるのか

人は遺伝的にも雑種であるので、同じ刺激を加えても反応が違うのは当然です。

ところが西洋医学はある療法（投薬）を行った場合、同じ反応を引き起こす事ができるものしか認めない傾向があります。つまり、人が持っている多様な機能の一部分にだけ働きかける療法です。

最近では西洋医学の画一的な治療では病気を治すことが難しいことが分かってきました。

たとえば、HIV（エイズ）に感染しない遺伝子を持った人がいます。また、ある遺伝子を持った人は、ウイルスが入って増殖しても、ある数以上は増えにくく、そのまま良い健康状態を維持する人もいます。

しかし、急激に症状が悪化する人もいます。

西洋医学以外の医学の多くは、人間は一人一人違うことを前提に体系化されています。ここにこれらの医学の本質があります。

したがって、西洋医学でうまくいかない患者さんがそれ以外の方法で良くなることがあるというのは、ごく当然のことなのです。（もちろんその逆も有り得るわけですが）

大切なことは、それぞれの患者さんの個性を見極め、その人にとって最も効果的な療法を適応する事なのです。

この活動を根気よく休まず続けてきました。その過程で、同じ志を持った医師、歯科医師、獣医師、治療家、研究者、理解者と親交を深めることができました。

この仲間と一緒に2010年3月に双葉郡檜葉町の蒲生歯科医院に皮膚科を併設し、蒲生クリニックを設立しました。

2011年4月には、小児科の併設が決まっていました。さらに数カ月後には内科も併設されることが予定されていて、数年後には他科の併設を実現しようと検討しているところでした。私の医院には、九州と東京より治療家の先生が定期的に来ていました。

30年以上思っていたことがようやく形になってきたところで原発事故が起きてしまったのです。

事故後もこの活動・規模は縮小したのですが再開を期待し、準備を進めているところです。

#### これから取り組んでいきたい重要なこと

福島県が発表しているデータや、事故直後の放射性ヨウ素の動態などを分析すると、福島県の小児甲状腺がんの発症は、500倍を超えていると思われます。

しかし、国も県も東電も健康被害は一切ないと言い続け、何もしようとしません。

健康被害に関しては、危機的な段階に入ってしまったと認識しています。

約20年の間、ある加工食品によって前癌状態が正常に戻るという現象を見えています。症例は10例程度と少ないのですが、子宮頸部の異形成の場合、今のところ短期間で100%戻っています。子宮頸部の異形成は自然に治るケースも多いと言われていますが、これらの症例は、放射線による発がんをこの加工食品が抑制する可能性があるということを意味します。

がんは、電磁波、化学物質、ウイルスなどにより遺伝子が傷つけられることによって起こると考えられています。最近では、塩基配列の変化は関係していないエピジェネティクスも癌の原因になっていることが明らかになってきました。



大熊町の佐山歯科

発がんの仕組みは、ますます複雑化してきているのが現状です。

食品が、遺伝子の傷の修復、エピジェネティクスの問題の解決に関与するなどの研究はないに等しいです。

これから進めようとしていることは、科学的根拠はないに等しいのですが、自分の目で見たことを信じ、放射能による健康被害を少なくするであろう、加工食品の開発を仲間と一緒に進めることです。

具体的に分析を進めていて、この食品のある成分に効果があるようなので、これを大量に作りうどん、ラーメン、お菓子などに混ぜて東北、関東地区で流通させたいと考えています。

これまで研究していたことが役に立てばうれしいです。

最後に

福島県の小中学校では、給食に福島県産の農作物が使われています。福島県産を使うと補助金が出るのです。今年の4月からは、家で作った食事を学校に持って行って食べることも認められなくなりました。

復興の名のもとに「生命」が軽視されているように思います。「生命」を犠牲にしての復興など、なんの意味があるのでしょうか。

残された時間を「生命の大切さ」を訴えながら生きていくつもりです。

## ■ 震災から今日まで、そして未来へ

福島県支部 南相馬市 13期 草野 保之

私の住む南相馬市は、平成18年に原町市、小高町、鹿島町が合併した人口約7万人の、福島県浜通の北は相馬市、南は浪江町、西は飯館村、東は太平洋に面し仙台といわき市のほぼ中間に位置します。この震災と原発事故まで、南相馬が報道されるのは、7月の最終土日月曜日の3日間開催される、相馬野馬追の様子、それも地方版で報道される程度の、のどかな所でした。

仕事場は、福島第一原発より北に約23km南相馬市原町区本陣前、相馬野馬追の祭場である雲雀が原のすぐ側に在ります。職員4名で開業して26年目、震災時は職員12名（歯科衛生士3名、歯科技工士2名、歯科助手5名、受付2名）と歯科医師2名で診療していました。

平成23年3月11日午後2時46分、巨大地震が発生しました。2回の大きな揺れ、幸い院内の患者さんやスタッフに怪我はなく、物は落下しましたが医院の建物や設備には大きな被害はありませんでした。また、海岸線から遠かったので津波の被害もありませんでした。しかし、経験した事もない大きな揺れ、職員は家族との連絡も取れなかったため、診療を中止し、片付けは明日にと言う事で、職員を帰宅させました。

医院から少し離れた自宅は、水道と都市ガスは止まっていましたが電気はきていました。医院は、電話につながりませんでしたが、電気・水道・プロパンガスのライフラインは大丈夫でした。

政府でも被害の大きさ、津波被害状況も正確につかめない12日朝、ほぼ全員出勤して診療を再開できるように後片付けをしましたが、電話は繋がらず、町の様子や被害の情報が少しずつ入るにつれて、今日は診療している状況ではないと判断し、職員とは月曜日から診療するということで土曜日は帰宅しました。

そしてその日の午後福島第一原発一号機が爆発し、医院は原発より約23kmの所にあるため、13日（日曜日）職員への連絡手段もたたれた中で、医院の玄関に診療休診と職員への連絡事項を張り出して医院を閉鎖しました。医院のある地区は、緊急時避難準備区域に指定され、屋内待避の指示がだされました。いつでも

避難できる準備をして、屋内に待避し、外出は車で行きなさいという指示の中、戸惑いと不安の中での生活でした。

現職員とその家族は、地震・津波で本当に幸いな事に、命に関わることはありませんでしたが、津波で自宅が全壊した職員、そして全員が警戒区域や避難指示区域に自宅があるため、それぞれに避難生活に入りました。

私は10年前から、家族の事情で仙台と原町を行き来する生活をしていましたので、地元で暮らす母と共に、仙台へ避難しました。

15日には3号機が爆発し、情報も混乱する状態で、仙台も物資が少なく、母が「戦争中のようね」と言いながら、パンを買う整理券を得る為に小雪の中並んでくれました。その後も、政府や東電の発表とにらめっこ、ガソリンがなく移動できず、時間だけが経って行きました。その間、高校の先輩一家4人を仙台に2週間ほど引き受け、一緒に生活をしました。

4月22日医院のある地区は、緊急時避難区域ではありましたが、屋内退避解除になり、25日より南相馬に戻っていたスタッフ4名（歯科助手3名、歯科技工士1名、）で、午前中のみ診療で再開しました。

平成23年9月に戻った職員で6名になりましたが、翌24年春に、20代の職員は結婚、妊娠と相次いで2名が当地を離れてゆきました。戻って一緒に働いている職員も、仮設に住む職員、借り上げ住宅と地元を行き来する職員など、職員の生活環境が変化した状況下での診療です。

現在は26年間で職員と築いてきた、予防、治療、メンテナンスという診療体系に戻すことは人力的にできず、患者さんの今の悩みに対応する診療を行っています。

地震、津波そして政府や東電が想定外と言う悪夢の原発事故から、2年半が経ち震災前の南相馬市民の8割が統計上はここで生活しています。しかし、一旦避難した子供達の多くは戻ってきません。目に見えない危険、いつ体に影響が表れるのか不安に感じながらも、政府の線引きの中での生活を余儀なくされている市民に、放射能を測定して自分で判断しなさいと言うかのように、昨年各家庭に放射線測定器が配布されました。確かに自分の周りの放射線量は確かめられます。しかし国が示している判断基準が正しいのか、本当にそのレベルで安全なのか。結局、判断は個人にゆだねられ、市民は東電の保障もままならない中で、自分の中で折り合いをつけ、あきらめて生活を続けているように感じます。

南相馬市の場合、行政で除染された場所は公共の施設がほとんどで、その場所は放射線レベルが下がっていますが、結局阿武隈山系の広大な森林の除染はまず不可能でしょう。廃炉、汚染水、除染などに対する政府や東電の対応を見ていると、当時、興奮し叫んだ人々が、あの頃の真摯な反省を忘れていているように感じるのは私だけなのでしょうか。そして中央は少しずつ微妙に事件を風化させ、事件への関心の風向きを変えようとしているように感じます。この悪夢のような一連の出来事は、過去のことでなく、現在そして未来へ延々と続くのです。

政府の地域指定で放射能レベルと関係なく居住可能地域の私の医院は継続できました。しかし、今なお戻れず、避難先で苦労されている同窓の先生も多数いらっしゃいます。当時の混乱した状況の中、同窓会の皆様には、ご心配を頂き、かつご支援いただいた事に、心より御礼申し上げます。



職員不足のため使われていないユニット

## 各支部での活動報告

### 道央支部(みちのく会)

12期 新出英幸

平成24年

- 5月26日(土) 平成24年度 定例総会・懇親会(札幌第一ホテル)
- 6月23日(土) 女医会開催(鮮創作料理ジュノー)
- 6月27日(水) 平成24年度 第1回役員会(道歯会館)
- 7月28日(土) 新入会員, 若い期との懇親会(スペイン料理店 Boca)
- 8月18日(土) 北海道連合会・懇親会(ホテルライフオート札幌)
- 8月22日(水) 第2回役員会(道歯会館)
- 9月30日(日) 圭陵会との合同ゴルフコンペ(札幌芙蓉カントリー倶楽部)
- 10月27日(土) 学術講演会(札幌東武ホテル) 講師: 秋田大学医学部附属病院助教高野裕史先生(23期)
- 10月31日(水) 第3回役員会(道歯会館)
- 12月1日(土) 保険講習会・忘年会(札幌グランドホテル)

平成25年

- 1月12日(土) 第4回役員会・役員新年会(スペイン料理店 Boca)
- 3月13日(水) 第5回役員会(道歯会館)
- 3月下旬 みちのく会会報誌第12号発刊
- 4月10日(水) 第6回役員会(道歯会館)

その他

日歯代議員

前千歳歯科医師会会長

清水 明先生(2期) 平成24年5月18日逝去(享年64歳)

#### 1) 平成25年定例総会

5月18日(土)に札幌グランドホテルにて、恒例の定例総会を開催しました。毎年5月末の土曜日に開催していますが、今年は、本部の支部長会、評議員会と重なったため、第3土曜日の開催となりました。昨年5月に逝去された、清水 明先生(2期)に黙祷を捧げたのち、議事に入り、議長に中村博行先生(5期)が選出され、各部より報告事項が行われ、議決事項は満場一致ですべて可決された。約1時間の総会の後、場所を移して懇親会を行いました。

た。道央支部の会員は現在、168名で、そのうち開業会員は、107名です。終身会員(70歳以上)は1名です。昨年は新入会員が0人でしたが、今年は1人入会しました。末永亮二先生(43期)で大学病院で研鑽を積んでおられます。どこの支部も入会者が少なく、高齢化が進んでいると思います。道央支部も例外ではなく、今後の会の運営の在り方を考えなければならない時期に来ていると思います。



道央支部 懇親会

#### 2) 三浦歯学部部長・城同窓会長及び新入会員・若い期との懇親会

道央支部では、毎年7月末の土曜日に、新入会員、若い期との懇親会を開催し、親睦を深めております。今年も、三浦歯学部部長、城同窓会会長、医局員5人が日本歯科医学教育学会で来札されましたので、7月13日(土)、午後6時半より、居酒屋「函館 開陽亭」にて懇親会を開催しました。箱木支部長の挨拶のあと、城同窓会長の挨拶で、歯学部改革プロジェクト支援基金募金のお礼と更なる募金のお願ひがあり、石平道北支部長の乾杯の音頭で会は始まりました。酒をかわしながらであるが、三浦歯学部部長が、スライドで、岩手医科大学の、過去、現在、将来の話をされ、その中で、昭和初期の大学創設者、三田俊次郎先生のエーテル麻酔の貴重な臨床のビデオが3分ほどながされました。美味しい酒と、肴で会は進み、各テーブルで話の花が咲き、旧交を温めていました。約2時間の宴はあっという間に終わり、星加同窓会副会長の締めの乾杯で一次会は終了しました。その後ほとんど全員で二次会に行き、更にお酒の力をかり、旧交を温め午後11時半頃、終了となりました。今回学会でお疲れのところ、お付き合いくださいました、三浦先生、城先生、5人の医局員の先生方本当に有難うございました。先生方のご健勝と、更なるご活躍を心からお祈り申し上げます。



道央支部 懇親会



道央支部 懇親会



道央支部 総会

### 3) 北海道連合会懇親会

北海道歯科学術大会が毎年8月に開催され、今年で第66回目です。今年のメインテーマは「High-Qualityをめざせ」で、全道各地から会員の先生が約1,000人ほど参加される道内最大の学術大会です。それに合わせて、毎年8月に北海道連合会懇親会を開催しております。今年は8月10日（土）、「キタホテル」にて午後6時半より開催しました。連合会会長後藤先生（6期）の挨拶ののち、中野先生（1期）の乾杯の音頭で会は始まりました。暫しご歓談の後、支部報告がなされ、函館支部の永坂先生（7期）、十勝支部の船津先生（5期）、道北支部の石平先生（10期）、道央支部の新出先生（12期）より報告がありました。更に圭陵会代議員佐藤先生（10期）、日歯代議員執行先生（8期）からの報告もなされました。さらに旧交を温め、船津先生の締めの乾杯で、約2時間の宴を終了しました。その後同ホテルで二次会を行い、午後11時半頃終了となりました。

た。今年は、各支部からの出席者が例年より少なく、少々寂しい会でありましたが、猛暑の中、遠路はるばる出席された先生方大変ご苦勞様でした。



道央支部 連合会



道央支部 連合会



道央支部 連合会

## 函館支部(圭函会)

### 平成24年度同窓会函館支部活動報告

幹事長 18期 山田 一 巳

函館支部（圭函会）は現在40名の会員がおり、函館及びその近郊で活躍しております。主な年間行事は、新年会、総会、夏のビール会、ゴルフ会と秋の一泊旅行ですが、一泊旅行は歯学部単独で行っており、他は医学部同窓会と合同で行っております。

一泊旅行は先輩・後輩入り乱れての無礼講で、夜遅く？（次の日朝早く）まで飲み明かす圭函会の名物とも言える行事です。平成24年度は10月13日に東大沼温泉旅館「留の湯」で盛況に行われました。

他に、平成25年1月26日（土）に本学歯学部より青村知幸先生をお招きして、学術研修会『顎関節症について』を開催しました。この研修会を同窓の先生だけでなく、他大学出身の先生方も参加できるようにオープン形式で開催しましたところ、足下も悪い中、多数の先生方が参加され大変好評を得ました。

7期の永坂先生は、平成23年4月から平成25年5月までの任期中函館歯科医師会の会長として精力的に会務を執行されておりましたが、平成25年6月に再度、函館歯科医師会会長として選出され、現在2期目の永坂執行部がスタートしております。1期目・2期目にわたって、そのサポートには10期中塚道郎先生が専務理事として、17期の澤木健先生、21期の遠藤岳夫先生、22期の仲屋正樹先生が理事の役職に就かれ、日々函館歯科医師会会員のために尽力されております。

函館支部（圭函会）の役員は、平成25年3月に任期満了となったため改選が行われ、4月より下記新体制となりました。

支部長	7期	永坂 信	
副支部長	10期	中塚道郎	12期木葉 篤
幹事長	18期	山田一巳	
評議員	12期	木葉 篤	
予備評議員	7期	永坂 信	



青村先生講演会



青村先生を囲んで

## 道北支部

### 支部活動状況報告

支部長 10期 石 平 洋 二

2か月に1度第1週土曜日主に旭川グランドホテルで例会を開催しています。

例会により会場変更する場合があります。

平成24年	4月	道北支部総会
	6月	支部例会
	8月	ジンギスカン・ビールパーティ (会場 ターミナルホテル屋上ビアガーデン)
	10月	講師例会
	12月	忘年会
平成25年	1月	新年会
	4月	支部総会
	6月	支部例会 (会場 めいじ家大舟)
	8月	ジンギスカン・ビールパーティー (会場ロワジールホテル)

## 釧路支部

16期 鹿 野 洋 一

平成24年12月8日 総会、忘年会開催 7名出席

平成25年4月20日 2期、灰塚先生、送別会 9名出席 (5月より、神奈川県横浜市に転居)

他に、歯科医師会未入会の先生がいますが同窓会には関わりたくないそうです。

医学部との交流はありません。

以上です。

## 十勝支部

5期 船 津 三四郎

十勝支部は、30年間の長きに渡り、支部長をお努め頂きました。1期、河俣良文先生から、5期、船津三四郎にバトンタッチ致しまして、以下の活動を実施致しております。

1. 4月総会
2. 8月ビールパーティ
3. 12月、医科歯科合同の忘年会
4. 2月新年会

「歯学部青陵会十勝支部創設30周年記念式典・祝賀会」を開催  
22期 齋藤恒夫

平成25年7月6日18時から、ホテル日航ノースランド帯広にて「岩手医科大学歯学部同窓会十勝支部創設30周年記念式典・祝賀会」を開催した。

開会に先立ち、東日本大震災で亡くなられた方々に哀悼の意を表し黙祷を捧げた。その後、校歌斉唱で記念式典の幕があがった。十勝歯科医師会からは会長、副会長、専務理事、会計理事、総務部理事の5名の先生もご参加くださり、このことにも本学歯学部同窓会十勝支部の30年の歴史の重みを感じた。本学歯学部同窓会十勝支部創設から30年の長きにわたって支部長を務められた河俣良文先生に感謝状と記念品を贈呈して式典を終了した。引き続き祝賀会へ移り、前支部長・河俣良文先生の乾杯でスタートした。船津支部長の解説で十勝支部創設以来の懐かしいスライド上映などもあり、盛会裡に終わった。「びよんびよん舎」から取り寄せた「冷麺」をお土産として参加者に配布し、大好評であった。

ご来賓

十勝歯科医師会会長 小林靖先生  
副会長 佐々木嘉晃先生  
専務理事 大滝達哉先生  
会計理事 成田安弘先生  
総務部理事 鎌田靖先生  
青陵会帯広支部（医23）船津龍之介先生。

参加者

河俣 良文（歯1）、船津三四郎（歯5）  
小口 順正（歯6）、有田 修造（歯7）  
村松 晋（歯11）、塚田 隆一（歯18）  
橋 尚文（歯21）、齋藤 恒夫（歯22）  
村西京一郎（歯24）、大和 志郎（歯24）  
市川 大（歯27）、夏堀 裕之（歯30）  
船津 暁子（歯30）、森末 秀彦（歯31）  
吉川 修平（歯35）



青森県支部（青陵会）

平成24～25年度青陵会庶務報告

31期 神山陽介

平成24年

- 4月7日 平成23年度監査・平成24年度第1回理事会（旧執行部）  
16：00～  
監査 国際ホテル5F「銀扇の間」  
16：30～  
理事会 〃  
18：00～  
懇親会 〃 2F「高砂の間」
- 5月12日 平成24年度総会・講演会  
青森国際ホテル3F「孔雀の間」  
15：00～16：00 総会 26名  
16：00～17：30 講演会 30名  
17：30～17：45 記念写真撮影 30名  
17：45～20：30 懇親会 28名
- 5月24日 平成24年度第1回常任理事会  
19：30～20：45 県歯会館1F  
青森市歯科医師会事務所  
山田会長 他7名
- 6月16日 平成24年度 第1回理事会（新執行部）  
青森ワシントンホテル1F「シャンゼリゼ」  
16：30～18：00 理事会 24名  
18：00～20：00 懇親会・旧役員懇労会 17名
- 7月14日 青陵会30周年記念式典実行委員会第1回打ち合わせ  
16：30～ 会議6F「牡丹の間」 7名  
17：40～ 懇親会6F「菊の間」 6名
- 7月23日 岩手医科大学 24年度大学説明会  
19：00～20：00 説明会  
青森国際ホテル3F「孔雀の間」 8名  
20：00～21：45 懇親会 〃 7名  
演者：岩手医科大学歯学部  
病理学講座病態解析学分野  
教授 武田泰典（6期）  
補綴・インプラント学講座  
武部 純（20期）  
演題：「岩手医科大学歯学部の今」
- 10月18日 青陵会30周年式典実行委員会第2回打合せ  
20：30～22：00  
居酒屋「樽心」三浦実行委員長 他4名
- 11月17日 青陵会30周年記念式典実行委員会第3回打合せ

- 11月24日 16:30～ 会議 青森グランドホテル  
三浦実行委員長 他6名  
18:00～ 懇親会「三海龍」 6名  
秋季学術講演会  
15:30～17:30 講演会  
青森国際ホテル5F「芙蓉の間」 87名  
演者:木下 晴弘 先生  
演題:「みなさんに伝えたい幸せの法則」  
17:45～ 写真撮影  
18:00～ 懇親会  
別館5F「フェスタミュゼ」 29名
- 平成25年  
1月22日 青陵会30周年記念式典実行委員会第4回  
打合せ  
19:30～ 会議 山田会長 他8名  
20:30～ 懇親会 〃
- 3月27日 青陵会30周年記念式典実行委員会第5回  
打合せ 19:30～20:30  
県歯会館1F 青森市歯科医師会事務所  
山田会長 他8名  
平成24年度第二回常任理事会  
20:30～21:30  
県歯会館1F 青森市歯科医師会事務所  
山田会長 他7名
- 4月27日 青陵会30周年記念式典実行委員会第6回打合せ  
15:30～16:30  
青森国際ホテル 3F「孔雀の間」  
山田会長 他12名  
平成25年度第1回 青陵会理事会  
16:45～18:00  
青森国際ホテル3F「孔雀の間」  
山田会長 他19名  
懇親会  
18:00～20:00 山田会長 他12名
- 5月18日 平成25年度青陵会総会  
青森国際ホテル3F「孔雀の間」  
総会  
16:30～17:30 山田会長 他17名  
懇親会  
18:00～20:00 〃
- 5月30日 青陵会30周年記念式典実行委員会第7回打合せ  
19:30～21:00  
県歯会館1F 青森市歯科医師会事務所  
山田会長 他8名
- 6月11日 青陵会30周年記念式典実行委員会第9回  
打合せ  
19:30～21:30  
県歯会館1F 青森市歯科医師会事務所  
山田会長 他11名
- 6月24日 青陵会30周年記念式典実行委員会第9回  
打合せ  
19:30～21:30  
県歯会館1F 青森市歯科医師会事務所  
山田会長 他9名
- 7月2日 青陵会30周年記念式典実行委員会第10回  
打合せ  
19:30～21:00  
県歯会館1F 青森市歯科医師会事務所  
山田会長 他9名
- 7月5日 青陵会30周年記念式典 会場準備  
19:30～20:30
- 7月6日 青陵会30周年記念式典青森国際ホテル  
記念式典  
15:00～15:30 3F「萬蓉の間」88名  
講演会  
15:40～16:40 〃 94名  
写真撮影  
16:40～17:00 〃 94名  
祝賀会  
17:00～19:00 3F「孔雀の間」95名  
二次会  
19:00～21:00 1F「クッカ」 41名
- 7月27日 青陵会30周年記念式典 打ち上げ  
青森国際ホテル5F「銀扇の間」  
18:00～20:00 10名
- 各地区の活動報告**
- 東青地区  
24年12月18日 忘年会  
場所:「トニーローマ」  
参加者:山田会長 他14名
- 弘前地区  
平成24年  
11月6日 第一回青陵会30th記念アルバム製作の為  
の委員会  
場所:弘前市歯科医師会館  
参加者:6名
- 平成25年  
1月26日 青陵会弘前地区新年会  
場所:酒房食膳けん太旬彩館  
ゲスト:山田芳夫 会長  
参加者:12名
- 2月27日 圭陵会津軽支部新年会  
場所:ホテルニューキャッスル  
参加者:(歯科から)6名
- 八戸地区  
平成24年  
8月2日 HADEK総会・ビールパーティー

場所：八戸プラザホテル  
参加者：27名  
ゲスト：八戸歯科衛生士専門学校校長  
(本学予防歯科学講座前教授)  
米満 正美 先生

平成25年

3月1日 HADEK研修会  
場所：八戸第1ワシントンホテル  
参加者：21名  
講師：南郷診療所 歯科  
永野 弘之 先生

## ○上十三地区

平成25年

1月26日 平成24年度上十三歯科医師会学術講演会  
場所：ホテルグランヒルつたや  
(三沢市) 参加者：39名  
講師：岩手医科大学歯学部口腔顎顔面  
再建学講座 歯科麻酔学分野  
准教授 佐藤 雅仁 先生  
演題：「いわゆる歯科疾患によらない  
歯・顎・口腔・顔面の痛み  
—歯科麻酔医の立場から—」

慶弔関係

平成24年

4月17日 藤田 亮先生の御母堂のご逝去に際し弔  
電・供花  
6月21日 新山 龍治先生の御母堂のご逝去に際し  
弔電・供花  
7月7日 名誉理事長・名誉学長 大堀 勉先生のご  
逝去に際し弔電・供花

3月12日 楠美卓美先生のご尊父のご逝去に際し弔電  
会員異動

## ○新入会員

平成24年

4月18日 小村 圭介 (42期) 県立中央病院 (研修医)  
4月1日 松尾 紘吾 (38期) 松尾歯科医院 (八戸)

平成25年

4月1日 山敷 俊文 (27期) 齊藤歯科医院 (弘前)  
7月1日 栗田 崇之 (30期) 栗田歯科医院 (八戸)  
8月1日 小山 方子 (28期) 弘前インター歯科ク  
リニック (弘前)

## 岩手医科大学歯学部青森県同窓会創立30周年記念式典

青陵会創立30周年記念式典実行委員長 12期 三 浦 一 廣

平成25年7月6日、山田芳夫青森県歯学部同窓会  
(青陵会) 会長のもと、創立30周年記念式典が青森  
国際ホテルにて開催された。この式典のためには、  
一年前より実行委員が決められ、十数回にわたる実

行委員会の末、ぬかりのない計画のもと当日に向け  
着々と準備が進められた。

当日のプログラムは次の通りである。第Ⅰ部記念  
式典 (午後3時～3時半)、第Ⅱ部記念講演会 (午  
後3時40分～4時40分) 全員での記念写真撮影、第  
Ⅲ部記念祝賀会 (午後5時～7時)

この祝賀行事には会員ならびに来賓合わせて約  
100名の参加があり、大いに盛り上がった。大学関  
係では三浦廣行歯学部長、城茂治教授・歯学部同窓  
会長、圭陵会からは青森県支部東青支部長木村隆一  
先生、三八支部長苔米地怜先生、津軽支部長玉田友  
一先生、上北支部長大山哲男先生 (当日体調をくず  
され欠席)、当日の講師として歯学部12期ハーバ  
ード大学歯学部准教授・岩手医科大学学長顧問永井成  
美先生に御参加いただいた。その他に、青森県歯科  
医師会会長山口勝弘先生他、各大学の同窓会の代表者  
等、全員で20名の来賓の先生に出席していただいた。

第Ⅰ部の式典では、全員の盛大な拍手の中、岩手  
山や大学の校舎等がスクリーンに映し出されて、実  
行委員長三浦、事務局長の松本の先導で来賓の  
方々が入場し壇上の席に着いた。7期の新山龍治先  
生の司会により式典は進められた。7期の内山繁由  
樹先生の開会の辞に続き、山田芳夫会長の挨拶があ  
り、2人の来賓の先生より御祝辞をいただいた。ま  
ず三浦廣行歯学部長、次に山口勝弘歯科医師会会  
長、最後に全員で校歌を斉唱し、厳かなうちに式典  
は終了した。

第Ⅱ部は記念講演会である。講師は歯学部12期の  
永井成美先生である。先生はハーバード大学での仕  
事はもちろんであるが、同大と岩手医大歯学部との  
架け橋となり、岩手医科大学学長顧問として歯学部  
改革に尽力されている先生である。先生の講演で本  
学歯学部とハーバード大学歯学部とのつながりを知  
ることができ、世界的にも先進的な大学との交流  
は、本学の学生ならびに医局員にとって大きな刺激  
となり、資質の向上に大いに役立つものと思われ  
た。また同時に今日の30周年記念のテーマである「母  
校の大いなる発展を願って」という表題に対しても、  
真に希望の持てる内容であった。

第Ⅲ部はお待ちかねの祝賀パーティーである。実  
行委員長三浦の歓迎の挨拶の後、城茂治同窓会長よ  
り来賓の祝辞をいただき、嶋中繁樹青森市歯科医師  
会長の乾杯の音頭で祝宴は始まった。ほぼ全員が歯  
科医師であり、他校の代表者以外は全て同窓という  
こともあり全くの無礼講で、近況報告や学生時代の  
思い出話等で会は盛り上がり、あっという間に制限  
時間一本勝負、2時間は過ぎ去った。まだまだ話は  
尽きないようではあったが、八戸市歯科医師会長・  
8期の松尾芳明先生の閉会の辞で終宴となった。そ

の後、2次会への参加者も多く夜遅くまで親交を深めていたようである。

また今回は創立30周年記念ということで、それに因んで30万円を歯学部へ寄贈することになった。



## 岩手県支部

### 平成24年度事業報告

7期 佐藤 忠 朋

平成24年5月1日～平成25年4月30日

- ①総会 平成24年6月2日(土) 72名参加
- ②役員会・総務会・評議員打合せ会  
役員会 平成24年6月2日(土)  
役員会 平成25年1月19日(土)  
総務会 平成24年12月14日(金)  
総務会 平成25年1月9日(水)  
総務会 平成25年2月1日(金)
- ③監査会 平成24年5月15日(火)  
岩淵会長、近藤監事、三善監事他出席
- ④会報の発行  
52号 平成24年12月1日発行  
53号 平成24年4月30日発行
- ⑤年代別社保講習会  
第1回 平成24年7月7日(土) 33名参加  
第2回 平成24年8月24日(土) 36名参加  
第3回 平成24年9月1日(土) 33名参加
- ⑥ゴルフコンペ  
平成24年7月29日(日) 盛岡南GC 16名参加
- ⑦新年会 平成25年1月19日(土)  
出席者 来賓  
圭陵会会長 石川育成 先生 他9名  
会 員 64名
- ⑨その他  
・岩手医大歯学部同窓会支部長会  
平成24年 5月19日(土)  
・岩手医大歯学部同窓会評議員会  
平成24年 5月19日(土)  
・大堀前理事長大学葬

平成24年7月7日(土)

- 平成25年度事業計画(案)  
平成25年5月1日～平成26年4月30日
- ①総会 1回
  - ②役員会・総務会・評議員会打合せ会 8回
  - ③監査会 1回
  - ④会報の発行(54号, 55号)
  - ⑤新年会 平成26年1月18日(土) 開催予定
  - ⑥年代別社保講習会  
第1回 7月27日(土) 開催予定  
第2回 8月10日(土) 開催予定  
第3回 9月7日(土) 開催予定
  - ⑦同窓会主催ゴルフコンペ  
(平成25年7月28日開催予定)
  - ⑧支部との懇談会

## 学内支部

### 平成24年度支部活動報告

7期 城 茂 治

学内支部としては定期的な活動はなく、随時、同窓会本部活動の支援を行っている。その内容としては、平成24年度は以下の通りである。

- 平成24年5月20日 第42回学術研修会開催への協力  
平成24年12月9日 第43回同窓会学術研修会開催への協力  
平成25年1月25日 第43期生(6年生)に対する説明会  
平成25年2月5日 同窓会会長賞選考委員会開催

## 秋田県支部(秋盛会)

### 平成24年度支部活動状況報告

4期 井 関 時 男

- ・定時総会  
平成25年3月16日(土)
- ・役員会  
第一回役員会 平成24年6月2日(土)  
第二回役員会 平成25年2月9日(土)
- ・名簿作成(2年毎に作成)
- ・秋盛会会報発行  
12号 発行日 平成24年5月15日  
13号 発行日 平成24年10月20日

## ・学術研修会

## 第1回学術研修会

平成24年7月7日(土) PM4:00

キャッスルホテル

演題「秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科  
の地域医療への役割」

～よりよい病診連携を目指して～

講師 秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科  
助教 高野 裕史 先生(本学23期)

出席者 30名

## 第2回学術研修会

平成24年12月1日(土) PM4:00

キャッスルホテル

演題「認知症の食を支える基礎知識」

講師 東京都健康長寿医療センター研究所  
専門副部長 平野 浩彦 先生

出席者 45名

## 第3回学術研修会

平成25年3月16日(土) PM4:00

キャッスルホテル

演題 第一部「インプラント治療を中心に発  
展する先端医療技術の紹介」第二部「インプラントに取り組んでい  
ないドクターにも必要な基礎  
知識Q&A」講師 岩手医科大学歯学部補綴・インプラ  
ント学講座 教授 近藤 尚知 先生

出席者 30名

## ・ゴルフコンペ

平成24年10月14日(日)

太平山カントリークラブ

参加人数13名(他大学参加者5名)

## ・忘年会

平成24年12月1日(土) PM6:30

キャッスルホテル

33期 山中 有紀子

岩手医科大学歯学部秋田県同窓会「秋盛会」では、年に3回の学術講演会、秋には大学の先生とのゴルフコンペなどを行っております。平成24年度に行われた学術講演会の内容は次の通りです。

平成24年7月7日秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科助教 高野裕史先生(本学23期)に「秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科の地域医療への役割～よりよい病診連携を目指して」の演題で講話して頂きました。内容は、最近急増しているBRONJ(ビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死)、口腔ケアなど。紹介率は70%を超えており(院内紹介を除

く)地域の医療機関とは良好な連携がとられており、私達一般開業医にとっては心強く感じました。

平成24年12月1日東京都健康長寿医療センター研究所専門副部長 平野浩彦先生

「認知症の食を支える基礎知識」の演題で講話して頂きました。今の日本はおよそ4人に1人が65歳以上の高齢化社会です。その中でも秋田県は全国で最も高い高齢化率となっております。認知症患者も年々増加しており、歯科医師として口腔管理だけでなく、その人らしい生活を手助けできるよう認知症への知識の重要性を痛感しました。

平成25年3月16日岩手医科大学歯学部 補綴・インプラント学講座教授 近藤尚知先生「インプラント治療を中心に発展する先端医療技術の紹介・インプラントに取り組んでいないドクターにも必要な基礎知識Q&A」の演題で講話して頂きました。需要は若い世代だけでなく、団塊の世代から高齢者のQOLも高まっており老後は丈夫な歯で美味しい物を食べたいとインプラントを希望する方が増えているそうです。

また、10月4日には他大学の先生と共に秋田太平山カントリークラブにて秋盛会ゴルフコンペを行いました。

先生方はどなたも気さくな方が多く、講演会後の懇親会ではみなさん和気あいあいと楽しいひと時を過ごしました。



## 宮城県支部(圭歯会)

18期 杉山 豊

岩手医科大歯学部宮城県同窓会(圭歯会)は平成25年2月1日現在で338名の会員(うち、開業会員は187名)を数えます。村上正博先生(6期)が会長となり、6年が経過しましたが、活発な活動しております。一昨年3月の東日本大震災により大きな打撃を受けましたが、会員一丸となり会を盛り上げています。以下にその活動の一端を紹介いたします。

[理事会]

毎月開催している理事会は、年間行事の企画、運営の他、同窓会本部との連携各歯科医師会や他大学の同窓会との連携を図り、精力的に活動しています。

[平成24年度第1回勉強会]

日時：平成24年7月7日（土）

会場：宮城県歯科医師会館 53名参加

「局所麻酔の基本を見直そう」と題して、本学口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野教授・城 茂治先生に御講演を頂きました。一般開業医にもわかりやすく解説いただきました。

[平成24年度新入会員歓迎会]

日時：平成24年7月7日（土）

会場：江陽グランドホテル 58名参加

今年度は4名の新入会員でありました。

城先生を含めて新入会員を囲んだ歓迎会は和やかに進行了しました。

[ファミリー企画]

日時：平成24年8月26日（日）

会場：水の森キャンプ場 26名参加

毎年、子供たちの夏休みに合わせて、家族ぐるみのお楽しみ会を企画していますが、今年度は大人21名、子供5名の参加で、子供たちはバーベキュー、大人たちはビールにダッジオープン料理に舌鼓を打ちながら、楽しい時間を共に過ごしました。

[第1回社保講習会]

日時：24年9月8日（土）

会場：宮城県歯科医師会館 39名参加

講師を仙台歯科医師会社保委員長・山田真先生にお願いし、社保講習会を開催しました。

[第23回臨床懇話会]

日時：平成24年12月1日（土）

会場：江陽グランドホテル 52名参加

今年度は桜井聡先生（10期）、千葉潤子先生（16期）、長谷理恵先生（36期）の3名の先生がご発表されました。

[忘年会、クリスマス会、還暦祝い]

日時：平成24年12月1日（土）

場所：江陽グランドホテル 79名参加

毎年、「家族も一緒」を合言葉に、忘年会というよりクリスマスパーティーの雰囲気の中で楽しく開催されました。同時に還暦祝いも行われ、対象者8名中3名が出席されました。

[平成24年度総会、第2回勉強会]

日時：平成25年3月30日（土）

場所：宮城県歯科医師会館 80名出席（会員47名出席）

長崎県開業の西岡雄一郎先生（16期）お招きして、「歯科医院の雰囲気がガラリと良くなる院内コ

ミュニケーション—院長とスタッフのための心理学—」の演題でご講演いただきました。オープン形式で行いましたが、他大学出身の先生方も多数参加し、盛会裏に終了しました。

[終りに]

東日本大震災から2年が経過し、本来の生活を取り戻した会員が多い中、沿岸部ではいまだ仮設診療所のかたもいらっしゃいます。忘れることのできない3・11ですが、逆境にあってもより深い絆を深め、医療人として、岩手医科大学の卒業生として社会貢献をしていく所存です。



圭歯会忘年会

山形県支部

18期 日塔陸雄

平成24年

5月12日 定時総会・学術講演会を、母校の補綴・インプラント学講座の鬼原講師を迎えて開催しました。

テーマは「インプラント治療のトラブル症例」とし、出席者は25名で会場はかなりの盛り上がりを見せていました。

8月2日 山陵会会報第22号を発行しました。今回は6期の貝和房雄君と35期の笹原将則君の寄稿がありました。

8月24日 社保講習会を12期の奥山祥充君を講師として行いました。

10月20日 東北歯科医学学会に出席のため来県していた城同窓会長と三浦歯学部長をお招きして、懇親会を開催しました。

11月10日 秋季学術研修会・観楓会を、母校の補綴・インプラント学講座の近藤教授を迎えて開催しました。テーマは「これからのインプラント治療～最新の治療システムから問題症例まで～」とし、15名の出席のもと、夜が更けるのを忘れるくらい熱心な討論が交わされていました。

平成25年

- 2月20日 山陵会会報第23号を発行しました。今回は5期の菊地正明君と31期の笹生一嘉君からの寄稿がありました。
- 2月23日 庄内懇談会開催。日頃なかなか集まることの少ない庄内地区の会員と懇親を深めるために、幹事会の場所を庄内の酒田市に移して行いました。

この他に、ゴルフ同好会として5月13日と10月7日の2回、ゴルフコンペを行っています。

## 福島県支部

8期 田代直也

- 4月7日 第8回福島県歯科大学同窓会・校友会の集い（郡山ビューホテル・アネックス）会長，副会長，専務の3名出席
- 5月26日 役員会，会計監査（郡山ビューホテル・アネックス）
- 6月23日 同窓会総会（郡山ビューホテル・アネックス）本学歯科放射線学分野教授，小豆嶋正典先生をお招きし「画像診断の基礎から最新の画像診断法」の演題でご講演をしていただいた。
- 10月13日 役員会（郡山ビューホテル・アネックス）
- 10月20日 圭陵会福島全県総会（ホテルハマツ郡山市）本学武田泰典教授に歯学部の現状についてお話しいただいた。
- 11月25日 学術講演会（コラッセ福島）國崎幸史副会長（県歯社保担当常務）が講師となり，社保関連の講演をして頂いた。
- 3月16日 役員会（郡山ビューホテル・アネックス）

### 岩手医科大学福島県支部総会

25期 力丸 尚

6月29日（土），16：00より福島ビューホテルにおいて平成25年度岩手医科大学歯学部福島県同窓会総会が開催された。阿部満会員司会の下，國崎幸史副会長の開会の辞に続き，田代直也会長の挨拶により始まった。

議事に先立ち，佐藤克会員が議長に選出され，議事録作成人，署名人にはそれぞれ大内治会員，須藤哲会員が選出された。議事では遠藤正道副会長，草野保之会員，池田清会員から各報告がなされ，また

田代直也会長からは評議員会の報告がなされ，すべてが承認された。議案については事業計画案，予算案について満場一致で可決された。役員改選については鈴木正前会長より田代直也会長の続投を求める意見があり，会場には全員からの拍手が沸き起こり，田代直也会長もこれを快諾し，次期会長が決定した。

総会終了後，岩手医科大学歯学部長・三浦廣行教授より「岩手医科大学歯学部改革について」という演題で講演があり，岩手医科大学創設の歴史から始まり，大学及び病院機能の移転構想，学生教育の改革など過去・現在・未来における岩手医科大学の展望について多くの情報を頂きました。他に三浦教授の専門分野である歯科矯正学についてもいくつかの症例を交えながら講演を頂きました。

19：00からは同ホテルにおいて，岩手医科大学歯学部福島県同窓会創立30周年記念式典が執り行われた。田代会長の挨拶の後，関根昭男元会長，国分光壽元会長，村上秀元元会長，鈴木正前会長に感謝状・記念品が贈呈された。来賓には，福島県歯科医師会・金子振会長，福島県歯科医師会・海野仁専務，岩手医科大学歯学部長・三浦廣行教授，岩手医科大学歯学部同窓会会長・城茂治教授，奥羽大学・伊藤一三元教授，奥羽大学歯学部・清野和男教授，奥羽大学歯学部・山森徹雄教授のご出席を賜りました。一同，岩手医科大学の将来の発展に期待を込めて会は盛大に行われました。



岩手医科大学歯学部福島県同窓会30周年記念式典

## 茨城県支部

### 平成24年度活動報告

18期 阿部 英一

#### 定例支部総会・懇親会

歯学部同窓会茨城県支部では春と秋に定例支部総会・懇親会を催しております。昨年は6月13日ホテルテラス・ザ・ガーデン（水戸），11月28日ホテルグランド東雲（つくば）にて開催されました。尚，

平成24年度より支部長が数寄孝先生（8期）から大塚誠先生（9期）に交代しております。また今年度は、出久根亮一先生（31期）と根本光先生（31期）が新入会員となりました。



栃木県支部

勉強会

春の総会において、深谷聖（25期）先生から（株）セルフメディカルの加藤修平氏をご紹介いただき、「中性電解水（中性次亜塩素酸水）の歯科用ユニット給水システムへの応用について」という内容で講演がおこなわれました。メーカー色にとらわれず、現在私達が使用している歯科用ユニットから供給される水質に関する種々の問題点について、実例とその対処方法を解説していただきました。一般に歯科用ユニットへは水道から直接水が接続供給されていますが、設備の清浄度の劣化とともに一般細菌、従属栄養細菌等のバイオフィームやスライムが配水管内で形成されることが明らかになっており、その水質は厚生省が定める基準に反する可能性があります。そこで中性電解水（水道水を無添加で無隔膜電解槽内において電解）を生成し、予め洗浄処理をおこなった歯科ユニット配水管に供給することにより、バイオフィームの形成が抑制されます。さらには、治療中は殺菌水として使用できるというメリットもあります。この中性電解水は、金属や樹脂等に対する腐食作用や蒸発残留物は水道水と同等であること、次亜塩素酸濃度が低いにもかかわらず殺菌作用は1か月程度持続するとのことで、微塩基性/微酸性次亜塩素酸水、オゾン水、過酸化水素水等と比較すると有用性が高いと考えられます。今後はこのようなシステムの応用が臨床の現場で必須となってくるのではないのでしょうか。



9期 五月女 大 介

- 平成24年
- 4月15日（日） 栃木県同窓会 総会  
於：ホテル丸冶
  - 5月19日（土） 岩手医科大学歯学部同窓会支部長会（五月女先生）  
同 評議員会（生井先生）  
於：60周年記念館
  - 10月14日（日） 講演会  
岩手医科大学歯学部 口腔顎顔面  
再建学講座 歯科麻酔学分野  
教授 城 茂治 先生  
於：ホテル丸冶
  - 10月21日（日） 佐野支部講演会  
歯科保存学講座 歯周療法学分野  
教授 八重柏 隆 先生 来県
  - 10月28日（日） 関東ブロック 千葉大会  
於：京成ホテル ミラマーレ
  - 12月9日（日） 忘年会（県歯会長 柴田 勝 先生 出席）  
於：チサンホテル宇都宮
- 平成25年
- 2月6日（水） 理事会
  - 2月9日（土） 栃歯懇（五月女会長 清水，生井副会長 出席）  
於：東武ホテルグランデ
  - 3月23日（土） 監査会 於：雅秀殿

## 群馬県支部

## 群馬県支部活動報告

7期 大美賀 優

会長 石北 裕

会員数 25名

顧問 茂木健司 先生

◇役員会開催

◇支部長会議・評議員会 出席

◇圭陵会 代議員会 出席

◇総会開催

◇関東甲信越ブロック大会へ参加（千葉県にて）

◇岩手医大同窓会群馬支部医科歯科合同懇親会への参加

◇群馬県全歯科大学同窓会校友会役員懇話会参加

※岩手医大歯学部同窓会が当番校として開催する

◇学術講演会及び新年会開催

## 埼玉県支部

2期 佐々木 雄一

平成24年

2月4日 新年会 一の家 12名

4月9日 理事会 大宮歯科医師会館 8名

5月19日 医大評議員会・総会 2名

5月31日 理事会 八吉 6名

7月8日 埼玉県同窓会 一の家

講師 佐々木将人先生卓話

10月28日 関プロ 千葉京成ホテル 4名 一人1万円補助

11月17日 理事会八吉 6名

平成25年

2月6・7日 移動理事会 秋田高清水工場, 新酒仕込み見学 7名

3月24日 日歯12校会議・時局講演会 3名 グラウンドパレス

4月6日 理事会 八吉 新会長・理事の選任

5月22日 理事会 八吉

5月25日 医大支部長会・評議員会総会

7月4日 埼玉県同窓会総会 一の家 三遊亭歌之介 新会長・理事のおひろめ  
61名中, 自動振り込みは20名程度

全員にFAX・TEL・手紙で今後の協力, 出席の意志を問うも返信はほとんど無し。幽霊会員はこのままで良いのか, 予算も底をついて来た。会費未納

会員は見捨てて良いのか, 今後の対応は?

会費を払ってこそその会員では, 医大の卒業生として情けない。

## 千葉県

21期 伊東 総一郎

平成24年度

6月2日 千葉県支部 理事会

6月9日 平成会 懇話会

10月13日 千葉県支部 理事会

10月14日 12歯科大学同窓会・校友会 懇話会

10月28日 千葉県支部 総会

関東甲信越ブロック大会 千葉大会

11月29日 平成会ゴルフコンペ

11月27日 千葉県支部 理事会 総会

## 東京都支部

6期 神垣 博義

平成24年

1月23日 春の教授を囲む会

3月7日 日歯代議員を囲む会

4月21日 圭陵会東京支部総会

6月16日 圭陵会代議員会総会

6月20日 圭陵会東京支部会議

9月12日 日歯代議員を囲む会

平成25年

1月30日 春の教授を囲む会

3月14日 日歯代議員を囲む会

## 神奈川県支部

13期 伴場 幸信

平成24年度

5月20日 第9期 加藤宏明先生御尊父・加藤三千雄（医学部同窓）様葬儀弔電

6月28日（木） 神奈川県各歯科大学同窓・校友懇話会への参加

ホテルモンレー横浜

参加 森戸・清水・伴場

7月14日（土） 岩手医科大学歯学部神奈川県同窓会開催

横浜中華街・聘珍樓本店  
岩手医科大学歯学部同窓会会長  
城先生参加

10月20日（土） 岩手医科大学歯学部神奈川県同窓  
会学術講演会開催

神奈川県歯科医師会館5階会議室  
講師 神奈川県立歯科大学成長発達歯  
科学講座小児歯科学分野教授  
木本 茂成 先生  
演題「学童期の生活習慣病と口腔  
ケア」

10月28日（日） 岩手医科大学歯学部同窓会関東甲  
信越ブロック大会

「千葉大会」京成ホテル・ミラマ  
ーレ

参加 森戸・清水・浅川・伴場

11月15日（木） 神奈川七校連絡会懇親ゴルフコン  
ペ（岩手医科大学幹事）

清水C.C

11月15日（木） 未入会者対策に関する地域歯科医  
師会並びに各歯科大学同窓会・校  
友会との協議会

神奈川県歯科医師会館 B1大会  
議室

## 山梨県支部

11期 中村 貴美男

①毎月1回 例会開催 近況報告（岩手医大同窓  
生）、勉強会

②年2回 みちのく歯学会 東北歯学部出身の先  
生方と交流会

③年1回 5校会ゴルフコンペ 5大学の同窓支部  
と親睦ゴルフ大会

以上、和気藹々と活動しています。

## 長野県支部

9期 都筑 文男

長野県支部は平成24年度は特別な活動は致してお  
りません。

圭陵会長長野県支部の支部総会に参加しました。

## 新潟県支部(新盛会)

5期 本間 哲雄

平成24年12月1日

新潟市万代シルバーホテルにおいて総会（秋冬）  
を開催しました。

11月開催予定も講師の都合つかず12月にずれ込み  
他の行事が重なり、出席者が極端に少なくなりました。  
前回からの幹事選出の案件は時間なく会長が代  
行することにしました。

総会終了後、日本大学松戸歯学部 保存修復学講  
座 池見宅司 教授（5期）に演題「最近の保存修  
復治療」と題してCR修復とPMTCについて講演し  
ていただきました。



新潟支部学術講演

CR充填ではち  
よっとしたヒント  
を頂き、PMTC  
は衛生士をうまく  
使えばリコール  
性の高い自費  
診療になり、予  
防歯科の観点か  
ら積極的に取り  
組むべきと教  
わりました。

平成25年7月6日

新潟市のシルバーホテルにおいて医学部同窓会・  
歯学部同窓会合同総会を開催しました。

合同総会においては特に協議する問題も無く、3  
年後に医学部の主催で合同総会を行うことを決定  
し、各会員の自己紹介近況報告に終わりました。

総会後の講演会は岩手医科大学病理学講座形態解  
析学分野武田泰典教授（歯学部6期）に「身近な唾  
液腺病変の診断」と題して講演していただきました。  
唾石の核に体毛食物繊維となった症例、糖尿病  
で耳下腺腫脹が出ることを知り、サイトメガロウイ  
ルスに罹奇形があることがわかりました。

骨髄移植後免疫反応、シェーグレン症候群、鉄製  
剤による乾燥症などは口唇腺の生研で確定診断をす  
ることを知りました。

歯学部の入学や国試の状況について、歯学部改革  
では各診療科目の壁を無くして総合の歯科医療とし  
て診療教育していく、卒業生を教授として育てて行  
く方針、大学移転と内丸メディカルセンターについ  
て、歯科医療センターは内丸に残ることなど伺いま  
した。



新潟支部学術講演

懇親会では教授を囲んで医学部の先生方と学生時代の思い出を語り合いました。

合同総会に先立ち歯学部の総会において

支部長報告・評議員会報告・代議員会報告があり、会務報告・会計報告を承認しました。

12年担当しました5期本間哲雄が支部長を退き、副支部長の6期五十嵐一男先生が次期支部長に、副支部長には9期二瓶徹先生が内定しました。幹事に付きましたは12期山崎勝之先生に内諾を得ました。すぐにも交代したかったのですが、会計以下他の役職を11月19日の総会・忘年会で決め、支部会費の未納問題を解決して、次年度から新役員でお願いすることにしました。

総会・講演会の出席者をいかに増やすかと、会費の振込を周知徹底させることが一番の問題となっています。

事務連絡などメーリングリストを中心にしており、未加入者のみFAXで連絡しています。

発足当時は年齢差も少なく和気藹々の感じだったが43回生が卒業となると今後年齢差のギャップをいかに埋めるかが重要になってきました。



新潟支部合同総会

## 富山県支部

30期 津田 淳

歯学部同窓会富山県支部は平成25年4月1日現在、10名の会員が所属しています。

昨年の総会には、県内病院にいる研修生の先生にも参加していただきました。

直近の大学の雰囲気や活気、盛岡の状況などを聞くことができ、大変楽しい会となりました。

今後の富山県支部の目標として、定期的に勉強会や親睦会などを開催することなどがあげられます。

また、親睦会においてよく耳にする話題は、やはり国家試験の合格率の数字です。遠く離れた地から、卒業生として母校の力になるにはどのようにすれば良いかを話し合い、実行できる場となればさらに意義のあるものになると思います。実際に指導されている学内におられる先生方の情熱がより支部内の同窓生に伝えられる「方法」を検討しています。

## 北陸支部

13期 牧野 邦男

毎年度末に総会を開催し会員の親睦を図っています。

今年度は3月16日に金沢市で開催しました。

支部役員の変更はありません。

## 静岡県支部

7期 山田 雅夫

平成24年度圭陵会静岡県支部総会を11月10日(土)に静岡県東部の三島グランドホテルで開催した。

事業報告の後、講演会を開きその後の懇親会で会員・在学中の学生の父兄・中居賢司教授を交えて交流を図った。

講演1：口腔アレルギー症候群(OAS)の現状

講師：天竜こども医院 太田邦明先生

(歯学部7期・医学部30期)

講演2：循環器診療の最近の進歩と岩手医科大学の現況と今後の動向

講師：岩手医科大学 歯科内科分野 中居賢司教授  
ハーバード大学歯学部との提携による歯学部改革についてお話を頂いた。

医学部・歯学部・薬学部の入学案内も会員の皆さんに宜しく申し上げますと言ってお話を終えた。

転入は山中浩矢先生(歯学部35期)が静岡県に戻りました。

平成24年7月11日(木)会場『座座』

岩手医科大学静岡県人会に『静岡おでん』を送る。

今年度は圭陵会歯学部愛知県支部と合同で静岡県内にて夏頃 歯学部歯周療法学分野 八重柏 隆教授をお呼びして学術講演会を開催予定。

## 愛岐支部

## 12期 吉村宅弘

岩手医科大学歯学部同窓会愛岐支部平成24年度活動報告

7月21日土曜日

午後7時より 名古屋市 伏見「うえの山」

平成24年度集会および学術研修会

講師 歯学部36期生 朝日大学歯学部口腔外科学  
助教 伊藤友里先生

演題 ビスホスホネート製剤と顎骨骨髓炎について

11月10日土曜日

午後6時より 名古屋市クラウンホテル

歯学部同窓会懇話会参加（愛知県内歯学部同窓会・校  
友会の親睦会）

17期 山本洋吉 21期 東原健人 出席

12月9日日曜日

午後6時より 名古屋駅 名鉄百貨店銀座アスター

圭陵会愛岐支部総会（年1回 医学部と歯学部合同）

医学部21期 高橋正樹先生 新支部長に就任

平成25年3月20日祝日

午後6時より 名古屋市中区 名古屋ガーデンパレス

17校会24年度総会（旧6校を除く歯学部同窓会・校  
友会の支部の集い

石井みどり参議院議員「時局講演…ダイバーシティ  
を目指して」

12期吉村宅弘 15期山家 誠出席

## 静岡・愛岐支部合同学術講演会

残暑厳しい8月31日土曜日、静岡市葵区の静岡グランドホテル中島屋において午後5時より、歯学部同窓会静岡支部と愛岐支部合同で本学歯学部歯科保存学講座歯周療法学分野教授歯学部15期卒の八重柏隆先生をお招きして、「歯周病と全身疾患」について学術講演会を開催いたしました。1期生から32期生まで23名の先生がご参加くださり、愛岐支部1期生柴田輝郎先生の開会の挨拶に始まり、八重柏先生からは上記演題をおよそ1時間30分にわたって丁寧に解りやすく講演いただきました。

講演内容を簡単に要約しますと「生活習慣病」として広く認知されている歯周病は、その直接原因が歯面に付着するプラーク（歯周病原細菌）であり、口腔清掃習慣（プラークコントロール）の欠如が病状進行の促進因子となり、プラークコントロール習慣の定着、具体的な清掃技術の習得に重点が置かれ、患者さんに生活習慣の改善を強く求めることに

なること。しかし生活習慣は、禁煙や体重コントロール（ダイエット）にもみられるように、改善するのは決して容易なことではなく、そこが生活習慣病の難しさと言えます。

歯周病は、糖尿病、冠状動脈心疾患、誤嚥性肺炎、骨粗鬆症、免疫疾患等との関連が数多く報告されており、医科領域との連携を深めることが必至で、歯周病の改善が、全身状態に好影響を与えることが実証されつつあり、実例として、皆様すでにご承知のように、歯周病の治療を上手に行えば、糖尿病のコントロールに良い効果をもたらすことを、八重柏先生は、長年の豊富な臨床例をもとにお話くださり、糖尿病のコントロール状態を客観的に示す指標であるHbA1cの値が落ち着くことを、自験例でわかりやすく解説くださいました。また皮膚疾患である掌蹠膿疱症の方の口腔内を、地道に改善すると、歯肉の改善とともに、膿疱の症状もあわせて改善されると、大変興味深い症例も提示されました。このケースに関しては、歯学部7期山田雅夫先生より追加発言をいただき、山田先生も自らのケースについて改善例をお話になりました。

また禁煙の効果についても糖尿病、掌蹠膿疱症のどちらについても効果が見られ、禁煙を継続することにより歯周病の状態が改善されることも付け加えられました。

学術講演会の後、歯学部の現況について具体的にお話がありました。入学志願者数も改善傾向にあり、2年次の編入学とあわせて今年の入学者数に関しては、定員を充足したこと、入学者に占める圭陵会（医学部・歯学部合算）の子弟がおおよそ3割程度含まれていること4年次のCBT、OSCEはやはり重要で、歯学部においても65%程度の正解率を進級の目安にして、教育内容のレベルアップを図っていること等、歯学部改革を母校のために、熱心に先生ご自身が取り組まれていることを熱弁されました。

講演会終了後、全員の記念写真撮影を行い、引き続き午後7時よりカトレアの間において懇親会が開催されました。静岡支部長の山田先生よりご挨拶をいただき、愛岐支部歯学部5期北山真悟先生に乾杯の音頭をお取りいただき、和気合いあいの中、歓談が続きました。お開きの前に出席者全員、1期生より順に自己紹介を行い、午後9時過ぎに散会いたしました。設営に大変ご尽力いただきました、静岡支部12期齊藤衛先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。



兵庫県支部

8期 柳 治 夫

平成24年4月1日～平成25年7月31日

平成24年度

- 4月14日 同窓会本部理事会  
出席者 柳 8期  
記念館10階同窓会室（盛岡）
- 4月22日 中塚裕先生慰霊祭  
出席者 姫野 3期・平瀬 6期・柳  
兵衛会館 5F 講堂
- 5月19日 同窓会支部長会 出席者 村松25期  
評議員会 出席者 坂井17期  
記念館 9階歯学部講義室（盛岡）
- 5月26日 兵庫県支部常務会・会計監査  
三宮「にはとりや」午後7時00分  
斉藤善広先生歓迎会  
同上 午後8時30分  
出席者 姫野・菊池 5期・柳・濱口10期・坂井18期・林20期・有本22期・長谷川25期・村松  
斉藤善広先生（仙台市16期）
- 6月10日 圭陵会代議員会・総会  
出席者 平瀬  
岩手医大矢巾キャンパス（盛岡）
- 6月30日 圭陵会兵庫県支部総会  
出席者 平瀬・坂井18期・林・瀧口41期  
西村屋たじま路

- 7月28日 大歯大兵庫県同窓会会員大会  
出席者 坂井18期  
ANAクラウンプラザ神戸 午後3時
- 8月5日 兵庫県支部理事会  
兵庫県支部総会・会員家族懇親会  
出席者 姫野・菊池・平瀬・柳・濱口・坂井17期・坂井18期・林・有本・橋本24期・長谷川・村松・飛田27期・櫻根29期・左海30期・左海31期・家族12名  
ウェスティンホテル淡路
- 12月2日 無名会ゴルフコンペ（鶴見大学主管）  
出席者 姫野  
小野カントリー
- 12月8日 県下歯科大歯学部同窓校友会連絡協議会  
出席者 菊池・濱口・坂井18期  
ANAクラウンプラザ

平成25年度

- 2月13日 平成24年度第2回 兵庫県支部理事会  
出席者 姫野・濱口・坂井18期・有本・村松・左海31期  
三宮「グランケープ」
- 3月16日 平成24年度 臨時理事会  
出席者 平瀬・濱口・坂井18期・有本・橋本・長谷川・村松・櫻根・左海31期  
三宮センタープラザ西館 6階会議室
- 4月13日 歯学部同窓会理事会  
出席者 柳 8期  
記念館10階同窓会室（盛岡）
- 4月18日 第1回支部理事会  
出席者 菊池 5期・平瀬 6期・濱口10期・坂井18期・有本22期・橋本24期・長谷川25期・村松25期・田中27期・櫻根29期・左海31期  
グラン・ケープ（三宮）
- 5月23日 第2回支部理事会  
出席者 平瀬・濱口・坂井・有本・橋本・長谷川・村松・田中・櫻根・左海  
海鮮居酒屋「海流」（三宮）
- 5月25日 支部長会・評議員会・総会  
出席者 柳・村松  
岩手医大60周年記念館  
懇親会  
出席者 柳・村松  
グランドホテル・アネックス
- 6月19日 圭陵会代議員会  
出席者 平瀬

- 岩手医科大学  
6月20日 第3回支部理事会  
出席者 平瀬・濱口・坂井・有本・橋本・長谷川・村松・櫻根・左海  
個室ダイニング「禪」
- 7月13日 圭陵会兵庫県支部総会  
出席者 平瀬・木田7期・有本  
西村屋たじま路（三宮）
- 7月28日 兵庫県支部総会・会員家族懇親会  
出席者 姫野3期・菊池・平瀬・柳・濱口・坂井17期・坂井・杉本18期・林20期・有本・橋本・長谷川・村松・鎌田26期・田中・飛田27期・左海30期・左海・小豆島 正典（ゲスト）・原田（大阪府支部 11期）・会員家族12名  
ラヴィマーナ神戸
- 7月28日 日本大学歯学部・松戸歯学部同窓会兵庫県支部 創立80周年記念式典・祝賀会  
出席者 坂井  
ポートピアホテル（神戸）

#### 平成24年度総会報告

22期 有本 眞也

平成24年8月5日、ウェスティンホテル淡路において平成24年度の支部総会が開催されました。当日は盛夏らしい天候の中、周辺道路が総会会場の隣接場所でのコンサート開催による渋滞にもかかわらず、一人の欠席者もなく理事会の後、定刻より総会が式次第に従い行われ、村松専務理事司会のもと報告・承認および協議をつつがなく終了し、会員および家族全員の集合写真撮影の後に懇親会が催されました。

会員家族懇親会では濱口副支部長のご尽力により支部総会としては素晴らしい会場とお食事を御用意していただき出席者一同、料理に舌鼓を打ち杯を重ね久しぶりに再会する同窓会の会員との談笑やその子弟の成長に驚くなど良き思い出となり感謝しております。

また、出席者の間からは総会をより多くの会員が参加出来る様に色々な場所や魅力ある会場で開催することに賛同の声もあり、今後の課題と思われませんが、盛会のうちに無事終了し、午後2時過ぎに散会となりました。

当日の出席者は以下の通りです。

会員16名・家族12名 合計28名

3期 姫野 俊昭 5期 菊池 史郎

- 6期 平瀬達次郎 8期 柳 治夫  
10期 濱口 雅明 17期 坂井ひろみ  
18期 坂井 論 20期 林 祐介  
22期 有本 眞也 24期 橋本 誠一  
25期 長谷川 孝 25期 村松 弘康  
27期 飛田 順平 29期 桜根誠一郎  
30期 左海 美穂 31期 左海 孝昌



#### 平成25年度支部総会報告

31期 左海 孝昌

7月28日（日）12時よりラヴィマーナ神戸に於いて、平成25年度支部総会及び会員家族懇親会が開催されました。出席者は総勢33名（大阪府支部からは11期の原田善彦先生にもお越しいただきました）で、式次第に従い行われました。

まず始めに、本部からお越しいただいた岩手医科大学歯学部・小豆嶋正典教授よりご挨拶を頂戴し、その後、岩手医科大学の現状そして歯学部をとりまく状況についてお話頂き、さらに、最新のPET検査についてのご講演も頂戴いたしました。盛岡から遠く離れ、情報も届きにくい兵庫県支部会員一同とても有意義なお話を伺うことができみな感謝しております。

続いて、村松弘康専務理事の司会のもと報告・承認および協議が行われました。中でも、今回の協議事項において支部長交代があり、この度、任期満了に伴い柳治夫支部長が退任されることとなり、新支部長として18期の坂井論先生が全会一致で選出、承認されました。柳前支部長は「3期6年でしたが会員の協力を得、細やかに会員への情報提供を心がけた、そしてなによりもアットホームな会にできたと思う」と挨拶され、また坂井新支部長より「今後も柳前支部長の方向性を継承し先輩、後輩がいっそう交流できる会にしていきたい」と、抱負を述べられました。

総会終了後の懇親会では北側は神戸の街並みと神戸空港の滑走路を眼下に見下ろし、南側は人工の砂浜から広がる大阪湾と、ちょっとリゾート地を思わせるような見晴らしのいい結婚式のパーティー会場で、美味しいお食事に舌鼓をうち、杯を重ねなが

ら、会話ははずみ、同窓会の会員と楽しいひとときを過ごしました。また宴会半ばには長谷川孝理事のお知り合いの大道芸人Qちゃんが坂井新支部長を巻き込んで愉快的パフォーマンスが行われ、お子様だけでなく出席者全員がひとつになって大盛り上がり、よりいっそう楽しく思いで深い懇親会となりました。楽しい時間もあっという間に過ぎ、盛会のうちに無事終了し、来年は今年以上の参加者を、いっそう盛り上げることを誓い、最後に集合写真撮影をして散会となりました。



## 岡山県支部

### 歯学部同窓会岡山県支部と本学との懇親会報告

12期 近藤 康弘

7月19日木曜日夜に、第31回日本歯科医学教育学会が岡山大学主催で開催されたのに合わせて、三浦歯学部長、城同窓会長ならびに八重柏歯周病態学教授が来岡されたので、岡山支部の会員との懇親会を開催しました。

当日、岡山は梅雨明け直後で湿度の高い初夏の天候でした。懇親会では三浦学部長から震災後の岩手県状況に加えて、岩手医大歯学部の近況に関するお話を、パワーポイントを使ってご紹介頂きました。中でも、翌日が教育学会でもある事から、教育プログラムについて米国ハーバード大歯学部准教授12期の永井先生を中心に岩手独自の教育プログラムを現在構築中であること、またその教育プログラムを検討するチームには若手教員が中心となっている事等詳しいお話を頂きました。今まで同窓会報での情報の範疇でしか判らなかったのも、そのご苦労と将来の岩手医科大学歯学部の発展に結びつけようとする熱意が伝わるお話でした。

現在、岡山支部は10名の会員で、その多くは20期までの同窓が大半で、岩手医科大学歯学部には特に思い入れが強い世代の面々が中心です。懇親会では全員が自己紹介を行い、相互の親睦を図り学生自体の部活動についての昔話にも花を咲かせ、終止楽しく和やかな時間を過ごす事ができました。



## 広島県支部

14期 平尾 慶太

### 平成24年度広島県支部活動状況 (2012.1.1~2012.12.31)

現在会員数は25名で、うち16名が開業歯科医です。(2012.12.31現在)

平成24年度は、医学部と合同で4月21日(土)に圭陵会広島県支部総会(ひろしま国際ホテル、参加者18名うち歯学部9名:長崎・村上・荒田・平尾・山口・荒槇・斎藤彰・中尾匡・齊藤正)と8月25日(土)に学生を囲む会(ひろしま国際ホテル、参加者10名うち歯学部5名:荒田・平尾・斎藤彰・坪井将・柄)を開催しました。

歯学部としては1月21日(土)に広島県支部総会・新年会(八雲流川店 参加者14名:長崎・大平・村上・江島・荒田・岡田・森崎・平尾・山口・荒槇・中尾匡・坪井・柄・斎藤正)を開催しております。

また、教授来広の折には懇親会を開催しておりますが、5月17日(木)に日本口腔科学会で来広された城茂治教授、杉山芳樹教授をお迎えし酒席の宴(うめだ 参加者 医学部より豊田敏支部長 歯学部10名:大平・下永・村上・荒田・平尾・山口・荒槇・坪井・斎藤正・槇坪)を開きました。その際、両教授から近況報告と歯学部改革の現状についてのお話があり歯学部再建への熱意がひしひしと伝わってまいりました。また、11月23日(金)に日本歯科保存学会で来広された八重柏隆教授をかこみさやかながら懇親の場(酔心本店 参加者5名:荒田・岡田・平尾・山口・荒槇)を設けました。ここでも歯学部改革の進捗状況の報告があり歯学部の存続をかけた取り組みに皆感服いたしました。

それから毎年文月の頃、全国歯科大学同窓会広島県支部長会併設文月会という会に参加し同窓会どうしの親睦に努めております。昨年は、7月7日

(土)に開催され(ANAクラウンプラザホテル広島参加者3名:平尾・山口・中尾匡)25大学・歯学部(婦人歯科医会を含む)の参加がありました。

また、基心会という九つの新設歯科大学・歯学部(朝日大学,奥羽大学,鹿児島大学,昭和大学,鶴見大学,長崎大学,福岡歯科大学,北海道医療大学と本学)でつくる会に参加し,会員数の少ない大学同士で情報交換を行なっております。1月28日(土)に新年会(安芸茶寮 参加者4名:荒田・岡田・平尾・山口),9月29日(土)に保険講習会,11月18日(日)にゴルフコンペ(フォレストヒルズ参加者1名:江島)を行いました。

当支部は少人数ながら,7期の荒田斎先生が県歯の常務理事,8期の岡田信彦先生が安芸歯科医師会の会長の要職を務められております。また,3期の長崎昭憲先生は長遠寺(じょうおんじ)のご住職でもあり,鈴木三重吉赤い鳥の会(<http://akaitorijpn.org/>)の会長として文化活動にも貢献されております。

今後とも広島県支部をよろしく願いいたします。

## 香川・愛媛・高知支部

1期 前田 健一郎

四国支部の活動について報告致します。

四国各地区での24年度同窓会は,それぞれ開催しておりますが,四国支部会としての全体会は,開催しておりません。

上記,報告致します。

# 平成24年度活動報告

## 庶務部

庶務部長  
佐藤 忠 朋

### 1. 事業

- 5月20日(日) 第42回学術研修会
- 5月26日(土)～27日(日)  
第28回全国歯科大学学術担当者連絡会(米内 ホテルパレスイン鹿児島)
- 9月 広報第27号発刊
- 12月9日(日) 第43回学術研修会

### 2. 会議

#### [理事会・評議員会・総会]

- 4月14日(土) 会計監査(同窓会会議室)  
常任理事会  
理事会
- 5月19日(土) 支部長会  
評議員会・総会  
懇親会
- 2月2日(土) 常任理事会(歯学部会議室)

新年会

#### [部会]

(各部会より)

### 3. 支部との交流会

- 5月17日(木) 広島県支部支部会(城)
- 5月26日(土) 道央支部総会(小豆嶋)
- 7月7日(土) 圭歯会勉強会(城 宮城県歯科医師会館)
- 14日(土) 神奈川県支部支部会(城 聘珍樓本店)
- 19日(木) 岡山県支部支部会(城)
- 9月12日(水) 日歯代議員を囲む会(藤田顧問)
- 10月28日(日) 関東甲信越ブロック千葉大会(城 京成ホテル「ミラマーレ」)
- 12月14日(金) 圭陵会三八支部忘年会(城 八戸グランドホテル)

- 1月19日(土) 岩手県支部新年会(城 盛岡グランドホテル)

### 4. 他大学同窓会・日歯との交流

- 9月17日(月) 12校会議ならびに日歯会長の時局講演会(城, 田中, 神垣, 小室 ホテルグランドパレス)
- 10月6日(土) 第59回全国歯科大学同窓会・校友会談話会  
主管 日本大学歯学部同窓会(城, 田中 第一ホテル)
- 2月11日(月) 村松正治先生日本大学専任副総長 渋谷鑛先生日大松戸歯学部長就任祝賀会(城 帝国ホテル)
- 3月23日(土) 石井みどり中央後援会顧問会議(佐藤, 田中 アルカディア市ヶ谷)
- 3月24日(日) 12校会議ならびに日歯会長の時局講演会(田中, 小室, 安成, 松村, 仙田, 北總, 佐々木 ホテルグランドパレス)

### 5. 圭陵会関係

- 5月23日(水) 圭陵会盛岡支部医大教授就任祝賀会(城 ホテル東日本)
- 6月9日(土) 圭陵会支部長・参与会
- 6月10日(日) 圭陵会代議員会・総会
- 10月20日(土) 圭陵会福島県支部総会(武田郡山 ホテルハマツ)

### 6. その他の交流

- 8月4日(土) 東京支部在校生を囲む会(田中光郎 アルカディア市ヶ谷)
- 10月8日(月) 近藤尚知インプラント教授就任祝賀会(城 盛岡グランドホテル)
- 11月10日(土) 6期生クラス会(藤田顧問 東京會館レストランレインボー)

1月25日（金） 新会員（43期）との懇談会  
（歯学部5階講義室）

## 会 計 部

会計部長  
村上正博

- 1) 会費徴収進捗状況
- 2) 国家試験合格率アップのための継続的學生支援  
・大学の国試対策に協力した。
- 3) 平成23年度からの会費徴収方法の変更に関して、各支部長はじめ各会員に対して理解を頂けるよう務めた。
- 4) 東日本大震災被災会員への対応として、第二次の義援金支給と平成24年度の年会費の減免を行った。

## 広 報 部

広報部長  
三善 潤

平成24年3月15日 ニュースレター 発送  
平成24年7月19日 広報部会 編集会議  
平成24年10月2日 広報第27号 発行  
平成25年3月15日 ニュースレター 発行

※同窓会HP更新については随時

更新内容：故・大堀名誉理事長訃報、広報誌等PDF、学術研修会関連情報  
同窓会員の活躍情報、役員会議事録 等

## 学術研修部

学術研修部長  
中野 廣一

### 第42回学術研修会

日 時 平成24年5月20日（日）9：50～15：00  
会 場 岩手県歯科医師会館8020プラザ  
講 演 I. 10：00～11：50

講師 飯島 洋一 先生

（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
社会医療科学講座 口腔保健学准教授）  
演題 再石灰化理論に基づく初期齲蝕  
治療のすすめ

脱灰病変とは、初期齲蝕の特徴、フッ化物のエビデンス、再石灰治療のすすめ方、特定保健用食品の再石灰化能

### II. ランチョンセミナー 12:00～12:50

講師 久慈 昭慶 先生

（岩手医科大学歯学部総合歯科学講座  
（障害者歯科学分野）准教授／歯科医療センター 障がい者歯科 臨床科部長）  
演題 岩手医科大学・障がい者歯科での治療

外来紹介、主な障害と行動調整

### III. 13：00～15：00

講師 野田 守 先生

（岩手医科大学歯学部 総合歯科学講座  
総合歯科教育学 保存修復学分野 教授）  
演題 顕微鏡下での歯内療法

※3講師の講演後抄録は同窓会HPに掲載済

（<http://www.imu-dent-aa.com/kako42.html>）

参加人数 歯科医師48名、学内歯科医師11名、スタッフ20名、学生1名、研修医49名、他大学招待者（全国歯科大学学術研修会枠）2名、学術研修部員20名 総計151名

### 第43回学術研修会

日 時 平成24年12月9日（日）9：50～15：15  
会 場 岩手県歯科医師会館8020プラザ  
講 演 I. 10：00～12：00 13：15～15：15

講師 寺内 吉継 先生

（神奈川県大和市開業/歯内療法専門開業医/東京医科歯科大学非常勤講師）

演題 グローバルスタンダードのハイエンドを知る

近年のグローバルスタンダードの潮流、歯に感じる痛み、最新の根管形成・根管洗浄法、根管治療の失敗から学ぶ、根管充填材と充填法、歯根破折と破折予防、効果的な再治療

### II. ランチョンセミナー 12：15～13：00

講師 佐藤 和朗 先生

（岩手医科大学歯学部 口腔保健育成学

講座 歯科矯正学分野 講師)

演題 歯科医療からみた睡眠時無呼吸症候群

閉塞型睡眠時無呼吸低呼吸症候群 (OSAHS), OSAHSと全身疾患, 口腔疾患との関わり, OSAHSの歯科的治療法, スリーププリントの適応と効果, 歯科医療からみた睡眠呼吸

参加人数 歯科医師109名, 学内歯科医師10名, スタッフ13名, 学生2名, 研修医14名, 他大学招待者 (全国歯科大学学術研修会枠) 1名, 学術研修部員18名 総計167名

○学術研修会カラー案内チラシ作成 (2回)

○学術研修部会会議 5回開催

- 1) 平成24年7月12日 (木) 19:00~20:30 (60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 2) 平成24年10月11日 (木) 19:00~20:10 (60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 3) 平成24年11月29日 (木) 19:00~20:30 (60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 4) 平成25年2月21日 (木) 19:00~20:30 (60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 5) 平成25年5月16日 (木) 19:00~ (歯学部4階会議室)

○歯学部同窓会HPへの学術研修分野等での協力。

#### 全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会 (学術連絡会) 関連

- ・第28回学術連絡会準備会  
 主管校 鹿児島大学歯学部同窓会・長崎大学歯学部同窓会  
 開催日 平成24年1月29日 (日)  
 場 所 (株)ヨシダ福岡営業所 セミナールーム  
 本会からの出席 なし
- ・第28回学術連絡会  
 主管校 鹿児島大学歯学部同窓会・長崎大学歯学部同窓会  
 開催日 平成24年5月26日 (土)  
           5月27日 (日)

場 所 ホテル・パレスイン鹿児島

本会から1名出席 (米内正学術研修部顧問)

### 事務管理部

事務管理部長

星 加 修

- ・庶務部と協力の上, 事務伝達, 事務処理を行った。
- ・理事会メーリングリストを構築し, 理事・常任理事の意思疎通の円滑化を図った。
- ・本会の事務全般の記録, 会議の資料の作成, 保管を行い圭陵会会報への会務報告の掲載を行った。
- ・支部長会メーリングリストを作成し, 支部との連携, 情報交換の円滑化をはかった。

### 渉 外 部

渉外部長

田 中 英

平成24年

- 9月17日 12校会議ならびに日歯会長の時局講演会 (東京) 城, 田中, 神垣, 小室出席
- 10月6日 第59回全国歯科大学同窓・校友会懇話会 (東京) 城, 田中出席

平成25年

- 2月11日 村松正治先生日本大学専任副総長・渋谷鑛先生日大松戸歯学部長就任祝賀会 (東京) 城出席
- 3月23日 石井みどり中央後援会顧問会議 (東京) 佐藤, 田中出席
- 3月24日 12校会議ならびに日歯会長の時局講演会 (東京) 田中, 小室, 安成, 松村, 仙田, 北總出席

## 平成24年度 第43回学術研修会報告



### グローバルスタンダードのハイエンドを知る

講師：寺内 吉継 先生

- ・神奈川県大和市開業
- ・医療法人社団 インテリデントCT&米国式根管治療センター 理事長
- ・東京医科歯科大学大学院 非常勤講師
- ・日本顕微鏡歯科学会指導医
- ・社会医療科学講座口腔保健学准教授)

日時 平成24年12月9日

場所 岩手県歯科医師会館8020プラザ

最初は日本における歯科医師の現状，他国と比較しての日本の歯科医師の位置，収入などの比較の話から講演は始まりました。

本題にはいると，Endoの成功率を上げるには正確な診査，診断が基本で感染（細菌）の除去と防御に尽きると言うこと。

診査，診断について。

最初に痛みの特徴について

痛みは筋肉系，神経系，血管系に分類される。

- 1 筋肉系：鈍痛，うずき，重い感じ
- 2 神経系（歯髄）：ぴりぴり感，ひりひり，じんじん感（電氣的）
- 3 血管系（炎症等）：ずきずき感，どくどく感（鼓動的）

肩から上で感じる痛みの9割が筋肉にある。と，言われている。

Heteropic Pain（異所性痛）

痛みを感じる場所に麻酔や処置をしても痛みの程度に変化なし。

- 1 Referred：痛みの原因の部位を支配している中枢神経が同神経支配下にある別の場所で感じる痛み。
- 2 Central Pain：中枢神経に痛みの原因があり，その神経支配下の部位で感じる痛み。
- 3 Projected Pain：痛みの原因部位にある神経の投影線上で感じる痛み。

痛みを伝える神経繊維

- 1 A-Beta Fibers：軽度の触覚，圧覚を伝える。太い有梢の神経繊維で伝達速度は速い。歯根膜に多く分布している。
- 2 A-Delta Fibers：歯髄の外側に位置し象牙細管に入り機械的刺激に反応。細い有梢の神経繊維で伝達速度が速い（12-30m/s）。象牙細管内溶液の動きに反応し痛みを伝達。ピリッとした一過性の痛み。EPTに反応。
- 3 C fibers：細い無梢の神経繊維で伝達速度が遅い（0.5-2m/s）。歯髄の中枢に位置。機械的，温度，化学的刺激に反応。歯髄内の強い刺激に反応し痛みを伝達。ヒリヒリ，ジーンとした持続的な痛みで，Referred painの主な原因。歯髄炎の主な痛み。EPTに反応しない。

一晩中痛かった，冷たいものは大丈夫だが熱いものはしみる。痛みが長く続くものはC fibersがやられているので抜髄しないとイケない。

痛みに対する脳の反応には1痛覚過敏（域値低下）2関連痛が起こる。

そうすることにより，痛みを伝える。

自律神経失調症とは，交感神経が高い状態が続き，筋肉が緊張し，歯が痛いと感じることがある。自律神

経の節後繊維はC繊維である。自律神経失調症の症状は舌や顎関節、咀嚼筋などの体の一部が痛くなったり具合が悪くなったり、精神的に落ち込むなど様々。いくつか重なって症状が現れたり、症状が出たりでなかったりする。患者さんが歯痛を訴えても処置してはいけないこともある。

歯に感じる痛みの原因

歯原性:

①歯の冷、温痛②顕著な打診痛（歯根膜への炎症）

A-Delta fiberとCfiberが関与・被疑歯に局所麻酔で痛みが消失。

非歯原性:

顎関節、狭心症、脳腫瘍、筋肉、自律神経などが歯の痛みとして感じる。

C fiberが関与・いたみを感じる歯に局所麻酔しても痛みは消失しない。

## 1 Access Cavity Preparation

診査、診断で抜髄が必要になりカリエス、修復物、補綴物を除去したあと Access Cavity Preparationになります。

Access Cavity Preparationは歯髓腔へ穿孔、髓腔開拓、根管孔明示。

大事なことは根管数と根管孔の位置を把握すること、講演では詳しく説明していただきましたが、寺内先生の著者『How to Endodontics The State of the art』クインテッセンス出版を診療の参考にしてください。

下顎小白歯や下顎前歯の2根管の症例を図や動画を用いて説明されました。

歯内療法で保存的に歯を残すため、なるべく健全な歯質を削らないために、根管の数と位置を把握するためにCTは有効である。

2 髓腔開拓時、余計に削らないために寺内先生はLA AXCESS BURと言う先端にダイヤモンドのついていないバーを使用しているそうです。

## 3 根管形成=穿通+根管拡大+根管洗浄

穿通は#8~15のステンレスファイルを使っている。なぜ#8~15かと言うと、統計上根尖孔の最大径は0.13mmだからである。

穿通したら#15まではステンレスの手用ファイルを使って、#15まで拡大してそれからNi Ti ファイルを使う。

#15が入らないときは#10を50回程ファイリングする。ステンレスはコシがあるので、回転させずに入れる。最初から#15を使うとコシが強く湾曲根の場合、まっすぐ穿孔してしまうこともあるので、最初は#10以下で。

根管の上部（歯冠側）が細くそこにファイルがあたり根尖まで到達しない時は太いファイルで上部（歯冠側）の拡大から行くと良い。

根管形成（拡大）

根管形成はNiTiファイルで行っている。

ゆえに寺内先生の診療室には#20以上のステンレスファイルは置いていないそうです。

そのような手順をきちんと行くとたとえ90度根尖で湾曲している根もきちんとした根管充填まで出来るそうです。

一番のポイントは自費治療で行うことだそうです。きちんとした治療のもとにきちんと報酬を貰うことできちんとした治療ができる。そうです。

根管形成の説明はNiTiファイルの説明でした。

NiTiファイルの共通点はすべてテーパーがついていること。

最初のNiTiファイルはブキャナン先生の開発した、NiTi Greater Taper

(GT) Filesで、これは初めからフレアー状のテーパー形態になっていて、先端が#20で一番根元の太い部分で#100になっていて、一本のファイルで根管形成ができる。

NiTiファイル特性に影響する因子

1 オーステナイト

室温で硬いNiTiファイルの成分

2 マルテンサイト

延展性があり柔らかい。たいていのNiTiファイル内に微量が室温で認められる。形状記憶がある。

3 R相

延展性，弾性領域が広くストレスが少ない。プレマルテンサイト相とも呼ばれ応力や熱処理により生じる。形状記憶もある。

4 切削加工（ねじれに弱い）ねじれ加工（ねじれ易い）

NiTiファイルの破折について

○NiTiファイルは1-5%の頻度で破折していてSS（ステンレススチール）手用ファイルと比較すると5～7倍の頻度で破折している。

○超弾性NiTiファイルは永久変形するまでの限界が高いがSS手用ファイルより数倍弱い力で破折する。

○NiTiファイルの切削力は一回使用で50%低下し，耐ねじれ疲労も落ちる。

根管形成と充填

従来のいわゆる保険の治療がステップバック法+側方加圧充填ですが，この方法は根尖側からいじっていくので，削片が詰まりやすい，ファイルが破折しやすい，密な根充が出来ないと言う問題点があり，ならばステップバック法で根管形成するならシーラーとシングルのGPポイントを用いた，ステップバック法+シングルポイント充填をお勧めします。

やはりお勧めはクラウンダウン法+Continuous Wave充填。これは，NiTi rotary ファイルで根管形成したサイズのGP+シーラーを挿入して200度のSystem B Pluggerで熱する。これは根尖部分の側枝も閉鎖することができる。

根管内洗浄

感染根管にBiofilmを形成するやっかいな症例がある。

Biofilm

- ・ Exopolysaccharide (ESP:菌体外多糖類) の有無・微生物集合体（長期間の感染で生じる）
- ・ バイオフィームは浮遊菌と比べ抗生物質に対して1000倍の抵抗力がある。
- ・ CHXに対しては300倍の抵抗力。
- ・ 3 mixなどに対しても同様な傾向があった。

基本的にバイオフィームは外科的に機械的にはないと除去できない。根管内の洗浄は何を使っているか？NaOClは温度と時間に比例した殺菌力があります。

6%濃度，1分で4割，3分で6割。

2%濃度，それぞれ2.8割，3.5割を殺菌。

日本ではまだ売られてないそうですが，QMixと言う薬剤は6%NaOClと同じ殺菌効果でMTADよりバイオフィームの除去効果が高く，17%EDTAと同様のスメア層除去力をもつ。水酸化カルシウムをCHXで練って使用するのもバイオフィームに効果があるそうです。

根管内の洗浄は何を使っているか？手用シリンジでは根尖付近までは届かず，洗浄効果も悪いのでPiezo Flow という超音波洗浄を使用している。

超音波洗浄を1分間使用すると80%が無菌化，対して手用シリンジでは27%。

ではどうしたら100%無菌化できるのか？

このような論文があったそうです。

- ・ 根尖孔を#45まで広げたら根管を62%無菌化することができた。
- ・ 根尖孔を#55まで広げたら根管を89%無菌化することができた。

- ・根尖孔を#60まで広げたら根管を100%無菌化することができた。  
あまり削ると破折の心配もあるが、どうしても排膿がとまらないときは試してみてください。

根尖までGPが到達しても治癒しないケース

- ・ Coronal leakage
- ・ 細菌増殖可能な栄養源や感染の残存（未処置根管の存在）
- ・ 歯根破折
- ・ GPの感染
- ・ 根尖孔外の感染（バイオフィルム）

逆に根尖までGPが到達してなくても、無菌が保たれていれば治癒しているケースになる。

根管充填の時期は？

1回法 VS 複数回法

- ・ 複数回法の方が1回法よりも殺菌率が若干上回っている。
- ・ 抜髄なら1回法で根管充填までおこなうべきである。
- ・ 感染根管処置をより確実におこなうのであれば2、3回通院させてじっくりと時間をかけて無菌状態にしてから根管充填すべきである。それ以上は無意味である。
- ・ 加熱タイプの垂直加圧根管充填法がよい。
- ・ 複数回法の場合、仮封は十分な長さを取りしっかり詰めるべきである。

MTAとは根管充填セメントです。

MTAの封鎖性は初期硬化時は膨張による機械的封鎖（数週間）。象牙質とMTA間にアパタイト結晶が生じて化学的に接着する。粉液比にかかわらず膨張する。

MTAはCaイオンを放出し組織液（リン酸緩衝生理食塩水）からのリン酸と結合しリン酸カルシウムが生じHAの形成を促進。これが象牙質とMTA上に中間層（FL）として作られ、MTAと象牙質をつなぎとめる。

MTAを根管充填すると

- ・ 骨誘導とセメント質誘導
- ・ GPと比べ経時的に耐歯根破折性が高くなる
- ・ 重度の感染根管でも効果的に細菌を封じ込め、不活性化する
- ・ 硬化後でもpH12.5（3H）あり細菌の増殖を抑制pH9.5（1W）
- ・ 圧縮強さ24時間で40MPa、21日後でも67MPa
- ・ 大きな根尖病巣があり難治性の感染根管で用いると治癒する傾向がある
- ・ 外科処置と比較して侵襲性も少なく治癒速度が速いことが多い
- ・ 再根治時の除去性が悪い以外は全て理想的な根管充填材の特性を満たしている

歯根破折

- ・ 根管治療した歯にクラウンを装着しない歯は装着した歯よりも6倍も短命だった（垂直性歯根破折を起こした）
- ・ 第二大臼歯は他の歯と比べ10年予後の破折率は有意に高かった。
- ・ 近心と遠心の両方にコンタクトポイントがある歯は単独歯や片方しかない歯と比較して有意に耐破折性が高かった。

歯根破折の原因

1：非エンド由来

- ・ 隣接歯の抜歯
- ・ 長い鑄造ポスト
- ・ 失活歯のインレーやCR充填

・ブラキシズム

・咬合性外傷

2：エンド由来

・過度な根管充填圧

・過度な根管形成圧

・過度な根管壁の切削

歯根破折対策

Ferrule（帯環効果）はコア部とクラウン部の両方で得られれば最大限の効果を発揮できる。

Ferruleは2ミリ以上あればコアの長さには影響しない。

破折器具の統計

・術前に根尖病変があり破折器具を放置した場合は治療予後は有意に悪くなる。

・破折器具の分類: NiTi file 78.1%, 手用ファイル5.9%

・破折頻度は3.3%

破折器具の除去では現在超音波チップが最も効率良く除去できる方法。

講演会では、チップ、バー、ループを用いて巧みに湾曲根尖に残った破折したファイルの先端を次々に除去していく様子を動画を用いた説明をしてくださいました。

まさに寺内先生にかかれれば除去できない破折ファイルはナシという印象でした。

GPを除去する理由

1 自体の感染

2 Biofilmの除去のため。

（フィン、イスマス、側枝、未処置根管、ファイル非接触根管、根尖孔外など）

GP除去対処方法

GPの除去

まずは機械的に除去（超音波+EGRR）1ミリ程残ったら化学的除去（クロロホルムで溶かす）

（学術研修部 22期 白倉 義之）



ランチョンセミナー

歯科医療からみた睡眠時無呼吸症候群



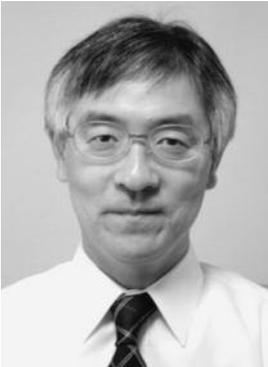
講師：佐藤 和朗 先生  
(岩手医科大学歯学部口腔保健育成講座 歯科矯正学分野特任講師)

睡眠時の気道閉塞が原因とされる閉塞型睡眠時無呼吸低呼吸症候群（OSAHS）は成人の約3%が罹患しているといわれており、その治療法のひとつとして、歯科では下顎を前方に誘導し、気道の開大を促す下顎前方誘導装置を適用することがある。岩手医科大学附属病院歯科医療センターでは平成14年から特殊外来として「いびき・歯ぎしり外来」を設立し、現在では矯正歯科といびき・歯ぎしり外来を併設し、睡眠医療科を中心とした医科との協力体制のもと診療と臨床的研究を継続している。

OSAHS患者では肥満症や循環器系疾患との関わりが指摘されているが、都道府県別の成人肥満者の割合が高い県が東北地方に集中している事や、小児においても東北地方の肥満者頻度が高い事は、今後の患者の実態数や患者予備軍の推定に重要な項目になると考えられる。一方、歯科的な見地からは下顎後退の顎態を有する患者が多いことが特徴である。下顎前方誘導装置（OA）を適用した場合、装置適用前の気道狭窄が強い程、治療効果として気道の開大の効果は得られるが、この効果を術前の顎顔面形態や下顎の移動量からスクリーニングするのは困難であり、装置適用後は治療効果の確認が必要であることなどが解っている。現在OSAHSの保存的治療は持続式陽圧呼吸療法（CPAP）かOAの選択である事を考慮すれば、今後も医科との連携治療を充実させて地域医療に貢献していきたいと考えている。

さらに当科における矯正臨床では呼吸機能に着目し、OSAHS治療と関連して上顎前突に分類される成長発育期の下顎後退症例において、顎骨の成長発育や矯正治療の効果が気道の形態にどのように影響するのか、また小児の睡眠呼吸に関してどのように関わっているかを臨床的に検討している。この背景は、矯正治療でOSAHS患者予備軍の予防的治療が可能かどうかの検討である。加えて、顎骨の移動を行う外科的矯正治療の適用となる顎変形症患者における手術前後の気道の断面積、容積の変化とそれに伴う無呼吸低呼吸指数の変化について検討している。矯正臨床では呼吸機能に影響を及ぼす治療が行われていると考えており、今後も知見を積み重ねていきたいと考えている。





### 根分岐部病変の歯周治療

講師：八重柏 隆 先生

(岩手医科大学歯学部 歯科保存学講座歯周療法学分野 教授)

日時 平成25年 5月26日

場所 岩手県歯科医師会館8020プラザ

私は岩手医科大学歯学部15期卒で、卒業して既に約30年経過しました。昭和60年に第二保存の大学院（当時の教授は現名誉教授の上野和之先生、講座は歯科保存学第二講座歯周病学教室）に入学し、上野先生から歯周外科の醍醐味をはじめ、人としてあるべき姿まで、何から何まで懇切丁寧にご指導いただきました。これまで実に多くのいろいろなことがありましたが、現在の私が大学で現職にあるのは、上野先生をはじめ、数多くの先生による温かいご支援、ご指導のお陰です。この場を借りて御礼申し上げます。

歯周病患者さんの治療計画について相談を受けることが多くあります。その大部分は、1本ないし数本の歯の保存の可否判断ですが、つつい歯周病の進行した特定の歯のみにとらわれがちです。歯周病は1歯に限定していることはむしろ希です。歯周病は自覚症状がないので、患者さんも治療を担当する歯科医師も気がつかないままに口腔全体に進行している場合が少なくありません。木（1本ずつの歯）のみを見て森（一口腔）全体を見ないのはよくありません。勿論、森（一口腔）全体を見たつもりで、実際には木（1本ずつの歯）を見ていないのは論外です。根分岐部病変を伴う歯についても同様です。根分岐部病変に罹患している歯は、隣接歯、対合歯の状態によって保存の可能性が大きく影響されますし、個々の根分岐部病変の罹患状況を適切に正しく評価、把握し、対処することは、その歯の長期保存に欠かせません。

根分岐部病変は歯科臨床で比較的高頻度で遭遇する、やっかいな歯周病変です。その診査・診断から最終的な治療方針は、担当医によって実に大きく異なっていると思います。分岐部病変の状況（根分岐部病変の分類、歯髓の生死、咬合状態、破折のリスク等）把握も大切です。また前述の通り、根分岐部病変を伴う患者さんの歯周治療計画を立案する際には森（一口腔単位）全体を診る必要もあります。分岐部病変を伴う歯の隣接歯、対合歯、患者さんの特徴等を総合的に把握することは、最終的な咬合回復を見据えた治療計画立案の際に不可欠な条件です。

個々の歯を単位とすれば保存可能な歯（歯根）であっても、骨レベルの保持等も含め、総合的に判断すると早期の抜歯が望ましい場合もあります。根分岐部病変罹患歯は、保存を目的に歯内処置や歯根分離・歯根切除まで施し、やっとの思いで固定しても、結果的に数年の内に歯根破折や歯周病の再発等で抜歯に至ることも临床上少なくありません。そのため、MI（minimal intervention）の観点から抜髄処置や動揺歯固定のための健全歯質の削除をできるだけ避けることが結果的に長期に保存できる場合が数多くあります。また将来的には最終的に抜歯してインプラントに置換することを念頭に、根分岐部病変部を歯周外科処置等で清掃性を改善し、抜歯までの間をSPT管理することが有効な場合もあります。

本講演では、根分岐部病変を伴う歯周病患者さんの治療計画を立案する際に是非押さえておくべきポイントや、根分岐部病変に罹患した歯に対し、何を診査基準にどのような方針・処置が考えられるか等、具体例を参考に解説しました。また、温故知新を念頭に歯周外科とインプラントで保存できる歯とインプラントに置換した方が良い歯を早期に見極め、一口腔単位で仕上げる重要性もお話ししました。それら具体的な知識や技術は、下記の参考文献や関連動画を参照することにより確認可能です。今回のテーマである根分岐部病変も含め、歯周病診察をする際に本当に大切なことは、木をみる（1本1本の歯を分岐部病変も含め細かく診る）、森を見る（一口腔単位として診る）、人を見る（人物として診る）です。私はこれをいつも心がける

ようにしております。今回の講演が少しでも皆様の日常臨床の一助になれば幸いです。私のつたない講演におつきあいいただきまして、誠にありがとうございました。

#### 参考文献他

- ・第9章 根分岐部病変の治療 八重柏隆, 村井治 98~107p 臨床歯周病学第二版 (医歯薬出版, 2013)
- ・ヘミセクション, ルートリセクション, トライセクション等の動画ファイル (日本歯周病学会HP <http://www.perio.jp/>, 歯周病学基礎実習動画サイトより無料ダウンロード可能)





## 「補綴歯科学の今後の展望」と 「今さら聞けないインプラントの基礎知識」

講師：近藤 尚知 先生

(岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座 教授)

1. インフォメーション・テクノロジーを応用した最新の補綴治療システム
2. インプラントをいかに補綴治療に応用するか？
3. 理想的な治療計画の立案の重要性！！
4. 問題症例の検証：なぜインプラント治療に関するトラブルが多いのか？
5. まだ間に合う！（今さら聞けない）インプラントの基礎知識

：患者さんとの一問一答を例に

近年のインフォメーション・テクノロジー（以下IT）関連技術の発展は目覚ましく、歯科関連の技術もIT革命によって大きく変わりつつある。エックス線CTのデータを利用したインプラント埋入シミュレーションの過程を経てサージカルガイドを光造形によって作製したり、CAD/CAMテクノロジーによって削り出して、埋入手術に応用するといった手技は、すでに常識的なものになりつつある。セラミック修復物の製作に至っては、セラミックブロックからクラウンやブリッジのフレームを削り出すだけでなく、印象採得もデジタル化され、口腔内を光学的にスキャンして、そのデータからダイレクトに、CAD/CAMテクノロジーを応用して補綴装置製作を完了すことまで可能となってきている。つまり、印象材や石膏不要の時代もそこまで来ているという予感さえするくらいにIT技術の歯科医療への導入スピードには目覚ましいものがある。

一方、インプラントを含めた補綴歯科治療も、単に噛めれば良いという時代から、審美的要件も満たしたものが求められる時代へとかわりつつある。また、超高齢社会に突入した日本においては、歯科疾患の動態だけでなく全身疾患にも配慮しながら、これらの要件をクリアしていく必要がある。それと並行して、様々な新規材料と新たな技術の開発によって、より天然歯に近い高度な補綴処置が行えるようになり、患者側の要望に十分応えることができるようになってきた。このような状況は、患者にとって大きな福音であるが、我々歯科医師は、常に新たな知識と技術の修得に努めていかなければならないことも事実である。

上記内容をふまえ、今後の歯科医師の向うべき方向を検討してきた結果、その第1歩として、最新の技術を応用した理想的な治療計画の立案できる歯科医師を育てることが重要であるという結論に達した。理想的な治療を歯科医師が提案し、患者との相談を経て、時間的かつ経済的妥協点を見出し、できるだけ理想に近い、レベルの高い処置を行うのが、本来あるべき姿である。理想的な治療の遂行は、患者のQOLの維持・向上に大きく貢献できるものであり、論理立ててその内容を説明すれば患者にも当然理解できるものである。先進技術の英知を結集した歯科診療を遂行できるよう精進し、それを患者の幸福のために生かすことを考えることが重要であると同時に、先進技術を生かす場を拡大していかなければ、歯科医師だけでなくそれに関わる多くのスタッフ、メーカーの知力・技術力は使われる場を失い、衰退してしまうであろう。

一方で、インプラント治療に関しては、すでに最新の治療ではなくなり、ほとんどの国民に認識されつつある。しかしながら、未だトラブルが絶えないのも現状である。これまでの問題症例の多くは、歯科医師の不勉強や思い込みが原因であった。加えて、根拠のない価格競争やコスト削減意識が、倫理観の欠如につながり、最悪の事態に発展するケースもあった。勉強する場がなかったのも事実であり、大きな視点で見れば、行政や大学機関等の教育を提供する側に問題があったともいえる。しかしながらそうであったとしても、この情報化社会の中で、自分が間違っていることをしているかどうかさえ分からずに、時代錯誤的な治療をしている歯科医師もいると漏れ伝わってくる。必要な知識や情報を提供する場、その情報を交換したり共有できる場を設けることは急務であると思われる。今後は、インプラント治療に携わっていない歯科医師も、

インプラント治療の長所短所などについては、ブリッジおよび義歯と比較しながら説明できるよう、ある程度の基礎知識は持ち合わせるべきである。なぜなら、これから卒業する学生すべてが大学でインプラントに関する教育を受けており、インプラントに関する基礎知識は歯科医師として当然持ち合わせるべきものとなっているからである。本講演を通じ、上記内容が、今後の歯科医師とりわけ臨床医の進むべき方向についての参考となることを祈念する。



左上犬歯欠損 埋入即時修復後 3ヶ月





## ランチオンセミナー

### 地域は私たちを待っています！

#### —かかりつけ歯科医が取り組む子育て支援—

講師：田中 英一 先生

(東京都中野区開業 鶴見大学歯学部非常勤講師 昭和大学歯学部兼任講師)

元気な地域は、子どもの笑顔があふれています。子どもは、地域のそして社会のためです。しかし、最近の報道を見ると、笑顔のない子どもが少なくありません。

日本の子ども達のおかれている状況を見ると、医療、教育、福祉といった社会制度は充実しているものの、虐待、不登校、食習慣、家庭環境など課題も少なくありません。口の中に目を向けても、30年前のう蝕の洪水と言われた状態からは大きく改善されているものの、う蝕罹患率の地域格差は大きく、地域の中でもう蝕が何本もある子どもがいて、2極化が進んでいます。

こうしたなかで、私たち歯科医師のパワーは、子どもの笑顔を増やす力になるはずですが、診療室でのわずかな取り組みが、子育て・子育て支援につながります。

その基盤になるのは、「疾病や異常の発見という視点だけではなく、子育て・子育てという生活の営みへの支援が求められていて、子どもだけでなく、母親や家庭、そして地域へも目を向けること」です。歯科医師として「口は心や身体に直結する器官である」ことを意識することも大切です。

たとえば、「指しゃぶりをする子ども」に出会ったとき、「歯並びが悪くなるからすぐやめなさい」などと指導するのではなく、指しゃぶりが生理的な行為に端をはっして、子どもの発達に合わせて消失していくことが多いことを理解し、子どもの生活全体に目を向けた対応、「退屈なときや、眠いときだけならば、様子を見守りましょう！」あるいは「していない時を見つけて、褒めて上げてください」といった支援も可能です。

「むし菌が多い子ども」と出会ったとき、お母さんの歯磨きの不十分さを指摘するのではなく、どうしてうまくできないのかを一緒になって考える姿勢が、お母さんの不安を軽減することにつながります。1日の生活パターンを調べてみたらどうでしょう。お母さんのいいところ、「おやつ後にはお茶を飲ませている」などを見つけて褒めることもいいかもしれません。子どもがいやがらずに歯磨きをさせてくれる技を伝えることもできます。

子どもやお母さんの声を聞いてあげると、笑顔が広がります。「歯並び」や「むし菌」といった歯科医師の視点だけでなく、子どもや親の気持ちを受け止め、共感してあげることが第一歩です。こうした取り組みは、子ども虐待の早期発見のみならず、子育ての負担を軽減することからその予防にもかかわることになります。

診療室で、お母さんの話を良く聞いてみると、いろいろなことが見えてきます。むし菌を作らないようにという気持ちから、母子感染しないようにお父さんと使う食器を別々にしたりしているお母さんもいます。野菜嫌いの子どもの、野菜ジュースなら飲んでくれると安心しているお母さんもいました。みな良かれと思っていることが課題であることも少なくありません。かかりつけ歯科医として、子どもやお母さんに寄り添うことから、見えてくること、そして応援してあげられることが浮かび上がってきます。

子どもの安全にも私たちはかかわることができます。最近、歯ブラシによる事故が問題になっています。歯磨きになれるようにと歯ブラシをおもちゃのように使って口の中を切ったり、刺さったりすることがあります。歯磨き指導の時、こうしたことへの啓発をすることも大切です。窒息も乳幼児の死因の多くを占めています。食べる機能の発達を知る私たちだからこそできることもあるはずですが。

子どもの健康を願えば、診療室だけでなく、地域の健康力を高めることにもかかわることが大切です。地

地域の医師の先生方とタッグを組んで地域保健活動に取り組むことも役割の一つでしょう。

私たちかかりつけ歯科医が目指すのは、言い換えると、地域から期待されていることは、地域の子ども達  
のう蝕有病者率をゼロに近づけることだけではありません。口と歯の健康づくりから、健やかで笑顔いっば  
いの子ども達がいる、子育てが楽しい街づくりにかかわることです。



# 歯学部組織構成員名簿

(平成25年10月1日現在)

## 解剖学講座

### 機能形態学分野

教授 藤村 朗  
 助教 安藤 禎紀  
 助教 鍵谷 忠慶  
 研究員 松本 陽子  
 研究員 濤岡 暁子

### 発生生物・再生医学分野

教授 原田 英光  
 講師 藤原 尚樹  
 助教 大津 圭史  
 ポストドクター 堀江 沙和

## 生理学講座

### 病態生理学分野

教授 佐原 資謹  
 講師 成田 欣弥  
 助教 深見 秀之

## 生化学講座

### 細胞情報科学分野

教授 石崎 明  
 准教授 加茂 政晴  
 講師 客本 斉子  
 特任講師 帖佐 直幸  
 ポストドクター 衣斐 美歩  
 研究員 高橋 典子  
 研究員 吉田 茉莉子

## 微生物学講座

### 分子微生物学分野

教授 木村 重信  
 准教授 佐々木 実  
 助教 下山 佑  
 研究員 石河 太知

## 薬理学講座

### 病態制御学分野

教授 加藤 裕久  
 講師 田村 晴希  
 助教 山田 ありさ  
 研究員 矢野 明子  
 研究員 今村 隆子

## 病理学講座

### 病態解析学分野

教授 武田 泰典  
 准教授 三上 俊成  
 講師 佐藤 泰生

## 医療工学講座

准教授 平 雅之  
 講師 根津 尚史  
 特任講師 齋藤 設雄  
 助教 佐々木 かおり

## 歯科保存学講座

### う蝕治療学分野

教授 野田 守  
 准教授 工藤 義之  
 講師 浅野 明子  
 助教 熊谷 啓二  
 助教 千田 弥栄子  
 助教 岡田 伸男  
 助教 志賀 華絵  
 助教(任期付) 千葉 史子  
 研究員 山本 楨子  
 研究員 青島 久  
 研究員 櫻井 秀人  
 研究員 長谷部 智之

### 歯周療法学分野

教授 八重柏 隆

助教 村井 治明  
 助教 藤原 英明  
 助教 佐々木 大輔  
 助教 大川 義人  
 助教 金澤 智美  
 助教(任期付) 伊東 俊太郎  
 研究員 櫻井 悠介  
 研究員 澤田 俊輔  
 研究員 須和部 京介  
 研究員 諏訪 渚  
 研究員 阿部 公人  
 研究員 笹内 貴史  
 研究員 相羽 健太郎  
 研究員 井関 陽介  
 研究員 小野 隆  
 研究員 河合 崇普  
 研究員 吉野 美香  
 研究員 江渡 彬  
 大学院3年 滝沢 尚希  
 大学院1年 鈴木 啓太  
 大学院1年 高橋 晋平

## 補綴・インプラント学講座

教授 近藤 尚知  
 准教授 武部 純  
 准教授 古屋 純一  
 講師 古川 良俊  
 講師 鬼原 英道  
 特任講師 金村 清孝  
 特任講師 小林 琢也  
 助教 大平 千之  
 助教 田邊 昌憲  
 助教 伊藤 茂樹  
 助教 澤田 愛  
 助教 玉田 泰嗣  
 助教 中村 俊介  
 助教 野村 太郎

助 教 高 藤 恭 子  
助教(任期付) 齊 藤 裕美子  
助教(任期付) 安 藝 紗 織  
助教(任期付) 三 浦 真 悟  
助教(任期付) 吉 田 大 徹  
助教(任期付) 米 澤 悠  
助教(任期付) 原 総一朗  
助教(任期付) 佐々木 健  
常任研究員 山 森 伸 子  
常任研究員 道 又 俊  
常任研究員 伊 藤 文 子  
常任研究員 松 木 康 一  
常任研究員 石 塚 華 奈  
常任研究員 小 熊 ひろみ  
研究員 石 岡 真理絵  
研究員 小 見 憲 夫  
研究員 宮 田 京 平  
大学院 4 年 畠 山 航  
大学院 4 年 櫻 庭 浩 之  
大学院 4 年 佐 藤 友 秀  
大学院 4 年 原 淳 淳  
大学院 4 年 山 本 尚 德  
大学院 4 年 横 田 潤  
大学院 3 年 折 祖 研 太  
大学院 3 年 松 本 知 生  
大学院 3 年 味 岡 均  
大学院 3 年 久保田 将 史  
大学院 2 年 五十嵐 靖 之  
大学院 1 年 池 田 功 司  
大学院 1 年 小山田 勇太郎  
大学院 1 年 井 上 学  
大学院 1 年 小野寺 彰 平  
大学院 1 年 深 澤 翔 太

口腔顎顔面再建学講座

口腔外科学分野

教 授 水 城 春 美  
教 授 杉 山 芳 樹  
准 教 授 星 秀 樹  
助 教 青 村 知 幸

助 教 八 木 正 篤  
助教 飯 島 伸 子  
助教 松 本 直 子  
助教 熊 谷 章 子  
助教 野 宮 孝 之  
助教 古 城 慎太郎  
助教 阿 部 亮 輔  
助教 川 村 貴 史  
助教 大 橋 祐 生  
助教(任期付) 古 屋 出  
助教(任期付) 松 本 誠  
助教(任期付) 山 谷 元 氣  
研究員 岩 淵 阜  
研究員 柴 崎 信  
研究員 阿 部 美智夫  
研究員 古 枝 和 也  
研究員 橋 本 圭  
研究員 中 谷 寛 之  
研究員 林 友 翔  
研究員 加 藤 秀 昭  
研究員 松 尾 伸 一  
研究員 高 橋 美香子  
研究員 澤 田 剛 光  
研究員 角 田 耕 一  
研究員 小 栗 理 子  
研究員 千 葉 卓  
研究員 羽 田 朋 弘  
研究員 原 康 文  
研究員 齋 藤 大 嗣  
研究員 中 田 絵 美  
研究員 西 平 宗 功  
研究員 宮 形 養  
研究員 南 舘 英 明  
研究員 小野寺 慧  
研究員 近 藤 正 人  
研究員 川 村 友里子  
研究員 中 里 紘 子  
研究員 角 田 直 子  
研究員 熱 海 達 朗  
研究員 中 畑 健太郎

研究員 前 原 惠 理  
研究員 油 井 諒 子  
研究員 三 田 綾 子  
研究員 齊 藤 広 樹  
大学院 3 年 岩 崎 賢 介  
大学院 3 年 増 田 智 幸  
大学院 2 年 小 松 祐 子  
大学院 2 年 樋 野 雅 文  
大学院 1 年 千 葉 高 大

歯科麻酔学分野

教 授 城 茂 治  
准 教 授 佐 藤 雅 仁  
講 師 佐 藤 健 一  
特 任 講 師 四 戸 豊  
助 教 坂 本 望  
助 教 遠 藤 千 惠  
研究員 鍋 島 謙 一  
研究員 鎌 田 俊 仁  
研究員 三 浦 淳 実  
研究員 石 塚 淳 綾  
研究員 大 橋 綾 子

歯科放射線学分野

教 授 小豆嶋 正 典  
講 師 東海林 理  
講 師 泉 澤 充  
助 教 佐 藤 仁  
助 教 星 野 正 行  
助 教 高 橋 德 明  
常任研究員 齋 藤 圭 輔  
常任研究員 定 岡 哲 哉  
研究員 鈴木 美智恵

口腔保健育成学講座

歯科矯正学分野

教 授 三 浦 廣 行  
准 教 授 清 野 幸 男  
講 師 金 野 吉 晃  
特 任 講 師 佐 藤 和 朗

助 教 鈴木 寿 代  
助 教 飯塚 康 之  
助 教 水川 卓 磨  
助 教 若林 香 枝  
助教(任期付) 山田 裕 之  
研究員 福田 大 介  
研究員 南 順 子  
研究員 榊 田 佳 子  
研究員 菊池 宗 法  
研究員 増山 美 樹  
研究員 富岡 宗 弘  
研究員 山田 紗 和  
研究員 三浦 佐 知  
研究員 桑島 幸 紀  
研究員 西田 夏 奈  
研究員 小橋 龍 太  
研究員 遠藤 泰 佑  
研究員 堀 智 樹  
研究員 吉田 修 一  
大学院 4 年 古川 真 司  
大学院 4 年 青松 惠 美  
大学院 4 年 木村 仁 迪  
大学院 2 年 畠山 慧  
大学院 1 年 横田 聖 司

#### 小児歯科学分野

教 授 田中 光 郎  
講 師 齋藤 亮  
助 教 両川 明 子  
助 教 及川 利 佳  
助 教 藤井 雅  
研究員 丸山 裕 代  
研究員 青木 健 史  
研究員 齊藤 桂 子  
研究員 井上 大 輔  
大学院 4 年 奥野 瑛  
大学院 4 年 木村 美 澄  
大学院 1 年 氏家 隼 人  
大学院 1 年 蒔 苗 剛

#### 障害者歯科学分野

准 教 授 久慈 昭 慶  
助 教 菊池 和 子  
助 教 熊谷 美 保  
研究員 小坂橋 航  
研究員 佐賀 明 子  
大学院 2 年 守口 霞  
大学院 1 年 磯部 可奈子

#### 口腔医学講座

##### 関連医学分野

教 授 中居 賢 司  
研究員 伊藤 学

#### 予防歯科学分野

准 教 授 稲葉 大 輔  
特任准教授 岸 光 男  
特任講師 阿部 晶 子  
助 教 南 健 太  
助 教 相澤 文 惠  
大学院 4 年 松井 美 樹  
大学院 1 年 佐藤 俊 郎

#### 歯科外科学

講 師(兼 務) 石澤 将 人

## 平成24年度学位授与者一覧

『課程博士（歯学）』…下記5名

学位授与月日…平成25年3月8日

学位記授与式…平成25年3月8日

- |                           |  |
|---------------------------|--|
| <p>①授与番号：<br/>学位論文題目：</p> | <p>甲第286号 吉田茉莉子（口腔生化学）<br/>TGF-<math>\beta</math>-operated growth inhibition and translineage commitment into smooth muscle cells of periodontal ligament-derived endothelial progenitor cells through Smad-and p38 MAPK-dependent signals<br/>(歯周靭帯由来血管内皮前駆細胞様細胞におけるTGF-<math>\beta</math>によるSmadとp38MAPK経路を介した増殖抑制ならびに平滑筋細胞分化誘導)<br/>【主査 加藤教授 副査 石崎教授、八重柏教授】</p>   |
| <p>②授与番号：<br/>学位論文題目：</p> | <p>甲第287号 澤田俊輔（歯周療法学）<br/>Enhancement of Gingival Inflammation Induced by Synergism of IL-1<math>\beta</math> and IL-6<br/>(歯周炎症の促進はIL-1<math>\beta</math>とIL-6の相乗作用によって誘導される)<br/>【主査 八重柏教授 副査 石崎教授、佐原教授】</p>   |
| <p>③授与番号：<br/>学位論文題目：</p> | <p>甲第288号 宮田京平（補綴・インプラント学）<br/>Anodized-hydrothermally treated titanium with a nanotopographic surface structure regulates integrin-<math>\alpha 6 \beta 4</math> and laminin-5 gene expression in adherent murine gingival epithelial cells<br/>(ナノ構造を有する陽極酸化・水熱処理チタン表面上におけるマウス由来歯肉上皮細胞からのintegrin-<math>\alpha 6 \beta 4</math>とlaminin-5遺伝子発現に関する検討)<br/>【主査 近藤教授 副査 武部准教授、石崎教授】</p>  |
| <p>④授与番号：<br/>学位論文題目：</p> | <p>甲第289号 齋藤大嗣（口腔外科学）<br/>Transforming growth factor-<math>\beta 1</math> induces epithelial-mesenchymal transition and integrin <math>\alpha 3 \beta 1</math>-mediated cell migration of HSC-4 human squamous cell carcinoma cells through Slug<br/>(ヒト口腔扁平上皮癌細胞HSC-4においてtransforming growth factor-<math>\beta 1</math>で誘導される上皮間葉転換とintegrin <math>\alpha 3 \beta 1</math>依存的な細胞遊走能はSlugを介する)<br/>【主査 水城教授 副査 石崎教授、武田教授】</p> |
| <p>⑤授与番号：<br/>学位論文題目：</p> | <p>甲第290号 坂野深香（口腔組織学）<br/>Cell dynamics in cervical loop epithelium during transition from crown to root: implications for Hertwig's epithelial root sheath formation<br/>(歯冠形成から歯根形成期への移行期におけるサービカルループ上皮の細胞動態：ヘルトビッチ上皮鞘形成について)<br/>【主査 佐原教授 副査 原田教授、佐藤教授】</p>   |

# 第106回歯科医師国家試験 大学別合格者状況

平成25年3月19日発表

試験期日 平成25年2月2日～3日

国立			全国順位	大学名	総数			新卒			既卒			105回合格率(総数)	前回との比較	国試浪人
新卒順位	既卒順位	国立総数順位			受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率			
5	2	1	2	大阪大学歯学部	63	56	88.9%	57	52	91.2%	6	4	66.7%	90.8%	-1.9%	7
6	6	2	3	東北大学歯学部	62	54	87.1%	55	50	90.9%	7	4	57.1%	90.2%	-3.1%	8
7	5	3	5	東京医科歯科大学歯学部	73	62	84.9%	65	57	87.7%	8	5	62.5%	89.9%	-4.9%	11
2	9	4	6	新潟大学歯学部	46	39	84.8%	37	35	94.6%	9	4	44.4%	83.0%	1.8%	7
3	9	5	7	広島大学歯学部	59	50	84.7%	50	46	92.0%	9	4	44.4%	86.2%	-1.4%	9
4	8	6	8	長崎大学歯学部	56	47	83.9%	46	42	91.3%	10	5	50.0%	84.5%	-0.6%	9
8	2	7	9	鹿児島大学歯学部	68	57	83.8%	56	49	87.5%	12	8	66.7%	80.6%	3.2%	11
9	1	8	10	岡山大学歯学部	80	67	83.8%	64	55	85.9%	16	12	75.0%	76.5%	7.3%	13
1	7	9	11	徳島大学歯学部	61	51	83.6%	43	41	95.3%	18	10	55.6%	74.6%	9.0%	10
11	2	10	14	九州大学歯学部	61	49	80.3%	52	43	82.7%	9	6	66.7%	85.9%	-5.6%	12
10	11	11	16	北海道大学歯学部	64	49	76.6%	54	45	83.3%	10	4	40.0%	84.4%	-7.8%	15
国立計					693	581	83.8%	579	515	88.9%	114	66	57.9%			
九州歯科大学				4	106	91	85.8%	78	75	96.2%	28	16	57.1%	73.5%	12.3%	15
公立計					106	91	85.8%	78	75	96.2%	28	16	57.1%			
私立(17)			全国順位	大学名	総数			新卒			既卒			105回合格率(総数)	前回との比較	国試浪人
新卒順位	既卒順位	私立総数順位			受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率			
1	3	1	1	東京歯科大学	135	130	96.3%	131	127	96.9%	4	3	75.0%	97.4%	-1.1%	5
6	2	2	12	日本歯科大学	151	122	80.8%	129	105	81.4%	22	17	77.3%	82.7%	-1.9%	29
5	1	3	13	昭和大学歯学部	119	96	80.7%	92	75	81.5%	27	21	77.8%	78.2%	2.4%	23
2	7	4	15	日本大学松戸歯学部	146	113	77.4%	99	85	85.9%	47	28	59.6%	81.9%	-4.5%	33
7	6	5	17	日本大学歯学部	160	120	75.0%	117	94	80.3%	43	26	60.5%	75.0%	0.0%	40
9	5	6	18	愛知学院大学歯学部	169	126	74.6%	134	104	77.6%	35	22	62.9%	77.8%	-3.3%	43
3	11	7	19	北海道医療大学歯学部	116	85	73.3%	82	70	85.4%	34	15	44.1%	65.0%	8.2%	31
13	4	8	20	福岡歯科大学	141	98	69.5%	97	70	72.2%	44	28	63.6%	66.9%	2.6%	43
8	14	9	21	明海大学歯学部	148	101	68.2%	110	86	78.2%	38	15	39.5%	70.6%	-2.3%	47
4	16	10	22	朝日大学歯学部	166	108	65.1%	100	85	85.0%	66	23	34.8%	65.3%	-0.2%	58
14	9	11	23	日本歯科大学新潟生命歯学部	120	78	65.0%	90	64	71.1%	30	14	46.7%	66.0%	-1.0%	42
10	15	12	24	鶴見大学歯学部	177	113	63.8%	118	90	76.3%	59	23	39.0%	63.9%	0.0%	64
12	8	13	25	大阪歯科大学	182	115	63.2%	105	78	74.3%	77	37	48.1%	49.0%	14.1%	67
15	10	14	26	神奈川歯科大学	141	87	61.7%	91	64	70.3%	50	23	46.0%	61.5%	0.2%	54
10	13	15	27	岩手医科大学歯学部	116	68	58.6%	59	45	76.3%	57	23	40.4%	58.2%	0.5%	48
16	12	16	28	奥羽大学歯学部	142	75	52.8%	89	53	59.6%	53	22	41.5%	56.9%	-4.1%	67
17	17	17	29	松本歯科大学	188	57	30.3%	69	20	29.0%	119	37	31.1%	32.8%	-2.5%	131
私立計					2517	1692	67.2%	1712	1315	76.8%	805	377	46.8%			
認定及び予備試験					5	2	40.0%	4	2	50.0%	1	0	0.0%			
総合計					3,321	2,366	71.2%	2,373	1,907	80.4%	948	459	48.4%			

## 平成25年度編入・新入生名簿

### 平成25年度歯学部編入学生名簿

岩淵 航	佐藤 華子	中尾 祐大
大和田 剛玄	志田 豊茂	古舘 雅道
岸本 亜里紗	杉山 由紀子	星 勲
昆野 ひろ子	永井 大輝	宮前 善尚

以上12名

### 新 準 会 員 名 簿

#### 平成25年度歯学部新入学生名簿

浅沼 莞奈	坂野上 和奏	西村 大河
荒井 春乃	佐々木 溪斗	林 俊樹
荒田 仁	佐々木 琴美	弘瀬 友博
石川 斐日瑠	佐々木 耀介	深澤 雄飛
石成 大志	佐藤 州	藤澤 慶子
伊東 純麗	佐藤 宣明	星 美貴
上田 茜	佐藤 弘樹	前川 崇嗣
及川 貴子	真田 沙穂	松生 眞子
太田 藍理	塩川 晃平	松田 星
岡本 真実	重富 洋二	松本 実香
小幡 健吾	柴田 可凜	八重柏 元
小原 ななみ	柴沼 大	安野 梢
片山 翔太	島田 崇史	山内 博仁
片山 敬章	島田 真梨子	結城 安里
菅野 江美	清藤 有希子	吉田 大地
喜多村 洸大朗	曾根 柚子	吉田 弘法
栗原 里帆	高橋 颯	吉田 麻由
黒川 詩央里	高橋 陽助	吉田 優作
小瀬川 将	高村 卓圭	渡邊 陽向
小山 夏澄	千葉 祥子	

以上59名

# 大 学 役 職 員 名 簿

職 名	氏 名
理 事 長 ・ 学 長	小 川 彰
副 学 長	祖父江 憲 治
医 学 部 学 長	小 林 誠一郎
歯 学 部 学 長	三 浦 廣 行
薬 学 部 学 長	前 田 正 知
附 属 病 院 学 長	酒 井 明 夫
附 属 病 院 副 学 長	杉 山 徹
附 属 病 院 副 学 長	藤 岡 知 昭
附 属 病 院 副 学 長	江 原 茂
附属病院副院長・循環器医療センター長	岡 林 均
附属病院副院長・歯科医療センター長	杉 山 芳 樹
附 属 花 巻 温 泉 病 院 学 長	猪 又 義 男
附属PET・リニアック先端医療センター長	中 村 隆 二
岩手県高度救命救急センター長	遠 藤 重 厚
図 書 館 学 長	武 田 泰 典
図 書 館 分 館 学 長	松 政 正 俊
学 生 部 学 長 ・ 医 学 部 学 生 部 学 長	赤 坂 俊 英
歯 学 部 学 生 部 学 長	小豆嶋 正 典
薬 学 部 学 生 部 学 長	佐 塚 泰 之
共 通 教 育 セ ン タ ー 学 生 部 学 長	松 政 正 俊
医 療 専 門 学 校 学 長	三 浦 廣 行
事 務 局 学 長	高 橋 俊 雄

# 歯学部同窓会役員名簿

(H25. 7. 1～H28. 6. 30)

会 長	城 茂 治 (歯7・学 内)	
副 会 長	山 田 芳 夫 (歯3・青森県)	支部連携担当
	星 加 修 一 (歯6・道 央)	事務管理部長
	村 上 正 博 (歯6・宮城県)	会計部長
	佐 藤 忠 朋 (歯7・岩手県)	庶務部長
	田 中 英 一 (歯8・東京都)	渉外部長
常任理事	伊 藤 修 (歯5・秋田県)	
	神 垣 博 義 (歯6・東京都)	
	武 田 泰 典 (歯6・学 内)	
	中 野 廣 一 (歯6・岩手県)	学術研修部長
	長 谷 剛 史 (歯7・宮城県)	
	斎 藤 純 一 (歯11・山形県)	
	小山田 勇 樹 (歯15・岩手県)	
	三 善 潤 (歯15・岩手県)	広報部長
	佐 藤 克 (歯17・福島県)	
理 事	内 山 繁由樹 (歯7・青森県)	
	大 川 隆 史 (歯8・埼玉県)	
	数 寄 孝 (歯8・茨城県)	
	塩 山 司 (歯8・岩手県)	
	中 谷 敏 恭 (歯8・神奈川県)	
	柳 治 夫 (歯8・兵庫県)	
	五月女 大 介 (歯9・栃木県)	
	箱 木 孝 則 (歯11・道 央)	
	吉 村 宅 弘 (歯12・愛 岐)	
	村 上 晶 子 (歯13・岩手県)	
	児 玉 厚 三 (歯14・岩手県)	
	平 尾 慶 太 (歯14・広島県)	
	八重柏 隆 (歯15・学 内)	
	斎 藤 正 人 (歯16・群馬県)	
	卷 藤 佐智子 (歯17・岩手県)	
	八 木 正 篤 (歯17・学 内)	
	村 上 克 利 (歯21・岩手県)	
	工 藤 努 (歯25・岩手県)	
	佐々木 寛 成 (歯25・宮城県)	
	熊 谷 美 保 (歯27・学 内)	
監 事	猪苗代 盛 昭 (歯1・宮城県)	
	長 門 孝 次 (歯6・大阪府)	
相 談 役	箱 崎 守 男 (歯1・岩手県)	
顧 問	藤 田 達 夫 (歯1・埼玉県)	

# 歯学部同窓会支部役員名簿

## 道央

支部長 箱木 孝則 (11期)  
副支部長 阿部 年秀 (13期)  
副支部長 新井 桂 (14期)  
副支部長 太田 陽一 (14期)  
専務理事 新出 英幸 (12期)  
連絡先 〒002-8071 札幌市北区  
あいの里1条4-9-17  
にいで歯科医院  
TEL 011-778-6000  
評議員 新出 英幸 (12期)  
評議員 阿部 年秀 (13期)  
予備評議員 西村 仁 (11期)  
予備評議員 新井 桂 (14期)  
予備評議員 太田 陽一 (14期)



## 函館

支部長 永坂 信 (7期)  
副支部長 中塚 道郎 (10期)  
副支部長 木葉 篤 (12期)  
幹事長 山田 一巳 (18期)  
連絡先 〒041-0821 北海道函館  
市港町3-2-12  
山田歯科医院  
TEL 0138-45-8822  
評議員 木葉 篤 (12期)  
予備評議員 永坂 信 (7期)



## 道北

支部長 石平 洋二 (10期)  
幹事長 柴田 敏也 (17期)  
〒070-0981 北海道旭川  
市春光町5区1条4丁目  
柴田歯科医院  
TEL 0166-54-3815  
評議員 石平 洋二 (10期)

## 釧路

支部長 鹿野 洋一 (16期)  
副支部長 佐藤憲太郎 (6期)  
幹事 美濃 優 (6期)  
連絡先 〒085-0061 北海道釧路  
市芦野1-8-1  
美濃歯科  
TEL 0154-37-6707  
評議員 鹿野 洋一 (16期)  
予備評議員 遠藤 甫 (1期)



## 十勝

支部長 船津 三四郎 (5期)  
副支部長 有田 修造 (7期)  
幹事長 斎藤 恒夫 (22期)  
連絡先 〒080-0046 北海道帯広  
市西16条北1-27  
協立病院口腔外科  
TEL 0155-35-3358  
評議員 船津三四郎 (5期)  
予備評議員 斎藤 恒夫 (22期)



## 青森県

支部長 山田 芳夫 (3期)  
副支部長 内山繁由樹 (7期)  
副支部長 松尾 芳明 (8期)  
副支部長 三浦 一廣 (12期)  
専務理事 滝谷 英三 (19期)  
連絡先 〒030-0966 青森市花園  
2-21-1  
たきや歯科医院  
TEL 017-742-0939  
評議員 木村 英敏 (11期)  
評議員 藤田 亮 (12期)  
評議員 三浦 一廣 (12期)  
予備評議員 工藤 淳治 (12期)

予備評議員 北村 靖 (16期)  
予備評議員 滝谷 英三 (19期)



## 学内

支部長 城 茂治 (7期)  
評議員 久慈 昭慶 (15期)  
評議員 武部 純 (20期)



## 岩手県

支部長 岩渕 安信 (4期)  
副支部長 畠山 良彦 (8期)  
副支部長 岩本 一夫 (9期)  
専務理事 佐藤 忠朋 (7期)  
連絡先 〒028-3601 岩手県紫波  
郡矢巾町高田11-1-3  
佐藤歯科医院  
TEL 019-697-7250  
評議員 岩渕 安信 (4期)  
評議員 中屋敷 修 (6期)  
評議員 菊地 博 (18期)  
評議員 黒田 直寿 (18期)  
評議員 鈴木洋之介 (18期)  
評議員 和田 武彦 (21期)  
評議員 川村 英幹 (25期)  
予備評議員 畠山 良彦 (8期)  
予備評議員 岩本 一夫 (9期)  
予備評議員 西郷 史郎 (24期)  
予備評議員 小原 賢一 (25期)  
予備評議員 上原 豊 (26期)  
予備評議員 齋藤 雅人 (26期)



## 秋田県

支部長 井関 時男 (4期)  
副支部長 菅原 栄悦 (8期)

副支部長 阿部 忠一 (10期)  
副支部長 石田 達郎 (11期)  
専務理事 立花 透 (15期)  
連絡先 〒010-0022 秋田市檜山  
南中町9-22  
立花歯科医院  
TEL 018-833-3885  
評議員 船木 康博 (10期)  
評議員 小西 一峰 (11期)  
評議員 柴田 貞彦 (15期)  
予備評議員 守口 修 (7期)  
予備評議員 鈴木 明彦 (15期)  
予備評議員 川原田 啓 (17期)



### 宮城県

支部長 村上 正博 (6期)  
副支部長 田熊 和夫 (7期)  
副支部長 長谷 剛史 (7期)  
副支部長 長田 純一 (11期)  
副支部長 菊地 賢 (14期)  
専務理事 杉山 豊 (18期)  
連絡先 〒980-0011 仙台市青葉  
区上杉4-1-47  
杉山歯科医院  
TEL 022-222-2898  
評議員 色川 俊則 (5期)  
評議員 羽田野 明 (5期)  
評議員 田熊 和夫 (7期)  
評議員 小田島正博 (12期)  
評議員 川口 剛 (17期)  
予備評議員 大友 廣雄 (8期)  
予備評議員 鈴木 健一 (8期)  
予備評議員 渋井 発 (10期)  
予備評議員 大山 治 (11期)  
予備評議員 長田 純一 (11期)



### 山形県

支部長 海老名宥充 (10期)  
副支部長 土屋 衛 (13期)

常任幹事 日塔 睦雄 (18期)  
連絡先 〒995-0111 山形県村山  
市大久保甲563-1  
にっとう歯科医院  
TEL 0237-54-2548  
評議員 海老名宥充 (10期)  
評議員 土屋 衛 (13期)  
予備評議員 奥山 祥充 (12期)  
予備評議員 日塔 睦雄 (18期)



### 福島県

支部長 田代 直也 (8期)  
副支部長 國崎 幸史 (10期)  
副支部長 加藤 悟郎 (11期)  
専務理事 遠藤 正道 (12期)  
連絡先 〒963-0102 福島県郡山  
市安積町笹川字北向6-  
24  
安積台遠藤歯科医院  
TEL 024-945-4118  
評議員 田代 直也 (8期)  
評議員 國崎 幸史 (10期)  
予備評議員 加藤 悟郎 (11期)  
予備評議員 遠藤 正道 (12期)



### 茨城県

支部長 大塚 誠 (9期)  
副支部長 小川 修二 (10期)  
副支部長 戒田 敏之 (11期)  
庶務 阿部 英一 (18期)  
連絡先 〒319-2144 茨城県常陸  
大宮市泉445-3  
阿部歯科クリニック  
TEL 0295-52-5533  
評議員 大塚 誠 (9期)  
予備評議員 小川 修二 (10期)

### 栃木県

支部長 生井 俊一 (12期)  
副支部長 清水 彰 (10期)  
副支部長 手塚 永均 (19期)  
専務理事 二唐 幾雄 (19期)  
連絡先 〒329-1412 栃木県さく  
ら市喜連川87-3  
にから歯科医院  
TEL 028-686-6480  
評議員 清水 彰 (10期)  
評議員 野尻 郁夫 (15期)  
予備評議員 手塚 永均 (19期)  
予備評議員 二唐 幾雄 (19期)



### 群馬県

支部長 石北 裕 (3期)  
副支部長 山田 哲司 (3期)  
専務理事 大美賀 優 (7期)  
連絡先 〒373-0024 群馬県太田  
市上小林235-1  
大美賀歯科医院  
TEL 0276-25-8148  
評議員 石北 裕 (3期)  
予備評議員 鈴木 敏正 (12期)



### 埼玉県

支部長 佐々木雄一 (2期)  
副支部長 曾根原 勉 (6期)  
専務理事 大川 隆史 (8期)  
連絡先 〒360-0815 埼玉県熊谷  
市本石2-59  
大川歯科眼科クリニッ  
ク  
TEL 048-521-3441  
評議員 佐々木雄一 (2期)  
評議員 曾根原 勉 (6期)  
予備評議員 利根川真一 (7期)  
予備評議員 高野 章 (9期)

千葉県

支部長 萩原 研一（1期）  
副支部長 北村 渉（3期）  
副支部長 尹 錫哲（4期）  
専務理事 伊東総一郎（21期）  
連絡先 〒286-0013 千葉県成田市美郷台2-26-27イワダテビル3F  
さくら歯科クリニック  
TEL 0476-24-5454

評議員 萩原 研一（1期）  
評議員 小林 賢士（15期）  
予備評議員 上原 公一（2期）  
予備評議員 牛尾 均（3期）



東京都

支部長 神垣 博義（6期）  
副支部長 田中 英一（8期）  
副支部長 松村 猛（14期）  
専務理事 松村 猛（14期）  
連絡先 〒204-0004 東京都清瀬市野塩3-12-5  
松村歯科医院  
TEL 042-491-8849

評議員 小室 昭夫（1期）  
評議員 安成 宗一（2期）  
評議員 水野 重美（8期）  
予備評議員 近藤 秀男（3期）  
予備評議員 沼口 隆二（8期）  
予備評議員 村上 正幸（16期）



神奈川県

支部長 森戸 弘行（11期）  
副支部長 清水真一郎（14期）  
副支部長 浅川 和也（21期）  
専務理事 伴場 幸信（13期）  
連絡先 〒212-0023 神奈川県川崎市幸区戸手本町1-44-5 ステート川崎1F

伴場歯科医院  
TEL 044-549-3918

評議員 高田 泉（8期）  
評議員 杉山 裕（9期）  
予備評議員 笠原 斉（1期）  
予備評議員 樺島 史朗（2期）



山梨県

支部長 中村貴美男（11期）  
副支部長 早川 輝（20期）  
専務理事 村田純一郎（29期）  
連絡先 〒404-0042 山梨県甲州市塩山上於曾1871-7  
村田歯科医院  
TEL 0553-32-3603

評議員 中村貴美男（11期）



長野県

支部長 島田 隆夫（6期）  
副支部長 笠原 幹雄（7期）  
副支部長 上島真二郎（7期）  
専務理事 都筑 文男（9期）  
連絡先 〒399-0701 長野県塩尻市大字広丘吉田2902-9  
つづく歯科医院  
TEL 0263-86-3388

評議員 島田 隆夫（6期）  
予備評議員 笠原 幹雄（7期）



新潟県

支部長 本間 哲雄（5期）  
副支部長 五十嵐一男（6期）  
専務 佐久間英治（12期）  
連絡先 〒950-1115 新潟市西区鳥原大明2640-1  
佐久間歯科医院  
TEL 025-378-7788

評議員 本間 哲雄（5期）  
予備評議員 中山 雄二（14期）



富山県

支部長 野田 孫就（3期）  
副支部長 大石 聡（8期）  
専務理事 津田 淳（30期）  
連絡先 〒932-0115 富山県小矢部市津沢1-44  
齒科津田医院  
TEL 0766-61-4771

評議員 高田 恒弘（27期）  
予備評議員 湯口 正治（17期）



北陸

支部長 家城 正（8期）  
副支部長 石田 岐（8期）  
副支部長 九良賀野進（8期）  
専務理事 牧野 邦男（13期）  
連絡先 〒920-2142 石川県白山市深瀬新町4  
牧野歯科医院  
TEL 076-273-0113

評議員 田中 誠（4期）



静岡県

支部長 山田 雅夫（7期）  
専務理事 小川 恵治（13期）  
連絡先 〒427-0041 静岡県島田市市中河町410  
小川歯科医院  
TEL 0547-37-1418

評議員 原田 雅弘（12期）  
評議員 廣瀬 尋範（31期）  
予備評議員 齊藤 衛（12期）

### 愛岐

支部長 柴田 輝郎 (1期)  
副支部長 清 克行 (3期)  
副支部長 北山 真悟 (5期)  
専務理事 吉村 宅弘 (12期)  
連絡先 〒472-0012 愛知県知  
立市八ツ田町1-2-1  
八ツ田歯科  
TEL 0566-83-5550

評議員 山家 誠 (15期)  
予備評議員 東原 健人 (21期)



### 近畿地区

支部長 難波 和之 (1期)  
連絡先 〒557-0055 大阪市西成  
区千本南1-3-14-101  
難波歯科医院  
TEL 06-6659-0118

副支部長 江上 一郎 (3期)  
評議員 山崎 直 (9期)  
予備評議員 江上 一郎 (3期)



### 大阪府

会長 原田 善彦 (11期)  
連絡先 〒579-8045 大阪府東大  
阪市本町7-12  
原田歯科医院  
TEL 0729-82-1203

副会長 落合 伸行 (10期)  
評議員 片山 俊博 (7期)  
予備評議員 原田 善彦 (11期)



### 兵庫県

支部長 坂井 諭 (18期)  
副支部長 浜口 雅明 (10期)  
専務理事 村松 弘康 (25期)  
連絡先 〒662-0954 兵庫県西宮

市上葭原町5-22  
むらまつ歯科医院  
TEL 0798-38-4443

評議員 村松 弘康 (25期)  
予備評議員 坂井ひろみ (17期)



### 岡山県

支部長 池田 泰章 (11期)  
専務理事 近藤 康弘 (12期)  
連絡先 〒710-0023 岡山県倉敷  
市帯高617-16  
近藤歯科クリニック  
TEL 086-428-8143

評議員 竹下 信義 (4期)  
予備評議員 小坂 晃 (11期)



### 広島県

支部長 平尾 慶太 (14期)  
副支部長 長崎 昭憲 (3期)  
副支部長 荒田 斎 (7期)  
専務理事 山口 純生 (25期)  
連絡先 〒739-2403 広島県東広  
島市安芸津町風早字江  
川1118-1  
マイ歯科  
TEL 0846-45-6927

評議員 荒田 斎 (7期)  
予備評議員 江島 恒章 (7期)



### 徳島県

支部長 秋田 一郎 (9期)  
副支部長 益田 忠幸 (12期)  
連絡担当幹事 益田 忠幸 (12期)  
連絡先 〒770-8024 徳島市西  
須賀町下中須13-48  
益田歯科医院  
TEL 088-669-2567

評議員 井上 正仁 (10期)  
予備評議員 諸谷 雅裕 (14期)



### 香川・愛媛・高知

支部長 前田健一郎 (1期)  
専務理事 江淵 有三 (11期)  
連絡先 〒781-1102 高知県土佐  
市高岡町乙8-1  
江淵歯科診療所  
TEL 088-852-6480

評議員 前田健一郎 (1期)  
予備評議員 藤本 庸介 (11期)



### 長崎県

支部長 山部 一実 (8期)  
専務理事 牟田 直竹 (10期)  
連絡先 〒852-8013 長崎市梁川  
町4-12 梁川ビル1F  
牟田歯科医院  
TEL 095-862-8870

評議員 山部 一実 (8期)  
予備評議員 牟田 直竹 (10期)

## 学 術 研 修 部 員 名 簿

部 長	6	中 野 廣 一	開業
副部長	8	塩 山 司	友愛病院
	9	五月女 大 介	開業
	10	南 館 祐 二	開業
	17	八 木 正 篤	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野
相談役	1	三 條 勲	開業
	2	米 内 正	開業
	4	三 浦 廣 行	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野
	5	水 城 春 美	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野
	6	武 田 泰 典	病理学講座 病態解析学分野
	7	城 茂 治	口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野
	8	小豆嶋 正 典	口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野
	9	藤 村 朗	解剖学講座 機能形態学分野
	15	八重柏 隆	歯科保存学講座 歯周療法学分野
部 員	7	大 林 勢津子	開業
	14	児 玉 厚 三	開業
	15	小山田 勇 樹	開業
	16	遠 藤 義 樹	開業
	16	岡 口 守 雄	開業
	16	高 瀬 真 二	開業
	16	高 橋 秀 典	開業
	17	川 嶋 敏 宏	勤務
	19	東海林 理	口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野
	19	間 山 寿 代	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野
	20	大 平 明 範	雄勝中央病院
	20	黒 澤 正 雄	開業
	20	梶 村 幸 市	開業
	21	平 川 英 司	開業
	21	古 町 瑞 郎	開業
	22	白 倉 義 之	開業
	22	千 田 弥栄子	歯科保存学講座 う蝕治療学分野
	24	菊 池 和 子	口腔保健育成学講座 障害者歯科学分野
	25	金 村 清 孝	補綴・インプラント学講座
	30	小 林 琢 也	補綴・インプラント学講座
	33	佐々木 大 輔	歯科保存学講座 歯周療法学分野
	33	山 田 裕 之	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野
	34	阿 部 亮 輔	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野

## 広 報 部 員 名 簿

部 長	15	三 善	潤	開業
副部長	22	坂 本	望	口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野
部 員	24	熊 谷	哲 也	開業
	24	西 郷	史 郎	開業
	25	浅 野	明 子	歯科保存学講座 う蝕治療学分野
	25	金 村	清 孝	補綴・インプラント学講座
	26	工 藤	努	開業
	29	山 田	ありさ	薬理学講座 病態制御学分野
	30	松 嶋	拓	開業

# ——同窓生の皆さんご存知ですか——

## 岩手医科大学歯学部同窓会 休業時歯科医師派遣要項

岩手医科大学歯学部同窓会と岩手医科大学附属病院歯科医療センターとは、歯科医師の派遣については、次の要項によりこれを行うものとする。

### (派遣要項)

第1条 岩手医科大学歯学部同窓会は、その会員が傷害、傷病等により歯科診療業務の履行が困難となった場合、歯科医師（以下「派遣歯科医師」という。）の派遣を、岩手医科大学附属病院歯科医療センターに要請することができるものとする。

### (派遣歯科医師)

第2条 派遣歯科医師については、岩手医科大学歯学部同窓会会長の要請により、岩手医科大学附属病院歯科医療センターが選定する。

### (派遣期間)

第3条 派遣期間は原則として2週間以内とする。ただし事情を考慮し可能な限り柔軟に対応する。

### (就業時間)

第4条 派遣歯科医師の就業時間は、原則として午前9時から12時、午後2時から5時までとするが、細部についてはその都度打合わせをして決めるものとする。

### (医療相談についての責任)

第5条 医療過誤については、派遣依頼元の歯科医師、又は医療機関と岩手医科大学歯学部同窓会が共同責任で解決するものとし、派遣歯科医師には金銭その他、一切の負担を負わせないものとする。

### (派遣歯科医師の経費)

- 第6条
1. 派遣歯科医師が、業務遂行上に必要な経費は、派遣要請をした歯学部同窓会の負担とする。
  2. 派遣歯科医師への報酬は、当分の間、以下の通りとする。

大学卒業2年未満の歯科医師は、1日当たり	25,000円（税込）
大学卒業2年以上の歯科医師は、1日当たり	35,000円（税込）

とする。
  3. 前項の報酬の他、交通費の実費を負担する。
  4. 報酬等の支払は、岩手医科大学歯学部同窓会より、派遣終了後2週間以内に派遣歯科医師に支払うものとする。

### (派遣の中止)

第7条 本要項に違反する行為があった場合、岩手医科大学附属病院歯科医療センターは派遣を中止することができる。

### (その他)

第8条 本要項に定めない事項および、疑義を生じたときは岩手医科大学歯学部同窓会と岩手医科大学附属病院歯科医療センターにおいて協議し、決定する。

### (附 則)

この要項は、平成8年9月3日から実施するものとする。

# 岩手医科大学歯学部同窓会HP

岩手医科大学歯学部同窓会HP公開中です。  
ぜひご覧下さい。

<http://www.imu-dent-aa.com/>

お

知

ら

せ

## ■ 第45回学術研修会

日時 平成25年11月17日（日）9：50～15：30

会場 岩手県歯科医師会館8020プラザ

講演

I. 10：00～12：00 13：15～15：15

講師 関崎 和夫（せきざき・かずお）先生（新潟県見附市開業）

演題 咬合誘導～切歯交換期から始める矯正の利点と欠点～

II. ランチョンセミナー 12：15～13：00

講師 杉浦 剛（すぎうら・ごう）先生（岩手医科大学歯学部非常勤講師）

演題 定期歯科受診行動に影響を及ぼす要因分析

## ■ 第46回学術研修会

日時 平成26年5月25日（日）9：50～15：30

会場 岩手県歯科医師会館8020プラザ

講演

I. 10：00～12：00

講師 藤村 朗（ふじむら・あきら）先生

（岩手医科大学解剖学講座機能形態学分野教授）

II. 13：15～15：15

講師 清野 和夫（せいの・かずお）先生

（奥羽大学大学院研究科長）

III. ランチョンセミナー 12：15～13：00

講師 工藤 義之（くどう・よしゆき）先生

（岩手医科大学歯学部歯科保存学講座う蝕治療学分野准教授）

## ■ 会 員 訃 報 (卒業期順・平成24年8月31日以降)

菅原 教修 先生 (1期) (平成25年6月5日逝去)	塚本 行雄 先生 (13期) (平成24年12月6日逝去)
野下 昭彦 先生 (1期) (平成25年1月22日逝去)	増子 強 先生 (17期) (平成25年3月13日逝去)
相上 哲男 先生 (5期) (平成24年9月16日逝去)	大宮 一郎 先生 (19期) (平成24年12月8日逝去)
越前 和俊 先生 (5期) (平成25年11月1日逝去)	久保田文彦 先生 (23期) (平成25年10月16日逝去)
岩橋 信之 先生 (8期) (平成25年10月28日逝去)	土田 俊宏 先生 (30期) (平成25年3月24日逝去)
今野 正純 先生 (9期) (平成24年11月1日逝去)	山田 大爾 先生 (37期) (平成25年9月1日逝去)

謹んで心よりお悔やみ申し上げます。

## 編 集 後 記

このたび、広報第28号を発行させていただきました。

本号編集にあたり、お忙しいところご寄稿くださいました全ての方々に感謝申し上げます。

私が居住する岩手県内では、自院が津波により全壊したにもかかわらず、仮設の診療所を経て本院の新規移転開業を果たされた先生が多数おられます。しかし一方で、地域の復興計画に伴う用地取得の障害や、福島等では先の見えない原発問題など、復興には程遠い先生方もおられることと存じます。東日本大震災津波の記憶が薄れることなく、会員相互が共有するため、2年半以上が経過したこの時期に、この大災害に直面した先生方にご寄稿をお願いしたところでした。本号では、14名の先生方には趣旨にご理解賜り、執筆いただき本当にありがとうございました。

広報部で運営・管理している「岩手医科大学歯学部同窓会ホームページ (HP)」ですが、学術研修部のご協力をいただきながら、随時更新しております。しかしながら、十分に周知されていないのか、アクセス数が伸び悩んでおります。会員の先生方にもっともっと関心を持っていただけるよう鋭意努力しておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

広報部長 15期 三善 潤

## 岩 手 医 科 大 学 歯 学 部 同 窓 会 事 務 局 連 絡 先

〒020-8505 岩手県盛岡市中央通1-3-27  
岩手医科大学内 (循環器センター10階)  
TEL : 019-651-5111 (内7004) FAX : 019-624-8380  
E-mail : info@keiryokai.gr.jp

印刷所：河北印刷 (株)



Thinking ahead. Focused on life.

# Soaric

人を大切にしたデザインとテクノロジーから生まれました

## The New PdW Style

直感的で自然な動作での診療を可能にする、先進のトレーシステム。  
ユニットへの組み込みが可能な、マイクロスコープと根管長測定機器。  
小型ボディに根管治療機能が搭載された、新開発マイクロモーター。  
そのディテールに至るまで一貫して表現された、洗練のデザイン。

# Debut

発売

株式会社 **モリタ**

大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18  
〒564-8650 TEL 06-6380-2525  
東京本社 東京都台東区上野2-11-15  
〒110-8513 TEL 03-3834-6161

製造販売・製造

株式会社 **モリタ製作所**

本社工場 京都府京都市伏見区奥浜町680  
〒612-8533 TEL 075-611-2141  
久御山工場 京都府久世郡久御山町大字市田小学新珠城190  
〒613-0022 TEL 0774-43-7594

販売名: ソアリック

一般的名称: 歯科用ユニット

機器の分類: 管理医療機器(クラスII)

特定保守管理医療機器

医療機器認証番号: 222ACBZX00016000

[www.dental-plaza.com](http://www.dental-plaza.com)



We try best!  
For healthy and white teeth

< 盛岡支店 >

〒020-0125 盛岡市上堂 1-6-5

TEL 019 (648) 2777 Fax 019 (648) 2778



株式会社 岩瀬歯科商会

本社 〒110-0016 東京都台東区台東 2-23-7

宇都宮支店 水戸支店 松戸支店 千葉支店 上野支店 古河支店 福島支店  
世田谷支店 練馬営業所 横浜支店 前橋支店 厚木支店 大宮支店 東大和支店

お客様に夢と健康をお届けします



株式会社 岩手ホテル&リゾート  
| 盛岡グランドホテル | 安比高原



## この手で守る自然と資源

きめ細やかな営業ネットワークで、全国をカバーいたします。

- 貴金属リサイクル
- 医療用廃棄物の無害化処理・リサイクル
- 処理実績報告書の作成サポート
- 電子マニフェストシステム対応

「個別管理システム」が実現した  
業界 **No.1** の実績

ISO14001・ISO9001取得



(社)日本金地金流通協会 正会員

アサヒホールディングス株式会社 東証一部上場:5857

## アサヒプリテック株式会社

貴金属事業部

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー

TEL (03) 6270-1831 FAX (03) 6270-1825 URL <http://www.asahipretec.com>

■営業所/札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、甲府、静岡、名古屋、北陸、大阪、神戸、岡山、広島、四国、福岡、鹿児島、沖縄

**ASAHI PRETEC**

## さあ、あなたも、 ハッピーボーナス！

1年後がお楽しみ！ぜひご入会ください！

### 【川徳友の会会員募集中】

「川徳友の会」は、お好きなコースを選んで、12ヵ月間毎月お積立teいただくと、満期時に、お積立te総額「1ヵ月分のお買物ボーナス券」をプラスしてお受け取りいただけます。

【ご入会・お問合せは】 川徳6F/友の会サロン(内線)3635・3636

月々  
**3,000円**  
積立コース

12ヵ月後満期お渡し額

【12ヵ月のお積立額に】

**プラス 3,000円**  
のお買物ボーナス券をプレゼント！

- 川徳友の会お買物券……36,000円
- お買物ボーナス券……3,000円

**39,000円**

月々  
**10,000円**  
積立コース

12ヵ月後満期お渡し額

【12ヵ月のお積立額に】

**プラス 10,000円**  
のお買物ボーナス券をプレゼント！

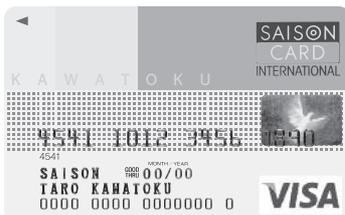
- 川徳友の会お買物券……120,000円
- お買物ボーナス券……10,000円

**130,000円**

メリットいっぱい、二つのカード。

### 【カワトクカード会員募集中】

川徳はもちろん、国内・海外で幅広くご利用いただけるカードです。川徳でのクレジットご利用で、カワトクポイントに加え セゾン永久不減ポイントがダブルで貯まります。



【カワトクPカード】

川徳でお使いいただける現金専用カードです。クレジット機能はございません。

**KAWATOKU**  
川徳  
盛岡市菜園1丁目10番1号  
電話(019)651-1111(代表)  
[kawatoku.com](http://kawatoku.com)

## 医療廃棄物回収、貴金属分析買取 当社にお任せください。

私たちの運んでいるものはただの廃棄物ではありません。資源と自然環境に戻るための「エコ」を運んでいるのです。廃棄物を最小限にすること。捨てるのではなく再生させること。わたしたちは「環境先進企業」を目指して資源循環社会に取り組んでいます。

医療廃棄物収集運搬

貴金属含有物の分析買取

蛍光管の販売・賃貸・処分

レントゲンフィルム処分

機密書類リサイクル

医療機器類リサイクル

◎ 詳しくはお問合せください。

貴金属高価買取  
いたします!

# ニッコフ・メディア・システム株式会社



〒029-1111 岩手県一関市千厩町奥玉字天ヶ森 75 番 6

TEL 0191-56-2601(代) FAX 0191-56-2619

わたしたちは「医療を支える廃棄物回収」で復興を支援します。

URL <http://www.nikkofm.co.jp>

電子マニフェストで  
法令順守と  
事務処理の合理化を。

経済的に  
でも  
ちょっと地球にいいこと。

ISO14001 認定取得

岩手県基準適合産業廃棄物処理業者  
いわて地球環境にやさしい事業所



# 豊かさと調和

## 明るい歯科医療環境づくりの お役に立ちます。

歯科医療機器材総合商社 **ササキ株式会社**



<http://www.sasaki-kk.co.jp>

盛岡支店 〒020-0851 盛岡市向中野3-28-21 ☎(019)636-2800 FAX(019)636-2801

盛岡秋田店 〒010-0944 秋田市川尻若葉町4-37 ☎(018)862-0608 FAX(018)823-0933

本社 〒440-8518 豊橋市八町通5-7 ☎(0532)55-6811 FAX(0532)55-5658

〈支店・営業所〉札幌、旭川、青森、八戸、函館、盛岡、秋田、仙台、郡山、山形、新潟、長岡、東京、本郷、池袋、東京北、柏、埼玉、千葉、八王子、川崎、横浜、厚木、甲府、松本、長野、沼津、静岡、浜松、豊橋、岡崎、名古屋、名古屋駅前、名古屋南、一宮、岐阜、津、四日市、大阪、高槻、堺、神戸、姫路、福岡、鹿児島、熊本

## すべては徒歩圏内に 絶好のロケーション

JR 盛岡駅に直結のホテルメトロポリタン盛岡 本館  
ワンランク上のサービスを提供する NEW WING

2つのホテルを拠点に盛岡駅周辺には大型コンベンションを  
開催できる環境が整っています。市内では最大の1500名を  
収容可能なコンベンションホールを有するマリオスや500名の  
会議が可能なアイーナもホテルから徒歩での移動が可能です。



私たちはホテルならではのおもてなしで  
大切なお客様をお迎えいたします



〈本館〉

盛岡駅北口より徒歩1分  
客室190室／駐車場530台

〈NEW WING〉

盛岡駅北口より徒歩3分  
客室121室／駐車場100台



ホテルメトロポリタン盛岡

TEL: 019-625-1211 (大代表)  
<http://www.metro-morioka.co.jp>

本館 / 盛岡市盛岡駅前通 1-44  
NEW WING / 盛岡市盛岡駅前北通 2-27

## OLD & NEW

# 創業90余年の「歴史と実績」

そして次代をみつめて...

後藤歯科商店は、歯科材料・器械器具の販売に加え、最も大事なアフターケア  
においても、様々な場面でお客様のサポートをさせて頂いております。

今後も、よりいっそうお客様の立場に立ったハートフルな対応で、ご満足いただ  
ける商品とサービスの提供に努めてまいります。



株式会社 後藤歯科商店

本社/本店	福島市中町7-1	TEL 024-522-2755(代)
盛岡店	盛岡市月ヶ丘1丁目26-57	TEL 019-648-0811
横手店	横手市婦気大堤字谷地添99-2	TEL 0182-33-4242
山形店	山形市江南1丁目11-26	TEL 023-684-9236
秋田店	秋田市泉北2丁目3-2	TEL 018-896-0155
会津店	会津若松市真宮新町北3丁目20-4	TEL 0242-93-9201



# UP 100 YEARS

おかげさまで100周年。これまでも、これからも。

[www.uchiyama-dental.jp](http://www.uchiyama-dental.jp)



歯科医療の未来をつくる

**株式会社 ウチヤマ**

本社 / 〒980-0013 仙台市青葉区花京院一丁目4番8号  
TEL 022-262-6210(代) FAX 022-262-6207  
盛岡営業所 / 〒020-0866 盛岡市本宮六丁目24番43号 1F  
TEL 019-635-7750(代) FAX 019-635-7709

## Creative imagination

- 記念誌
- パンフレット
- ポスター
- チラシ
- 情報誌
- 企画印刷物

 **河北印刷株式会社**

〒020-0015 盛岡市本町通2丁目8-7  
TEL (019) 623-4256 FAX (019) 623-0976  
mail office@kahoku-ipm.jp URL <http://kahoku-ipm.jp>

醫  
藥  
市

